

第2期 | 2024 to 2028

沖縄市スポーツ推進計画

誰もが生涯を通じ

スポーツに親しむことができる

スポーツコンベンションシティ



令和6年3月

SPORT CONVENTION CITY

INDEX

| | | |
|------------------|-------------------|-----------|
| Chapter 1 | 計画の策定にあたって | 1 |
| 01 | 計画策定の趣旨 | 3 |
| 02 | 計画の位置付け | 4 |
| 03 | 計画の期間 | 4 |
| 04 | 計画が対象とするスポーツの範囲 | 5 |
| Chapter 2 | スポーツに関する現況 | 7 |
| 01 | 政策的動向 | 9 |
| (1) | 国の動向 | 9 |
| (2) | 沖縄県の動向 | 10 |
| (3) | 本市の動向 | 11 |
| 02 | 本市を取り巻く状況及び本市の特徴 | 13 |
| (1) | するスポーツ | 13 |
| (2) | みるスポーツ | 17 |
| (3) | ささえるスポーツ | 19 |
| Chapter 3 | めざす姿 | 21 |
| 01 | 将来像と方向性 | 23 |
| (1) | スポーツの振興 | 24 |
| (2) | スポーツによる振興 | 25 |
| 02 | 方向性ごとの方針 | 26 |
| 方向性 1 | スポーツの振興 | 26 |
| 方向性 2 | スポーツによる振興 | 26 |

Chapter 4 施策展開 **27**

| | |
|--------------------------------|----|
| 01 施策体系 | 29 |
| 02 基本施策および具体施策 | 31 |
| 方針1 状況に応じた柔軟なスポーツ機会をつくり・はぐくむ | 31 |
| 方針2 誰もがアクセスできるスポーツ環境を整える | 39 |
| 方針3 スポーツであつまりともに活動し つながりをつくり出す | 44 |

Chapter 5 計画の推進にあたって **49**

| | |
|--------------------------------|----|
| 01 成果指標 | 51 |
| (1) 成果指標・目標値 | 51 |
| (2) 成果指標の考え方 | 51 |
| 02 推進体制 | 52 |
| (1) 他分野との横断的な取組み | 52 |
| (2) 国や県との整合性 | 52 |
| (3) 関係団体との連携 | 52 |
| 03 庁内推進体制 | 53 |
| 方針1 状況に応じた柔軟なスポーツ機会をつくり・はぐくむ | 53 |
| 方針2 誰もがアクセスできるスポーツ環境を整える | 55 |
| 方針3 スポーツであつまりともに活動し つながりをつくり出す | 57 |
| 04 進行管理 | 59 |

Chapter 1 計画の策定にあたって

- 01 計画策定の趣旨
- 02 計画の位置付け
- 03 計画の期間
- 04 計画が対象とするスポーツの範囲

01 計画策定の趣旨

本市では、市民がスポーツの多様な効果・効用を十分享受できるよう、市民の参画と多様な主体との協働を柱とする「沖縄市スポーツ推進計画」を平成25(2013)年度に策定し、これまで具体的な取組みを進めてきました。

しかしながら、令和2(2020)年当初から世界中を席捲した新型コロナウイルス感染症は、市民のスポーツ環境に大きな影響を与えました。外出が制限されるような状況が長く続いたことで、高齢者のフレイルや子どもたちの生活習慣の変容など、新たなリスクも顕在化しました。

一方、感染動向の収まりもあって、FIBAバスケットボールワールドカップ2023が開催されるなど、改めてスポーツの気運の高まりが戻りつつあります。

また、競技スポーツ人口の減少や指導者の高齢化、学校部活動の地域移行など、スポーツを取り巻く環境も前計画の策定当時とは大きく変容しつつあります。

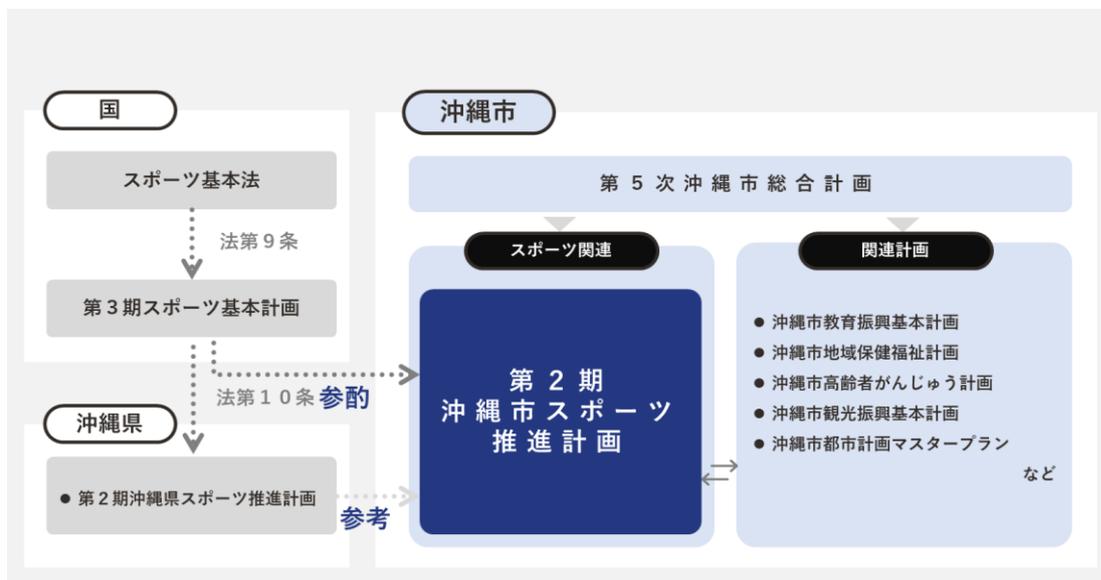
こうした状況にあっては、本市としてスポーツの意義や役割を改めて捉えなおし、アフターコロナを見据えたこれからの暮らしのなかで、スポーツが日常の暮らしのルーティンとして溶け込むことができるよう計画的、体系的に取り組んでいく必要があります。

したがって、この先5年間を見据えた第2期スポーツ推進計画を取りまとめるものとします。

この計画は、前計画や総合計画における経過を現在の状況に置き換え、今後の5年間の本市のスポーツ振興の羅針盤となるものです。

02 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法に基づき、国のスポーツ基本計画を参酌し、本市の最上位計画である第5次沖縄市総合計画との整合を図り、スポーツ行政のビジョンと方向性を示すものです。また、本市の各分野における関連計画との連携を図ります。



図表 1 計画の位置付け

03 計画の期間

計画期間は、令和6（2024）年度から令和10（2028）年度までの5年間とします。

04 計画が対象とするスポーツの範囲

以下の国や県の捉え方を踏まえ、本計画では、野球やバスケットボール、サッカーなどの競技種目やレクリエーション¹活動のほか、健康のための散歩や体操などの軽い運動、さらに徒歩や自転車による通勤や買い物などの日常生活における活動など、意識的・継続的に行う様々な身体活動のことを「スポーツ」として幅広く捉え、これまでスポーツに縁のなかった方にも気軽に親しんでいただくことを目指します。

国の捉え方

- ① 『スポーツは、「する」「みる」「ささえる」という様々な形での参画を通して、人々が感じる「楽しさ」や「喜び」に根源を持つ身体活動』
- ② 『その身体活動自体に、心身の健全な発達、健康・体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心などの精神の涵養等のあらゆる「自発的」な意思に基づいて行われるもの』

県の捉え方

- ③ 「楽しさ」や「喜び」に根源を持つ、心身の健康等のために自発的に行われる身体活動を広くスポーツと捉える。

図表 2 国・県におけるスポーツの捉え方



図表 3 本市（本計画）におけるスポーツの範囲

¹ 人々のやる気や意欲、心の元気を高めること（（公財）日本レクリエーション協会）。また、スポーツ・レクリエーションは、スポーツを手段として活用することで心を元気にするとともに、スポーツを通じた健康増進 効果をねらうもの（（公財）日本レクリエーション協会、スポーツ基本法）

近年、社会情勢の変化は著しい中で、体を動かすという人間の本源的な欲求を満たす直接的な力のみならず、個人レベルから社会レベルまで広く好影響を波及させ地域課題の解決方策として活かされることが期待される活動として改めて注目されています。



図表 4 スポーツの力に期待される効果

Chapter 2 スポーツに関する現況

- 
- 01 政策的動向
 - 02 本市の現況・特徴

01 政策的動向

(1) 国の動向

第3期スポーツ基本計画の策定にあたり、新たに3つの視点を追加しています。

| | |
|---------------|--|
| つくる／はぐくむ | 既存の枠組みや考え方のみにとわられず、見直し・改善し、最も適切・有効な、個々の状況等に応じた方法やルールを考え出したり、創り出す |
| あつまり、ともに、つながる | 様々な立場にある人々が「ともに」「つながり」を感じながらスポーツを楽しめる社会の実現を目指す |
| 誰もがアクセスできる | 年齢や性別、障がい、経済的事実等によってスポーツを諦める、途中でやめることのない社会の実現を目指す |

図表 5 スポーツ基本計画における新たな視点

出典：第3期スポーツ基本計画、R4

また、今後5年間にわたって総合的かつ計画的に取り組む施策として以下を挙げています。

| | | |
|--------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 多様な主体における スポーツの機会創出 | スポーツ界における DX ² の推進 | 国際競技力の向上 |
| スポーツの 国際交流・協力 | スポーツによる 健康増進 | スポーツの 成長産業化 |
| スポーツによる地方創生 まちづくり | スポーツを通じた 共生社会の実現 | スポーツ団体のガバナンス 改革・経営力強化 |
| スポーツ推進のための ハード、ソフト、人材 | スポーツを実施する者の 安全・安心の確保 | スポーツ・インテグリティ ³ の確保 |

図表 6 今後5年間に取り組む12の施策

出典：第3期スポーツ基本計画、R4

² DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、組織や企業がデジタル技術を活用してビジネスのプロセスやビジョンを変革し、競争力を向上させること

³ 高潔さ・品位・完全な状態を意味する言葉。スポーツにおける「インテグリティ」とは、「スポーツが様々な脅威により欠けるところなく、価値ある高潔な状態」を指す。

(2) 沖縄県の動向

県のスポーツ推進計画では、「インナー施策⁴とアウトナー施策⁵の両輪によりスポーツアイランドを形成する」ことを謳っており、とりわけスポーツコンベンション⁶やスポーツビジネスを重要視したつくりとなっています。

そのようななかで、「F I B Aバスケットボールワールドカップ 2023 の開催支援」を始めとし、「スポーツマネジメント人材の育成」、「スポーツ医・科学（スポーツ・ヘルスケアサイエンス）拠点の構築」「D Xの推進による県民へのスポーツをする機会の提供」「スポーツを通じた多様な社会課題解決及び国際貢献」等の新規取組を掲げています。

沖縄総合事務局が所管していた沖縄スポーツ・ヘルスケア産業クラスター推進協議会⁷を母体に、「スポーツを観光・ITに次ぐ第三の産業に！」という想いを受け継ぐ形で一般社団法人沖縄スポーツ関連産業協会（ワンスポ沖縄）が設立されています。

基本理念

世界にはばたき躍動する「スポーツアイランド沖縄」の形成

「スポーツアイランド沖縄」とは

- ① 県民が健康・長寿であるため生涯を通してスポーツを楽しむこと
- ② 国内外で活躍するトップアスリートを輩出すること
- ③ 我が国の南端のスポーツ交流拠点として年間を通したスポーツコンベンションが開催されること
が実現され、かつ
- ④ 沖縄の地理的特徴や恵まれた自然・温暖な気候、特色ある地域・文化・産業とスポーツを関連づけ、スポーツの持つソフトパワー⁸を活用することにより、地域・経済の活性化につながる取り組みが全県的に行われていること
という状態になっていることを指す

図表 7 沖縄県スポーツ推進計画の概要

出典：第2期沖縄県スポーツ推進計画、R4

⁴ スポーツを活用した地域内住民向けの健康の維持増進・共生社会の実現などの推進施策をいう。

⁵ スポーツを活用した海外・国内他地域といった地域外からの交流人口の拡大の推進施策をいう。

⁶ スポーツに関係する合宿、キャンプ、自主トレ、大会、イベントなどの総称。沖縄では、温暖な気候のもと1年中さまざまなスポーツを行うことができ、プロスポーツのキャンプや国際的なスポーツ大会が開催されるなど、スポーツコンベンションが盛んであることから本計画でもスポーツコンベンションのさらなる推進を図ることとしている。

⁷ スポーツ・ヘルスケア産業に関連する企業、経済団体、大学・学術団体、金融機関、産業支援機関、行政等の産学官の有機的なネットワークを基に、沖縄が持つポテンシャルを活かし新分野・新事業等に挑戦する取組を支援することにより、国際競争力のあるスポーツ・ヘルスケア関連産業の創出、沖縄観光産業等の高付加価値化、健康寿命の延伸等を促進し、沖縄地域の経済活性化及び社会的課題の解決に資することを目的とした協議会。

⁸ 米国ハーバード大学のジョセフ・ナイ教授が提唱した概念。軍事力などの強制的な力により他国に影響力を及ぼすハードパワーに対し、文化、価値観、イデオロギーなど目に見えない間接的な影響力を振り所にした力を指す。沖縄のソフトパワーとしては、独自の歴史・文化、健康・長寿、豊かな自然環境、ユイマールの精神や平和を望む県民の心などが挙げられる。

(3) 本市の動向

前計画の進捗について、アウトプット（取組）とアウトカム（成果）の視点で以下のとおり整理しました。

① アウトプット評価

目標単位でみると目標1に関して堅調に遂行してきており、施策単位でみるとスポーツコンベンションに関する取組みに注力してきています。

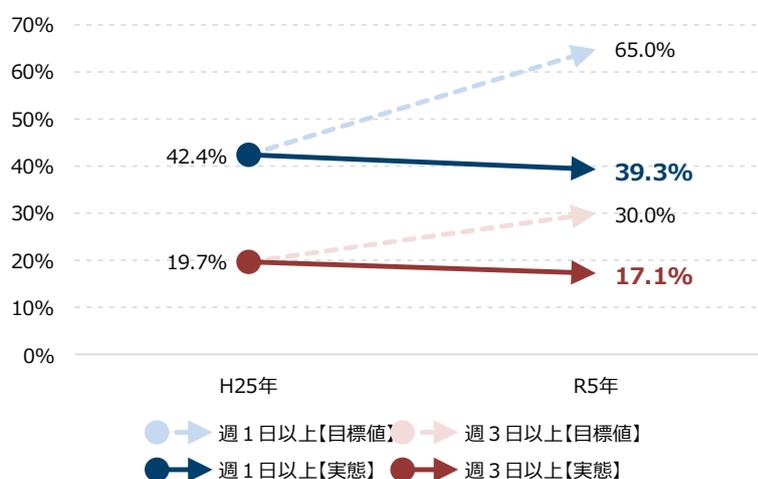
| 基本理念 | | | | | |
|--|-------------------------------|----------------------------------|---------------|--------------------------|--|
| スポーツを通した『身体づくり、人づくり、仲間づくり』 ～自分らしく楽しみ、活気と共感に満ちたスポーツ交流のまちづくり～ | | | | | |
| 基本方針 | | | | | |
| 生涯スポーツの振興 | | 競技スポーツの振興 | スポーツ・ツーリズムの振興 | | |
| 目標 | 施策 | 進捗評価 | 成果指標 | | |
| 1 | スポーツと身近に触れ合える環境づくり・きっかけづくりの推進 | スポーツを知り・体験するきっかけづくり | 1.55 | 指標1 成人のスポーツ実施率 | |
| | | スポーツを楽しむことのできる環境整備 | 1.58 | | |
| | | スポーツに関する情報の発信・意識啓発 | 1.71 | | |
| 2 | ライフステージに応じた市民のスポーツ活動の推進 | 幼少期・青少年期における発達段階に応じた運動・スポーツ活動の推進 | 1.46 | | |
| | | 成人の継続的な運動 スポーツ活動の推進 | 1.44 | | |
| | | 高齢期の生きがいスポーツ・介護予防等の推進 | 1.60 | | |
| | | 障がい者の生きがい・交流スポーツの推進 | 1.50 | | |
| 3 | スポーツを支える人づくり・地域づくり・まちづくり | 総合型地域スポーツクラブの周知・活性化 | 1.00 | | 指標2 市内総合型地域スポーツクラブに参加した市民の延べ人数 |
| | | 地域スポーツを支える人材・団体等の育成 活用 | 1.25 | | |
| | | スポーツコンベンションシティの構築による多様な交流の推進 | 1.83 | | |
| A 実施した（定期的に行っている） | | 2 pt | | | |
| B 実施していた（計画期間途中から実施しなくなった） | | 1 pt | | | |
| C 実施していない | | 0 pt | | | |

図表 8 前計画における各種施策の進捗

② アウトカム評価

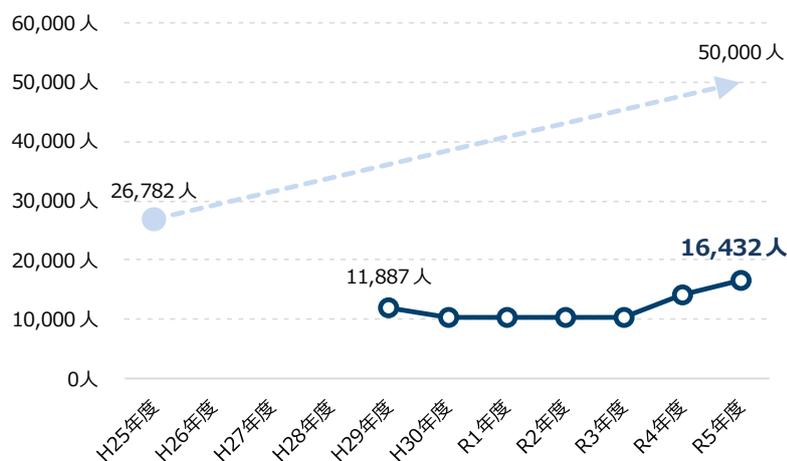
スポーツ実施率は頻度によらず週1日以上、週3日以上ともに微減傾向にあり、目標に対して大きく未達となりました。新型コロナウイルス感染症の影響等の要因が考えられます。

総合型地域スポーツクラブ⁹の参加者数は、途中からの計測ではあるものの、直近数年の傾向（傾斜）をみると、上昇率としては目標とした推移に近い傾きを示しています。



図表 9 指標 1「成人のスポーツ実施率」推移

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5



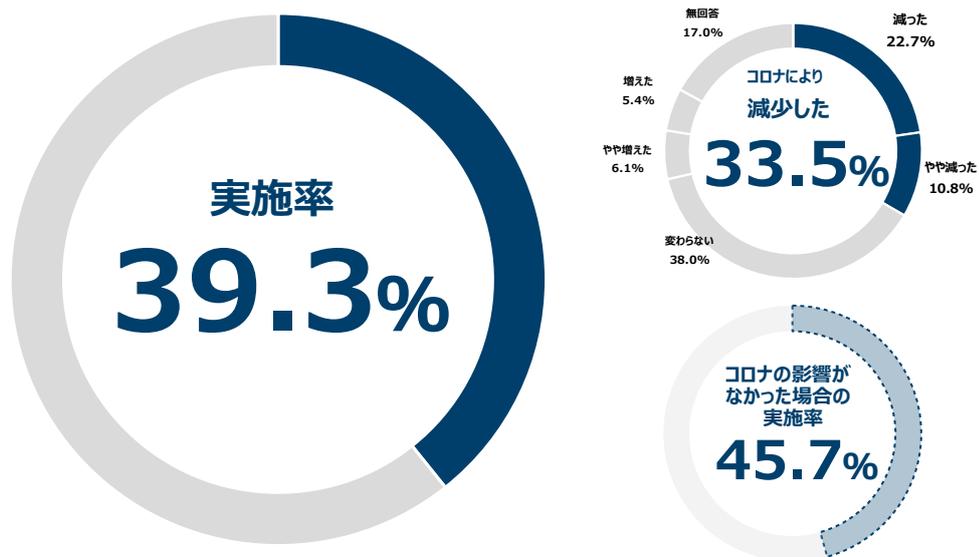
図表 10 指標 2「総合型クラブ参加者数」推移

⁹ 文部省(現:文部科学省)が平成7年度から育成事業により推進している地域スポーツクラブのことで、地域住民のスポーツ活動のより一層の充実を図ることはもとより、地域社会のコミュニティづくりに結びつくという点からも期待されている。総合型いつでも・どこでも・だれでも継続的にスポーツに親しめる環境づくりを目指す、地域に根ざした自主運営型・複合型スポーツクラブのこと。

02 本市を取り巻く状況及び本市の特徴

(1) するスポーツ

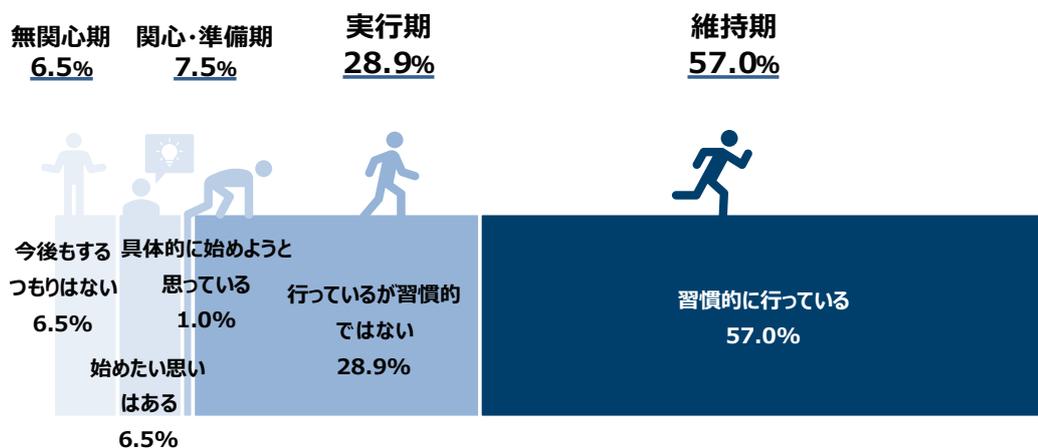
スポーツ実施率は39.3%と現行計画の基準値より微減となりましたが、約1/3の市民がコロナの影響によりスポーツ機会が減少したとしており、その減少がなかった場合には45.7%程度¹⁰であった可能性も考えられます。



図表 11 本市スポーツ実施率

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

また、非実施層は極めて少なく、「(実施頻度が) わからない」を除く内訳で再集計すると、習慣的に行っている人の割合は高いとも言えます。

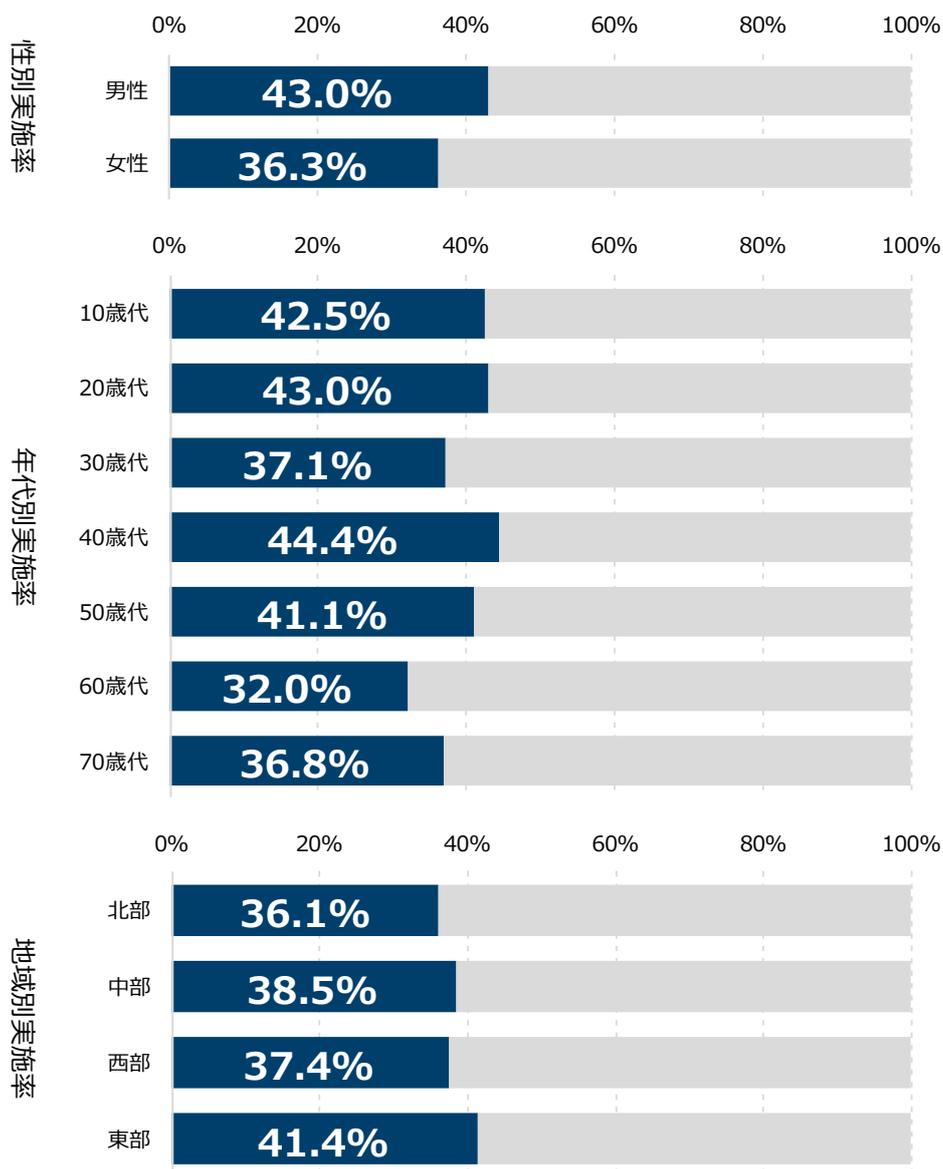


図表 12 段階ごとの分布¹¹

¹⁰ スポーツ実施頻度を「月に1～3日」と回答した市民のうち、「コロナ禍以前と比較してスポーツ実施回数がやや減った・減った」と回答した市民、スポーツ実施頻度を「3ヶ月に1～2日」と回答した市民のうち、「コロナ禍以前と比較してスポーツ実施回数が減った」と回答した市民を加算した数値。

¹¹ 「習慣的に行っている」＝週1日以上、「行っているが習慣的ではない」＝週1日未満～年1日以上

年代別のスポーツ実施率は、全国的には働く世代・子育て世代の20～50代で落ち込む傾向¹²がありますが、本市では高齢者が低い（ビジネスパーソン世代が高い）特徴的な傾向となっています。

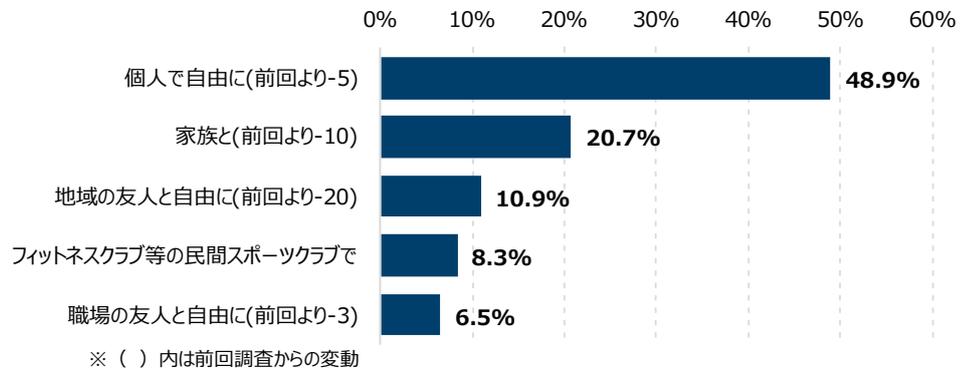


図表 13 属性別スポーツ実施率

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

¹² 第3期スポーツ基本計画より

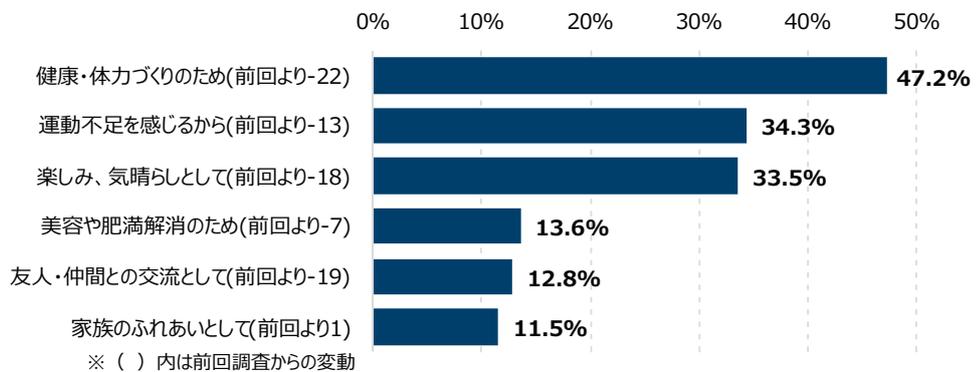
スポーツ実施形態は、現行計画策定時の調査と同様に個人や家族でのスポーツ実施が割合を占める中で、友人との実施はやや減少していることもコロナの影響と考えられます。



図表 14 スポーツ実施形態（上位 5 項目）

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

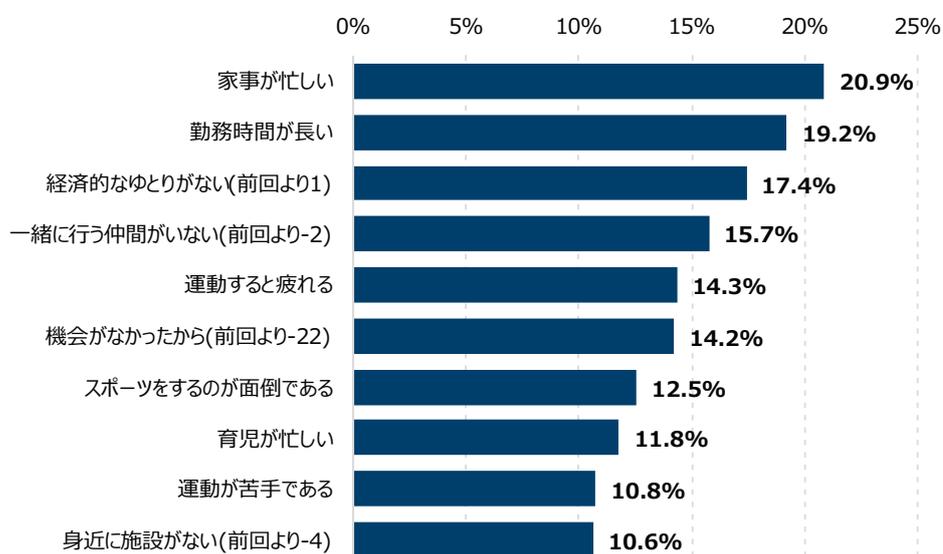
スポーツをする理由は健康や気晴らし等の理由が多い状況です。また家族とのふれあいを理由にあげる声は中位であるものの、前回からの普遍的な動機ともとれます。



図表 15 スポーツをする理由（上位 6 項目）

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

一方、やらない理由は「家事や仕事の忙しさ」によるものが多い状況です。また、「経済的なゆとりがない」という理由が多いことも本市の特徴と言えます。機会がないことを理由にあげる割合が減っていることから現行計画の取組みのなかで一定程度、機会を創出することができていると考えられます。



※ () 内は前回調査からの変動

図表 16 スポーツをしない理由（上位 10 項目）

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

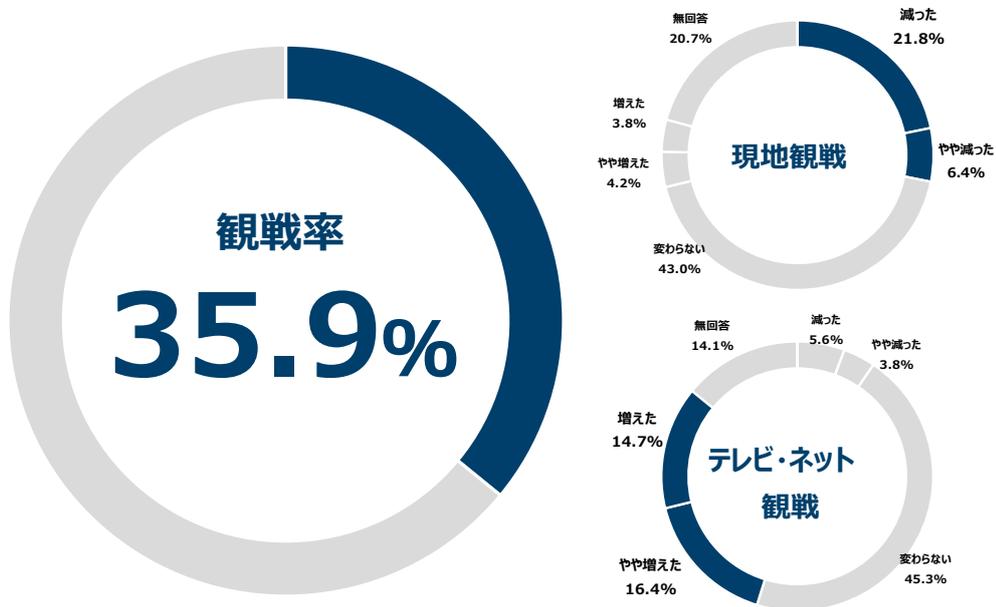
市民のスポーツ活動を下支えする多様な団体

「スポーツで街を元気に」を合言葉に、子どもから大人まで、チャレンジの場を提供する総合型地域スポーツクラブ「サンビスカス沖縄」や、スポーツデイや生涯学習フェスティバル、日々の出前講座等で市民のスポーツ活動を推進するための企画や運営を担うスポーツ推進委員、アンダーカテゴリーの競技大会開催をはじめとした競技力向上に向けた様々な育成活動を担う沖縄市スポーツ協会等の存在が沖縄市スポーツ推進を下支えしています。



(2) みるスポーツ

過去1年間に直接スポーツを観戦した割合は35.9%ですが、コロナの影響により直接観戦が減少し、逆に近年のチャンネルの多様化によるテレビ等の視聴が増えたことによる影響を鑑みると、高い水準にあると言えます。



図表 17 本市スポーツ観戦率

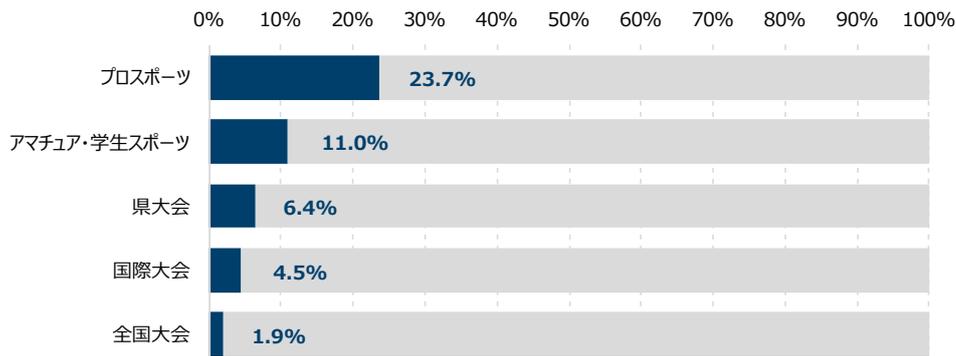
出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

市をあげてスポーツを応援する土壌

本市は現地での観戦率が現行計画策定時から増加しており、本計画策定時の調査においては、全国的な水準と比較しても高い結果となっていることから、市をあげてスポーツを応援する土壌が強みであると言えます。

また、そのような土壌を活かし、スポーツ施設と商店街との連携による街の賑わいや各店舗の売上向上に繋げる取組み等「スポーツの応援」と「スポーツの力の地域への波及」の好循環に向けて取り組まれています。

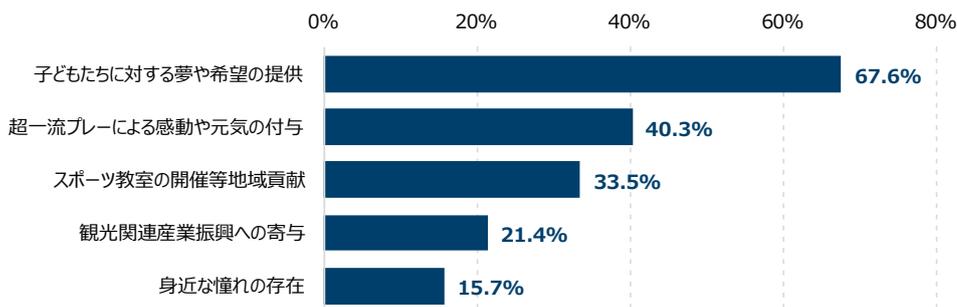
興行としてのスポーツに触れる機会が豊富なこともあり、プロスポーツ観戦が最も高い割合を占めています。



図表 18 観戦対象の競技レベル

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

それらプロスポーツには子どもや大人の心を動かすプレーや、地域社会・経済への貢献が期待されています。



図表 19 プロスポーツに期待すること（上位5項目）

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

本市の強みである豊富なスポーツチームとのかかわり

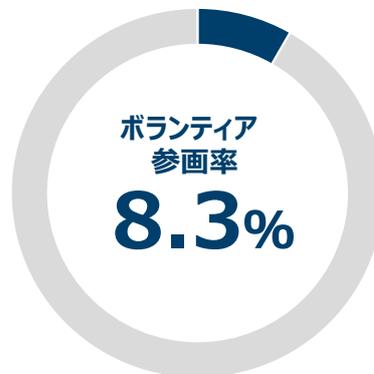
本市をホームタウンとする「FC琉球」や「琉球ゴールデンキングス」、本市をサブホームタウンとする「パナソニックパンサーズ」、春季キャンプに訪れる「広島東洋カープ」等、プロスポーツに触れる機会が豊富です。

沖縄市をホームタウン・サブホームタウンとするプロスポーツチーム等と連携し、プロスポーツチームのファンが試合観戦を目的に旅行する「アウェイツーリズム」を核とした誘客拡大に取り組んでいます。



(3) ささえるスポーツ

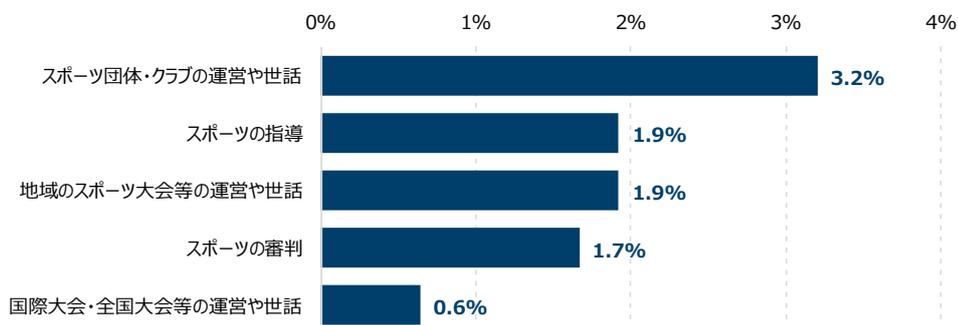
過去1年間におけるスポーツボランティアへの参画率は8.3%と概ね全国的な水準に近い割合となっています。



図表 20 スポーツボランティア参画率

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

指導や審判等技術の必要なものに比べ、組織運営への関与が比較的多い傾向が見て取れます。



図表 21 参画したスポーツボランティアの種類

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

スポーツコミッション¹³主導によるスポーツボランティアの取組み

本市では、沖縄市スポーツコミッションが中心となり、沖縄市でのスポーツイベント等における会場内外整理、受付、参加者誘導、運営補助、交通整理などに協力いただけるボランティアを募集しています。



¹³ 地方公共団体、スポーツ団体、民間企業等が一体となり、スポーツによるまちづくり・地域活性化を推進していく組織の総称であって、以下の4要件を備えるもの。①地方公共団体、スポーツ団体（体協、総合型等）、民間企業（観光協会、商工団体、大学、観光産業、スポーツ産業等）などが一体として活動を行っていること。②常設の組織であり、時限の組織でないこと。③スポーツツーリズムの推進やスポーツ合宿・キャンプの誘致など域外交流人口の拡大に向けたスポーツと地域資源を掛け合せたまちづくり・地域活性化のための活動を主要な活動の一つとしていること。④単発の特定の大会・イベントの開催及びその付帯事業に特化せず、スポーツによる地域活性化に向けた幅広い活動を年間を通じて行っていること。

近年の本市スポーツに関する出来事

第1期の沖縄市スポーツ推進計画(以下、前計画という)から 10 年が経ち、本市のスポーツを取り巻く環境は 10 年前とは大きく変わってきました。とりわけ、プロスポーツやスポーツツーリズム¹⁴等アウター施策において、大きく変化してきたかと思います。

例えば、これまでも本市とともに歩みを進めてきた FC 琉球の J3 優勝、また、ホームアリーナとなる沖縄アリーナの完成後、より関係性を強めてきた琉球ゴールデンキングスの西地区 6 連覇、悲願の B リーグ優勝等、盛り上がりを見せてきました。

東京オリンピック・パラリンピックでは、喜友名諒選手の金メダル獲得や上与那原寛和選手の 2 つの銅メダル獲得の活躍もありました。さらに県出身選手の活用のみならず、空手のニュージーランドチームのホストタウンとして、男子バレーボールのフランスチームの事前合宿地として、関わりが生まれてきました。バレーボールに関しては、オリンピックで金メダル獲得、翌年の FIVB バレーボールネーションズリーグ 2022 でも、優勝するなどの成果を出しています。

また、世界的にアーバンスポーツ¹⁵人気が高まるなかで、FIBA バasketボールワールドカップの前には、ブレイクダンスの世界大会である「BATTEL OF THE YEAR 2022 WORLD FINAL」のアジア初開催が沖縄アリーナで行われ、世界各地 12 チームが参加し、沖縄市で行われました。

こうした取り組みや今後への展望が評価され、「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰 2021」にて、「沖縄市スポーツコンベンションシティ 3.0 加速化プロジェクト」がスポーツ庁長官賞を受賞しています。



スポまち！長官表彰 2021 受賞（本市ホームページ）

¹⁴ スポーツを「みる(観戦)」、「する(楽しむ)」だけでなく、スポーツそのものを観光資源として捉え、他の地域資源や観光資源とも組み合わせることで、スポーツを通じた新たな旅行の魅力を創り出す観光スタイルのこと。

¹⁵ 主に“都市資源”を活用した新しい運動種目である。「都市型スポーツ」とも呼ばれ、一般的に競技に限ったスポーツではなく、非競技の種目もアーバンスポーツには含まれる。東京 2020 大会にて、新たに「スケートボード」や「BMX」などのアーバンスポーツが正式種目に採用されるなど、若者を中心に近年人気を集めている。

Chapter 3 めざす姿

- 01 将来像と方向性
- 02 方向性ごとの方針

01 将来像と方向性

1996年に、“スポーツコンベンションシティ”を宣言して以降、コザ運動公園や沖縄県総合運動公園等の県内最大規模のスポーツ施設を活かし、プロ・アマ問わず数多くのスポーツ団体及び選手がトレーニング・キャンプに訪れているまちを実現してきました。また、2012年以降はホームタウン制度による地域密着型プロスポーツ支援や東京2020に向けた海外チームとのホストタウン協定等スポーツコンベンションシティとしての第2フェーズを展開してきました。

これらの段階を経て、2021年以降は“スポーツコンベンションシティ 3.0”と銘打ち、スポーツコミッションの設立・多角化や東京2020オリパラ、FIBAバスケットボールワールドカップ2023のレガシー継承等、新たな展開を加速化しているところです。

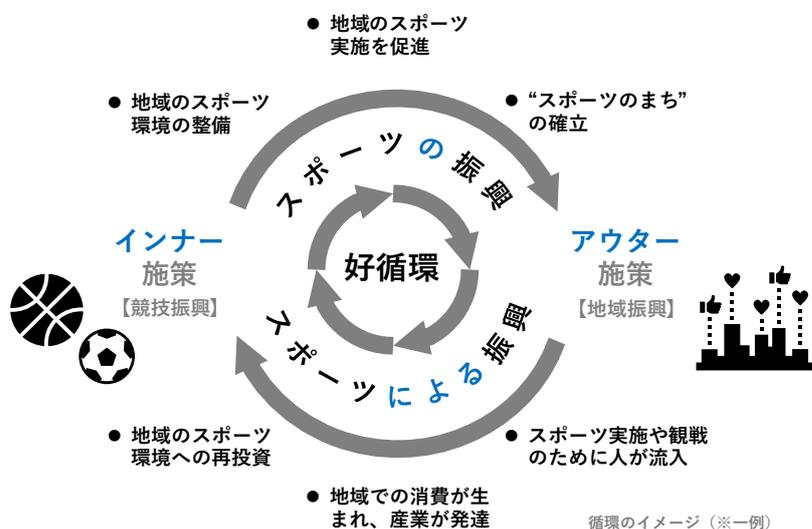
このように本市は単なるスポーツ振興に留まらず、スポーツコンベンションシティを標榜し、スポーツの力を活用したまちづくりに取り組んできた経緯があります。

一方でこれらの源は、地域に根付いたスポーツ文化であり、外部の人にとって魅力的な“スポーツコンベンションシティ”であるためには、地域の人にとって魅力的な“スポーツシティ”であることが必要条件です。

つまり、地域住民のための、“スポーツそのものの振興”により、市全体でのスポーツに対する積極的な関わりを促していくことが肝要であり、そのためには全ての市民が生涯を通じてスポーツに親しむことのできるまちの実現が必要です。

したがって、このような地域内外へ向けた取組みの好循環により、スポーツ推進を通じた本市の将来像として以下を掲げます。

誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことができる スポーツコンベンションシティ



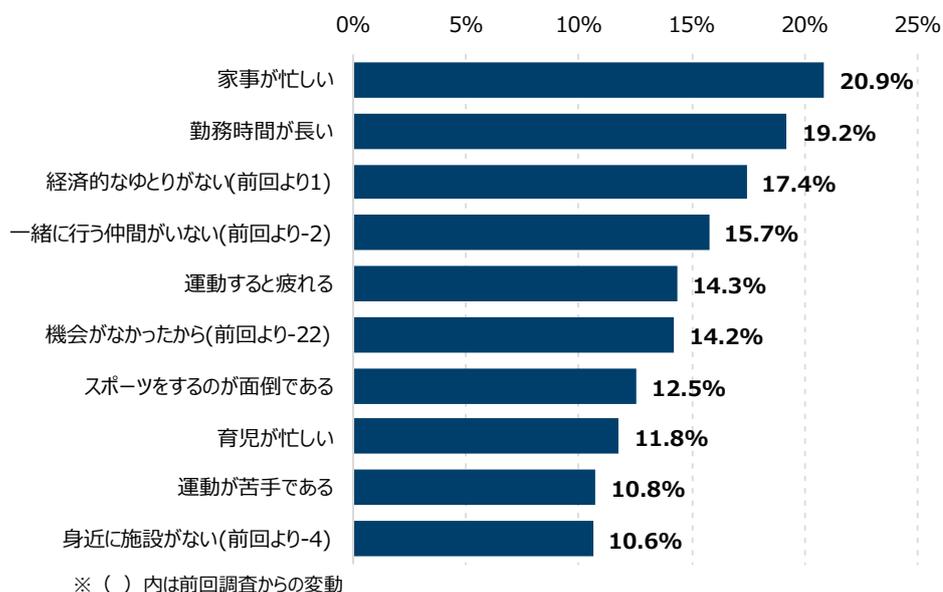
図表 22 スポーツ施策の循環イメージ

(1) スポーツの振興



本市のスポーツ実施率（週1回以上運動する人の割合）は、39.3%となっており、沖縄県平均の58.3%や全国平均の56.4%、また国のスポーツ基本計画における目標値70%に比べると、低い状況となっています。

スポーツをしない理由としては、「家事が忙しい」や「勤務時間が長い」、「経済的なゆとりがない」等が挙がっています。機会の損失については、約1/3程度の市民が感染症対策の影響による減少を感じていますが、約半数が「変わらない」かむしろ「増加傾向」にあるとしていることを鑑みると、本市のスポーツ実施率に関する課題は感染症蔓延以前からの傾向であることがわかります。



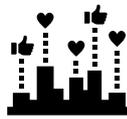
図表 23 スポーツをしない理由（上位10項目）再掲

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

一方で、非実施層の今後の実施意向では、「具体的に始めようと思っている」「始めたい思いはある」が57.1%を占めることから、スポーツの心理的・物理的ハードルを緩和することによって“時間がなくても”、“お金をかけなくても”スポーツに親しむことができる環境づくりや意識づけが効果的であると言えます。

このような現状を踏まえ、市民一人ひとりが運動・スポーツをさまざまな形で“楽しみ”心身ともに元気に生き活きと自分らしく暮らすことができるよう、スポーツの振興に取り組みます。

(2) スポーツによる振興

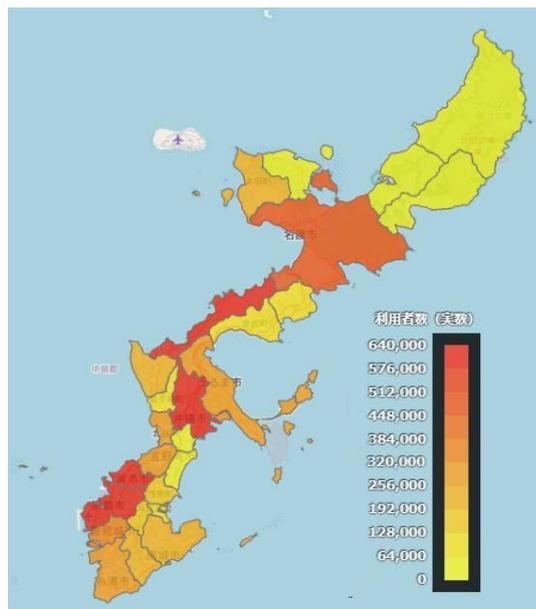


過去1年間に直接スポーツ観戦を行った市民の割合は35.9%と、全国平均が23.3%であることを踏まえると、極めて高い水準にあると言えます。要因として、FIBAバスケットボールワールドカップ2023等の大型スポーツイベントの開催をきっかけとした関心の高まり、県内に拠点を張るプロクラブチームやトップチームの存在が考えられます。

このようなスポーツ観戦率の高さは、市場の大きさとも換言できます。

観戦需要としては、県調査によると本市で行われたFIBA予選window4の1試合における経済波及効果は約1億円、2022シーズンのFC琉球ホーム最終戦1試合での経済波及効果は約6千万円と試算されています。

また、観戦と実施の相関もみられ、実施の需要としても、社会教育調査によると体育施設の利用者数が県内3番目に多く、さらに施設数が県内他市町村と比べて圧倒的に豊富であることから、さらなる稼働のポテンシャルもあり、スポーツをする・みることを通じたまちの賑わいや経済の活性化が期待されます。



図表 24 体育施設利用者数

出典：社会教育調査を活用した地方公共団体のEBPM推進に関する調査研、H30

また、東京2020パラリンピックの観戦による、パラスポーツへの関心の高まりもみてとれ、共生社会の実現やユニバーサルデザインの実装等へのスポーツの貢献も期待されます。

このように、スポーツの持つ力による地域活性化や共生社会の実現等社会への波及をめざし、スポーツ“による”まちの振興に取り組みます。

02 方向性ごとの方針

方向性1 スポーツの振興



方針1 状況に応じた柔軟なスポーツ機会をつくり・はぐくむ

多くの市民がスポーツに参画できるよう取り組んでいくうえで、スポーツに関心を持たない層や苦手な層であっても、スポーツを楽しみ、喜びを感じながら取り組めるようにするため、既存の手法・態様のみには固執するのではなく、環境や状況に応じて柔軟に見直し、改善しながら取り組む「スポーツをつくる／はぐくむ」という視点のもと、あらゆる立場の人にとってのスポーツをはじめのきっかけづくり、続ける後押しに取り組めます。

方針2 誰もがアクセスできるスポーツ環境を整える

スポーツに参画し、スポーツの価値を体感できるような社会を実現するためには、性別、年齢、障がいの有無、経済的事情、地域事情等に関わらず、全ての人々がスポーツにアクセスできる社会の実現や機運の醸成、スポーツ情報の充実が重要です。

公共施設の縮減傾向によるスポーツ活動の場所不足や、活動の担い手不足という課題解決のための支援策を講じることを通じて、スポーツにアクセスし続けられる環境を整えるとともに、スポーツに取り組む人々の心身の安全・安心の確保にも配慮していきます。

方向性2 スポーツによる振興



方針3 スポーツであつまりともに活動し つながりを創出する

新型コロナウイルス禍における活動制限により、スポーツを介した地域や仲間との交流が失われました。他方、F I B Aバスケットボールワールドカップ 2023ではスポーツを通じて人々が集まり熱狂する姿が印象的に示されました。

また、オリ・パラの日本開催は共生社会実現の必要性を意識させるきっかけとなりました。

このような契機をいかし様々な立場にある人々誰もが「ともに」活動し、「つながり」を感じながらスポーツを楽しめる社会の実現を目指し、機運の醸成に取り組めます。

さらに、スポーツ実施のみならず、スポーツを通じた社会経済の活性化等の場面においても、様々な人々・組織・企業が「あつまり」、「ともに」地域課題への対応や活動の実施を図っていけるよう、情報や知見を共有し合いながらスポーツの産業化を進めます。

Chapter 4 施策展開

- 01 施策体系
- 02 基本施策・具体的施策

01 施策体系

| 将来像 | 方向性 | 方針 |
|-----|-----|----|
|-----|-----|----|

誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことができる
スポーツコンベンションシティ

スポーツの振興

状況に応じた柔軟な
スポーツ機会をつくり・はぐくむ

1 目標数値：スポーツ実施率
70%

誰もがアクセスできる
スポーツ環境を整える

2 目標数値：市スポーツ施設利用者数
929,000 人

スポーツによる振興

スポーツであつまりともに活動し
つながりを創出する

3 目標数値：市内の主要ホテル延べ宿泊数
388,000 人

| 基本施策 | 具体施策 |
|---------------------------|--|
| 1-1 子どものスポーツ推進 | <ul style="list-style-type: none"> ① 親子で楽しめるスポーツイベントの開催及び支援の実施 ② 学校体育の推進 ③ 生徒のスポーツ環境の確保・維持 ④ 食育の推進 ⑤ 児童のスポーツ環境の確保・維持 ⑥ 児童生徒の競技力向上に向けた支援の実施 |
| 1-2 働く世代・子育て世代のスポーツ推進 | <ul style="list-style-type: none"> ① 気軽に参加できるスポーツ教室およびスポーツイベント等の開催 ② 多様なスポーツプログラムの提供及びスポーツサークルの活動支援 ③ スポーツイベントの開催支援 ④ ライフステージに応じた健康づくり支援 |
| 1-3 高齢者のスポーツ推進 | <ul style="list-style-type: none"> ① スポーツによる介護予防 ② 高齢者のスポーツ機会の創出 |
| 1-4 障がい者のスポーツ推進 | <ul style="list-style-type: none"> ① 障がい者（児）のスポーツ機会の創出 ② 障がい者スポーツ用具の購入・貸与による活動支援 |
| 2-1 スポーツ環境や場の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ① 沖縄市立総合運動場体育施設（コザ運動公園）の改修更新による機能の維持向上 ② 公園の活用促進 ③ 学校体育施設及び地域・学校連携施設の活用促進 ④ 全ての市民が不自由なく利用できるスポーツ環境の実現 |
| 2-2 スポーツを支える人材・団体の確保・育成 | <ul style="list-style-type: none"> ① 総合型地域スポーツクラブへの支援 ② スポーツ推進委員の活用促進 ③ 沖縄市スポーツ協会への支援 ④ スポーツボランティアの育成 |
| 2-3 情報発信の強化 | <ul style="list-style-type: none"> ① 多様な媒体の活用によるスポーツ情報の提供 |
| 3-1 スポーツを通じた多様な交流の創出 | <ul style="list-style-type: none"> ① 誰でも楽しめるスポーツの普及・促進 ② プロスポーツチーム等との連携による応援機運の醸成 ③ 国内交流事業でのスポーツ交流の推進 |
| 3-2 スポーツ交流人口拡大による地域経済の活性化 | <ul style="list-style-type: none"> ① スポーツコンベンションの推進 ② スポーツツーリズムの推進 ③ 沖縄アリーナの活用促進 ④ モータースポーツの振興 ⑤ 東部海浜開発事業の推進 |
| 3-3 スポーツの産業化 | <ul style="list-style-type: none"> ① スポーツ関連事業を創出しやすい環境づくり ② デジタル技術の活用やeスポーツ等新たなスポーツ産業との連携 ③ プロスポーツチーム等との連携による新たな商品・サービスの創出 |

02 基本施策および具体施策

方針1 状況に応じた柔軟なスポーツ機会をつくり・はぐくむ

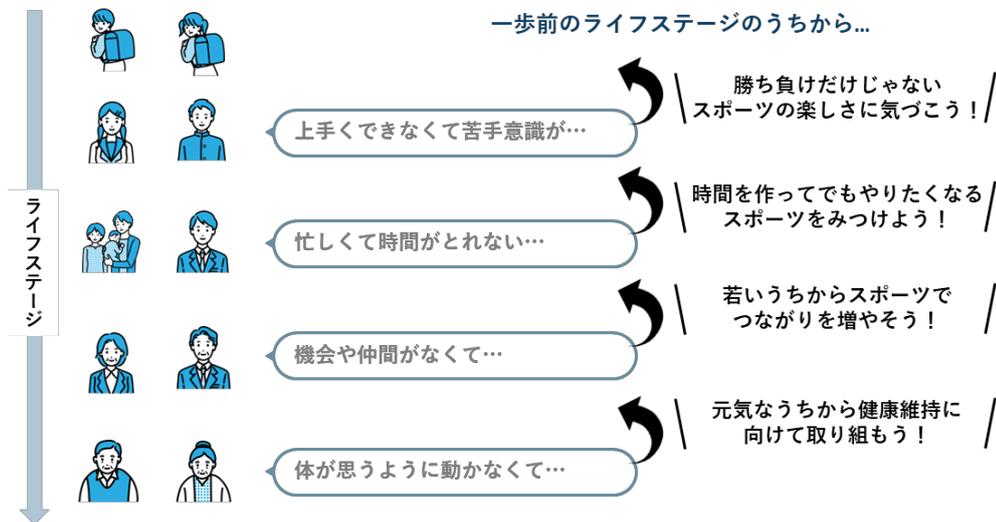
基本施策1-1 子どものスポーツ推進

各世代におけるスポーツ実施の課題は、一步前のライフステージでの習慣に起因するケースが多くあると考えられ、低年齢層をターゲットとした施策が中長期的には最も効果的であると考えられます。

子どもがスポーツを始めるきっかけは「体を動かすことが好きだから」という根源的な楽しさに基づくものである一方、技術や体力が追い付かなくなると「嫌い」になってしまい、スポーツから離れてしまう傾向がみてとれます。

したがって、将来にわたり子どもがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保するために、子どもたちがスポーツの強度や巧拙に関わらず、身体を動かすこと自体の楽しさや気持ちよさを感じてもらい続けられるような運動プログラムの開発と実践を様々な形で事業展開できるよう、検討します。

その他、運動部活動の地域移行についても国の動向を注視し、できるところから慎重かつ迅速に進めます。



図表 25 スポーツ施策の循環イメージ

施策① 親子で楽しめるスポーツイベントの開催及び支援の実施

親子で参加できるスポーツ教室の開催をはじめ、こどもから大人まで世代を問わず楽しめる沖縄市スポーツデイやカローリング¹⁶大会などのスポーツイベント等を開催します。

また、市の主催のみならず、「親子ふれあい体験活動助成事業」を活用したスポレクの実施、各社会教育団体等による運動会・スポレク大会等の開催を促進します。

【主な取組】

- 親子スポーツ教室の開催
- 沖縄市スポーツデイの開催
- カローリング大会の開催
- 生涯学習フェスティバルでレクリエーション協会等と連携したスポレク体験コーナーの実施
- 各社会教育団体の運動会・スポレク大会等の支援
- 親子ふれあい体験活動助成事業を活用した地域住民のスポレク活動支援



沖縄市スポーツデイの様子

施策② 学校体育の推進

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見つけ、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

【主な取組】

- 体育・保健に関する指導

¹⁶ 氷上でなく室内でカーリングができるように考案されたニュースポーツ。

施策③ 生徒のスポーツ環境の確保・維持

全国的に運動部活動の地域移行が推進されるなか、中学生の新たなスポーツ環境づくりに取り組むなど、スポーツ活動の機会確保に努めます。

【主な取組】

- 学校部活動の地域移行推進方策の検討
- 移行期間中における部活動継続方策の検討

施策④ 食育の推進

栄養教諭や栄養職員による給食指導をはじめ、保護者等からの依頼による栄養指導講話を行うなど、食育の推進を図ります。

【主な取組】

- 授業や講話、資料展示等による給食指導の実施
- 食育に関する出前講座の実施

施策⑤ 児童のスポーツ環境の確保・維持

児童センターにおいて、体育指導員を配置し、遊びを通じたスポーツ環境の充実を図ります。また、中高生の児童センターの利用促進に向け、夜間開放の実施に取り組みます。

青少年体験等学習事業におけるスポーツやダンス教室等の充実を図ります。

【主な取組】

- 児童センターにおけるスポーツ指導環境の充実および夜間開放の実施
- スポーツやダンス教室等の充実

施策⑥ 児童生徒の競技力向上に向けた支援の実施

スポーツの底辺拡大と競技力の向上、児童生徒間の交流を図るため、各種大会への県外等派遣の支援を行います。また、スポーツ少年団および沖縄県軟式野球連盟中部北支部学童部沖縄ブロックの活動の支援や、沖縄市長杯高等学校バスケットボールおきなわカップ開催支援等に取り組めます。

【主な取組】

- 各種大会県外等派遣費補助金の周知及び充実
- 沖縄市スポーツ少年団本部の活動支援
- 沖縄県軟式野球連盟中部北支部学童部沖縄ブロックの活動支援
- 沖縄市長杯高等学校バスケットボールおきなわカップの開催支援

基本施策1-2 働く世代・子育て世代のスポーツ推進

スポーツをしない大きな理由として「時間がない（仕事や家事が忙しい）」が挙げられていることから、日常生活における身体行動に能動的に向き合うだけでも運動効果があること等、“時間がなくても”スポーツができるということの普及啓発によりスポーツの心理的・物理的ハードルの緩和を促します。

とりわけ子育て世代では、子どもを親族等に預けてまで自身のスポーツ時間を捻出することに抵抗があるという声もあることから、家事や子育てで忙しいなかでも気軽に取り組めるスポーツや運動の普及啓発等が有用であると考えられます。

また、実行に移そうと思っている層の背中を押せるよう、市民がそれぞれ身近な場所に気軽にスポーツができる環境を享受できる場づくりを推進します。

施策① 気軽に参加できるスポーツ教室およびスポーツイベント等の開催

オンラインや出前講座での実施など、市民がより気軽に参加ができるスポーツ教室を開催します。

また、こどもから大人まで世代を問わず楽しめる沖縄市スポーツデイやカローリング大会などのスポーツイベント等を開催します。

中央公民館では健康づくりに資する運動に関する講座を開催します。

【主な取組】

- オンラインや出前講座によるスポーツ教室の開催
- 沖縄市スポーツデイの開催
- カローリング大会の開催
- 健康づくりに資する運動に関する中央公民館講座の開催

施策② 多様なスポーツプログラムの提供及びスポーツサークルの活動支援

スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブ、民間等と連携し、スポーツ未実施者やスポーツが苦手な人でも楽しく、気軽に楽しめるスポーツプログラムの提供に取り組みます。

健康体操やダンス、太極拳等の中央公民館登録サークルについて、活動の場の提供を図るなど、育成・支援を図ります。

【主な取組】

- 多様なスポーツプログラムの提供
- 中央公民館登録サークルへの活動の場の提供

施策③ スポーツイベントの開催支援

本島中部地区を代表する一大イベントである「おきなわマラソン」をはじめ、関係団体が実施する各種スポーツイベントの開催を支援し、多くの市民が参加できるように取り組みます。

【主な取組】

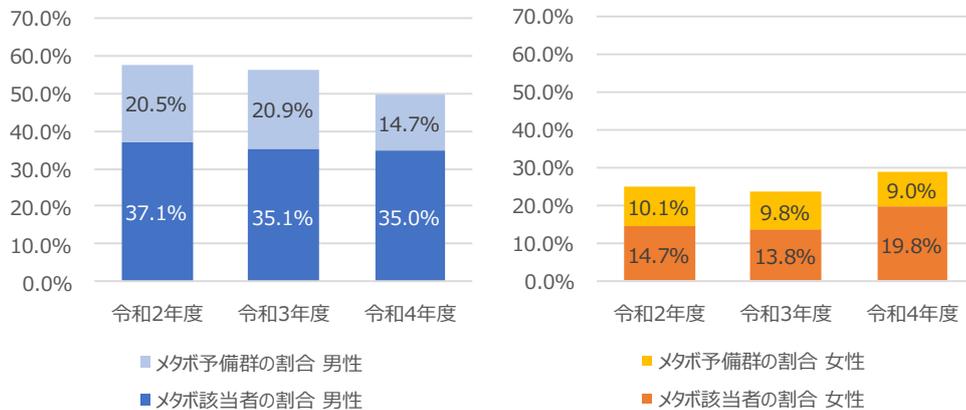
- 関係団体が実施する各種スポーツイベントの開催支援

施策④ ライフステージに応じた健康づくり支援

市民が各世代で健康づくりの意識を持ち続け、取り組んでいくことができるよう、ヘルシーおきなわシティ 21 に基づき各種取組を推進します。

【主な取組】

- 37 運動の推進
- 健康講演会・運動相談の実施
- ウォーキング教室



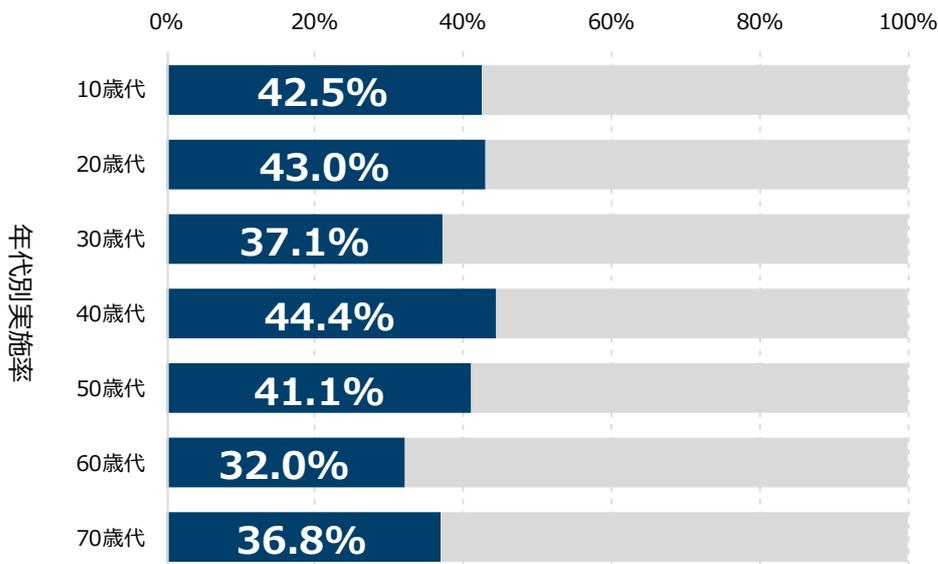
図表 26 男女別メタボリックシンドローム予備軍および該当者の割合

出典：特定健診・特定保健指導事業・結果集計表、R2～4をもとに作成

基本施策 1 - 3 高齢者のスポーツ推進

一般的に働き盛りのビジネスパーソンや子育て世代のスポーツ実施が課題になることが多い中で、本市においては高齢者の実施率が比較的低いという特徴があります。

高齢者は、病気や障がいなどによる健康の喪失などをきっかけとして、社会とのつながりを失うと、生活範囲やこころの健康や身体機能までもが低下をきたし、ドミノ倒しのようにフレイルが進行、重症化してしまいます。これらの予防として、高齢者がいつまでも元気に生きがいを持って過ごしていくことができるよう、生きがいスポーツ活動の推進を図ります。また、高齢者の体力維持や健康づくりのサポートを行うなど、介護予防事業の推進を図ります。



図表 27 年代別スポーツ実施率 再掲

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

施策① スポーツによる介護予防

高齢者が要介護状態になることの予防や、要介護状態等の軽減・悪化を防止するため、「心身機能」「活動」「参加」を網羅した介護予防に関する知識の普及・啓発や高齢者の自主的な介護予防に関する活動の育成・支援を実施します。

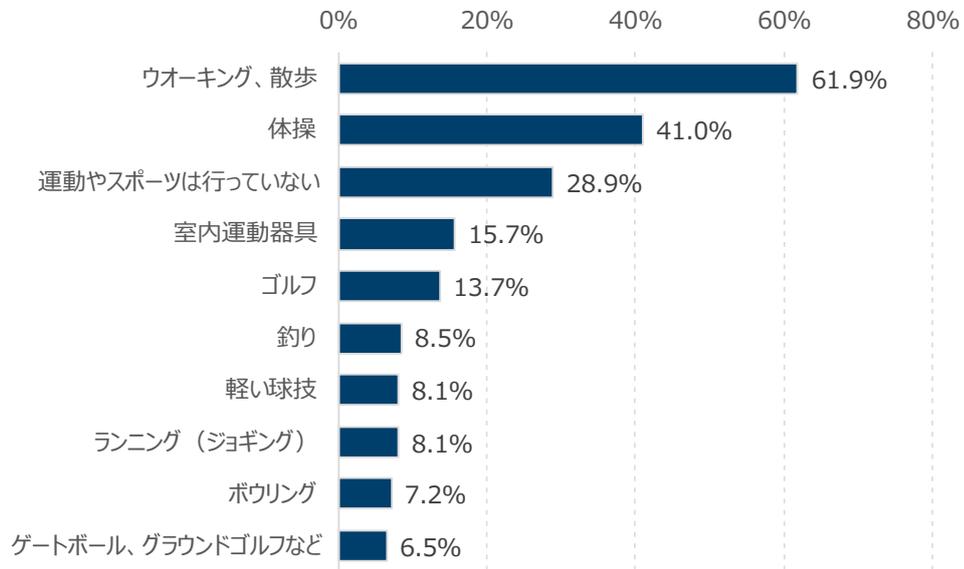
【主な取組】

- 高齢者パワーアップ教室の開催
- 高齢者元気教室の開催
- 高齢者生きがいづくり支援事業の実施
- 高齢者地域交流支援事業の実施

施策② 高齢者のスポーツ機会の創出

スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブ等のスポーツ関係団体や高齢者福祉団体と連携し、高齢者が日常的にスポーツに親しめるよう、無理なく実施できるスポーツプログラムの提供に取り組みます。

また、高齢者がスポーツを気軽に楽しむことができるよう、高齢者向けスポーツ用具の整備及び無料貸出による活動支援を図ります。



図表 28 高齢者¹⁷の実施種目

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

【主な取組】

- 関係団体との連携による高齢者のスポーツ機会の創出
- 高齢者向けスポーツ用具の購入、無料貸与の実施



高齢者パワーアップ教室の様子

¹⁷ 50 歳代以上を集計。

基本施策 1 - 4 障がい者のスポーツ推進

国の調査によると、成人の障がい者の週1回以上のスポーツ実施率は31.0%（令和3年度）と、近年増加傾向にはあるものの、成人一般の実施率と比べると依然として大きな隔たりがあります。また、若年層の障がい者の週1回以上のスポーツ実施率は、41.8%であることから、大人になって以降の継続的なスポーツ実施が課題とされています。

また、若年層においても、小中高等学校に在籍している障がい児の体育の授業が見学にとどまることもあるなど、学校における障がい児のスポーツ環境は十分でないケースも散見されます。

障がい者（児）を対象に福祉・スポーツそれぞれの専門家による各種スポーツ教室を開催するほか、市内体育館の競技場にスポーツ用具などを設置し、障がい者（児）が保護者と一緒にのびのびと身体を動かせる遊び場を提供します。

施策① 障がい者（児）のスポーツ機会の創出

沖縄県障がい者スポーツ協会等の関係機関・関係課と連携し、障がい者スポーツの普及を図ります。各種スポーツ教室等については、身体障がい者だけでなく、知的障がい者や精神障がい者も参加しやすいよう、内容の充実と周知に努めます。

スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブ等のスポーツ関係団体や障がい者福祉団体と連携し、障がい者向けのスポーツプログラム等の充実を図ります。

【主な取組】

- 沖縄市スポーツレクリエーション教室開催等事業の推進
- 沖縄市障がい者福祉協会との連携による内容等の充実
- 関係団体との連携による障がい者のスポーツ機会の創出

施策② 障がい者スポーツ用具の購入・貸与による活動支援

障がいのある方がスポーツを楽しむことができるよう、誰でも気軽に楽しめる障がい者向けスポーツ用具の整備及び無料貸し出しによる活動支援に取り組みます。

【主な取組】

- 障がい者スポーツ向け用具の購入・無料貸与の実施

方針 2 誰もがアクセスできるスポーツ環境を整える

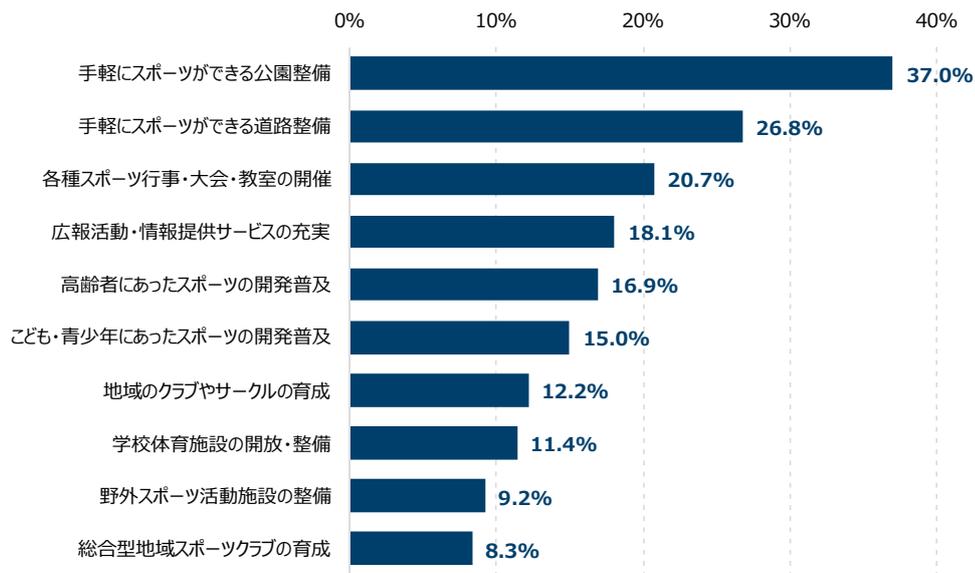
基本施策 2-1 スポーツ環境や場の充実

沖縄市立総合運動場体育施設（コザ運動公園）の長寿命化に向け、引き続き計画的な改修・更新を行う中で、施設サービスの充実を検討します。

その他、市民のニーズも高い公園等オープンスペースの有効活用や、学校開放や民間ストック等も含めて地域の施設をフル活用し、スポーツの場づくりに取り組みます。

また、単なる大枠としてのスポーツ環境確保のみならず、競技や利用者の偏りがなく、ニーズの実態に即した提供ができるよう継続的な現状の把握及びその反映に努めます。

さらに、施設機能の維持・向上やスポーツ備品の充実、ユニバーサルデザイン¹⁸の実装等、市民が安心・安全に利用できるよう、施設環境の質的な充実に取り組みます。その他、沖縄市立総合運動場体育施設（コザ運動公園）までのアクセス性等も含めた利便性向上に向けた一体的な取組みを推進します。



図表 29 市民の考える今後力を入れるべき取組（上位 10 項目）

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

¹⁸ あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。

施策① 沖縄市立総合運動場体育施設（コザ運動公園）の改修更新による機能の維持向上

本市におけるスポーツ活動の拠点である「沖縄市立総合運動場体育施設（コザ運動公園）」の整備・充実を図ります。また、管理運営の効率化及びサービス向上に向け、引き続き指定管理者制度の導入を継続します。

野球場については、引き続きネーミングライツ¹⁹の運用により施設の管理・運営に役立てます。また、沖縄市立総合運動場体育施設（コザ運動公園）の更なる活用促進に向け、平日の遊休時間帯について有効活用方策の検討等を図ります。

【主な取組】

- 沖縄市立総合運動場体育施設（コザ運動公園）の整備・充実
- 指定管理者制度やネーミングライツ制度の継続
- 遊休時間帯の有効活用方策等の検討

施策② 公園の活用促進

身近な公園において気軽に運動を楽しむことができるよう、リニューアル等に合わせ、利用者ニーズを勘案しながら、園路の整備、ストレッチなどができる遊戯施設の設置などの公園施設の整備に努めます。

【主な取組】

- リニューアル等に合わせた公園施設の整備

施策③ 学校体育施設及び地域・学校連携施設の活用促進

市民が運動や、スポーツにより一層親しめるよう、学校体育施設の夜間開放を実施し、施設の利用促進に取り組みます。

地域・学校連携施設の開放により、スポーツサークルへの活動の場の提供や地域のレクリエーション交流を地域と学校と調整をしながら促進を図っていきます。

【主な取組】

- 学校体育施設の利用促進
- 地域・学校連携施設の利用促進

施策④ 全ての市民が不自由なく利用できるスポーツ環境の実現

高齢者や障がい者等が沖縄市立総合運動場体育施設（コザ運動公園）を安心して利用できるよう、障がい者向けスポーツ用具（ニュースポーツ用具）の整備及び無料貸出による活動支援を推進するとともに、施設の改修タイミングに合わせたユニバーサルデザインの導入やバリアフリー化を検討します。

また「スポーツ推進マイクロバス」の周知及び利用促進を図り、交通弱者の方でもスポーツ環境に足を運べるしくみを維持します。

【主な取組】

- 沖縄市立総合運動場体育施設（コザ運動公園）のユニバーサルデザインの導入やバリアフリー化の検討
- スポーツ推進マイクロバスの周知及び利用促進

¹⁹ 公共施設の名前を付与する命名権と、付帯する諸権利のこと。

基本施策 2-2 スポーツを支える人材・団体の確保・育成

総合型地域スポーツクラブが地域に根ざしたクラブとして末永く発展していくことができるよう、市民への周知及び参加促進を図ります。

また、スポーツ推進委員や沖縄市スポーツ協会等、生涯スポーツや競技スポーツを支える人材・団体の育成を図るとともに、指導者やスポーツボランティアの育成に努めます。

施策① 総合型地域スポーツクラブへの支援

総合型地域スポーツクラブへの参加促進を図るため、市ホームページや広報誌等で市内の総合型地域スポーツクラブの設置目的や活動内容の紹介を行うなど、各種情報媒体を用いて市民への周知を図ります。

【主な取組】

- 市内で活動を行う総合型地域スポーツクラブの周知

施策② スポーツ推進委員の活用促進

スポーツ推進委員の確保に努めるとともに、スポーツ関連各種行事の企画立案やニュースポーツの紹介・実技指導等の充実に向け、中頭地区や県の研修会等へのスポーツ推進委員の参加促進を行い、資質向上に努めます。

また、スポーツ推進委員の認知度を高め、地域のスポーツ推進を担うリーダーとして活躍してもらうため、各種情報媒体を活用した広報活動や、市主催のスポーツ教室・イベントの開催等を通し、スポーツ推進委員の周知を図るとともに、地域・学校等各団体主催の教室等への派遣機会の充実に努めます。

【主な取組】

- スポーツ推進委員の確保、資質向上
- 県や中頭地区等の研修会への参加促進
- スポーツ推進委員の周知、派遣機会の充実

施策③ 沖縄市スポーツ協会への支援

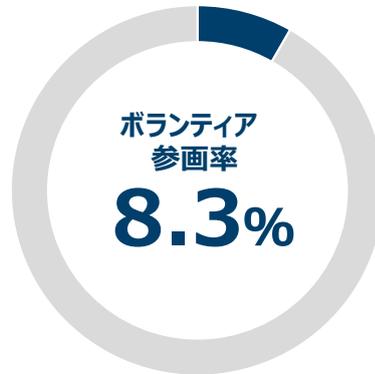
各種スポーツの普及や底辺の拡大、競技力の向上、インテグリティの向上、これらを指導できる人材育成の役割を果たし、市内の種目別競技団体を統括する沖縄市スポーツ協会の各種活動を支援します。

【主な取組】

- 沖縄市スポーツ協会の活動支援

施策④ スポーツボランティアの育成

沖縄市スポーツコミッションと連携し、スポーツイベント等の多様な活動機会の創出に取り組み、スポーツボランティアへの参加意欲を高めるとともに、研修会・講演会を実施することで、スポーツボランティアの資質の向上を図ります。



図表 30 スポーツボランティア参加率 再掲

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

【主な取組】

- スポーツボランティアに対する研修会・講演会の開催支援
- スポーツボランティアの活動機会の創出

スポーツボランティアとは

スポーツボランティアは、「地域におけるスポーツクラブやスポーツ団体において、報酬を目的としないで、クラブ・団体の運営や指導活動を日常的に支えたり、また、国際競技大会や地域スポーツ大会などにおいて、専門的能力や時間などを進んで提供し、大会の運営を支える人のこと」を指します。

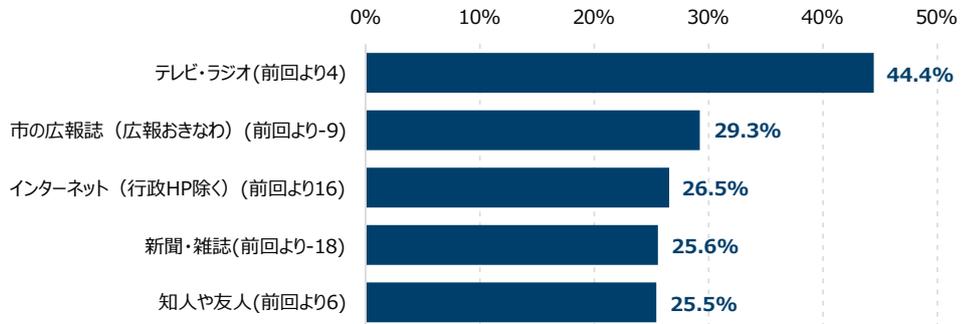
試合や競技に挑戦する選手を支えるトレーナー、コーチ、審判員、スタッフ等の技術的支援に関するボランティアを始め、保護者による子どもたちの相乗り送迎等、日常的な地域スポーツ活動を支える行為もその範疇にあると言えます。



スポーツボランティアの様子

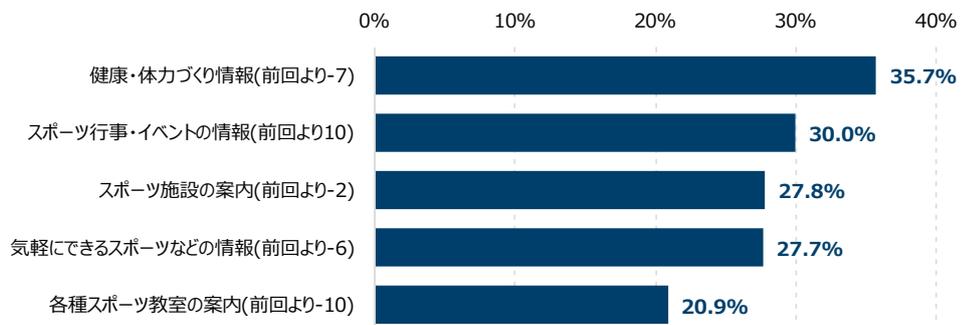
基本施策 2-3 情報発信の強化

市民が自主的に継続性を持ってスポーツを実践していくことができるよう、スポーツのもたらす効果や健康との関係等の情報発信や、新しいスポーツ・気軽に行えるスポーツなどの情報提供を図ります。



図表 31 普段スポーツ情報を得る媒体（上位5項目）

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5



図表 32 スポーツに関する情報として求める内容（上位5項目）

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

施策① 多様な媒体の活用によるスポーツ情報の提供

市ホームページやSNS等の多様な媒体を活用し、いつでも必要な情報にアクセスできる環境をつくとともに、タイムリーなスポーツイベントのお知らせを行い、市民の参加を呼び掛けます。

また、スポーツの楽しみ方や効能等、市民のスポーツに関する意識改革のきっかけとなるような情報を発信します。

【主な取組】

- 多様な媒体を活用した情報発信の充実
- SNS やホームページ等でのスポーツに関する情報の周知

方針3 スポーツであつまりともに活動し つながり創出する

基本施策3-1 スポーツを通じた多様な交流の創出

様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、つながりを感じてスポーツを行えるよう、障がい者と一般の方、子どもと高齢者、本市と兄弟・姉妹都市間での子どもの交流等、多様な交流機会を創出し、スポーツを通じた地域・人々のつながりを強めます。

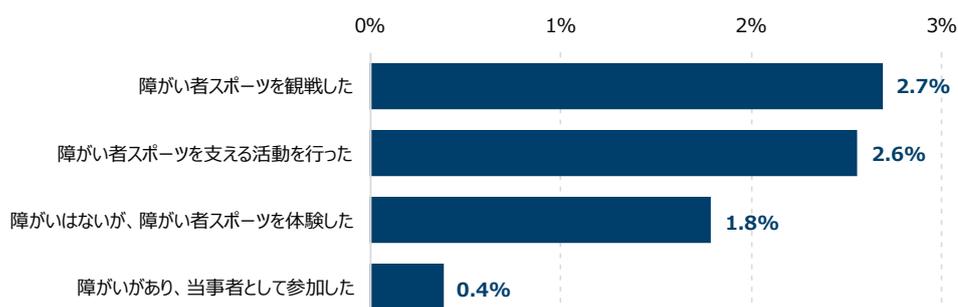
施策① 誰でも楽しめるスポーツの普及・促進

年齢や障がいの有無等にかかわらず誰でも楽しめるスポーツの普及・促進を図り、障がいのある人もない人もスポーツを通じて触れ合うことで、相互理解の促進を図ります。また、全国規模の障がい者スポーツ大会を誘致し、障がい者スポーツの魅力を広く啓発します。



図表 33 障がい者スポーツの関与経験

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5



図表 34 障がい者スポーツへの関与経験

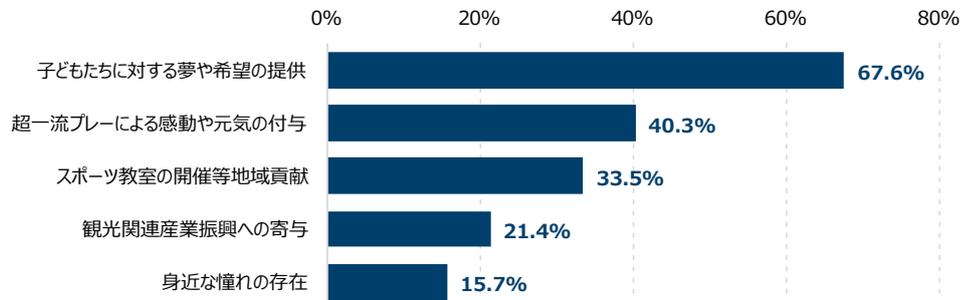
出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

【主な取組】

- ニュースポーツの普及・促進
- 全国規模の障がい者スポーツ大会の誘致

施策② プロスポーツチーム等との連携による応援機運の醸成

市民のプロスポーツへの期待として“夢や希望、元気”等前向きな感情を与えてもらうことが多く挙げられていることから、本市をホームタウン、サブホームタウンとするプロスポーツチーム等と連携し、市民が愛着を持てるような取組を行い、応援機運の醸成や市内外からの観戦者拡大を図ります。



図表 35 プロスポーツに期待すること（上位5項目） 再掲

出典：沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査、R5

【主な取組】

- プロスポーツチーム等の活動支援・応援機運の醸成



パブリックビューイングの様子

施策③ 国内交流事業でのスポーツ交流の推進

兄弟都市・姉妹都市とのスポーツ交流事業の展開を検討します。
兄弟都市である豊中市とは、民間サッカー交流を引き続き促進します。

【主な取組】

- 兄弟・姉妹都市とのスポーツ交流事業の検討
- 豊中市との民間サッカー交流の促進

基本施策 3 - 2 スポーツ交流人口拡大による地域経済の活性化

本市は恵まれた気候や充実した体育施設等の集積を生かし、スポーツ合宿や大会を積極的に受け入れており、広島東洋カープの春季キャンプや本市をホームタウンとする FC 琉球・琉球ゴールデンキングス、サブホームタウンとするパナソニックパナソニックの公式戦など、県内外から多くの観戦者や参加者が本市を来訪しています。

今後も積極的な合宿・大会誘致やスポーツツーリズムの推進に取り組むとともに、若い世代を中心に人気の高まりを見せるアーバンスポーツやモータースポーツの振興、東部海浜開発事業を推進し、スポーツを通じた交流人口の拡大による地域の賑わいの創出や地域内での消費行動につなげ、地域経済の活性化を図ります。

施策① スポーツコンベンションの推進

沖縄市スポーツコミッション等の関係団体との連携により、沖縄市立総合運動場体育施設（コザ運動公園）および沖縄県総合運動公園内の各種施設を活用し、スポーツ合宿や国際大会等の誘致・受入に取り組むとともに、東京 2020 オリンピックで注目された「アーバンスポーツ」が持つ魅力を活かした取組を進めるため、「(仮称) アーバンスポーツパーク」の整備について検討します。

2034 年に沖縄県内で開催予定の国民スポーツ大会に向けて、県の動向を踏まえ、本市内での競技別の大会受入に向けた準備・検討を行います。

【主な取組】

- スポーツ合宿誘致活動の推進
- 九州規模・全国規模等のスポーツ大会の誘致
- プロスポーツチーム等の活動支援や応援機運の醸成
- (仮称) アーバンスポーツパークの整備検討
- 国民スポーツ大会及び全国障がい者スポーツ大会に向けた準備・検討

施策② スポーツツーリズムの推進

スポーツと地域の魅力を掛け合わせたツーリズムを推進し、交流人口の拡大促進や地域経済の活性化を図ります。

本市ではホームタウンおよびサブホームタウンのプロスポーツチームによるホームゲームをはじめ、プロ野球やサッカーのキャンプも開催されていることから、アウエイツーリズム等の誘客促進に取り組めます。

【主な取組】

- アウエイツーリズムの推進

施策③ 沖縄アリーナの活用促進

Bリーグを中心としたプロスポーツ興行をはじめ、沖縄アリーナカップ等が開催される沖縄アリーナのさらなる活用促進を図り、スポーツによる交流人口の拡大に取り組みます。

【主な取組】

- 沖縄アリーナにおけるスポーツイベント開催の促進



沖縄アリーナ

©琉球ゴールデンキングス

策④ モータースポーツの振興

(仮称) 沖縄サーキットの整備に向け、モータースポーツマルチフィールド沖縄の活用促進を図るとともに、オキナワモーターショーを開催するなど、モータースポーツのさらなる振興に取り組みます。

【主な取組】

- モータースポーツマルチフィールド沖縄の活用促進
- オキナワモーターショーの開催

施策⑤ 東部海浜開発事業の推進

地域経済の活性化に資するため、従来のスポーツ施設の在り方にとらわれない新たなスポーツコンベンション拠点を有するビーチフロント観光地の創出に向け、各種取組を検討します。

【主な取組】

- マリンレジャーやビーチスポーツ等、ビーチの活用
- 多目的広場における、収益性のある民間活力導入の検討

国では、「スポーツ」と AI²⁰や IoT²¹等の「テクノロジー」を融合・活用することで、スポーツが持つ新たな価値を創造し、スポーツビジネス機会の創造・拡大や社会課題の解決につながる可能性は大きいとしています。

新しいテクノロジーや機器によってスポーツの垣根が下がったり、スポーツを楽しく継続できたりするなど、デジタル技術の活用による新たなスポーツの有用性について検討を進めるほか、観光や情報、医科学等多様な産業との連携を図るとともに、プロスポーツチーム等との協働によるスポーツにおける新たな商品・サービスの創出、スポーツの裾野の拡大を目指します。

施策① スポーツ関連事業を創出しやすい環境づくり

スポーツ関連産業の集積や関連団体との連携によるビジネスマッチングの推進に取り組みます。

【主な取組】

- 沖縄市立総合運動場体育施設（コザ運動公園）および周辺地域と連携したスポーツ関連産業の集積
- ビジネスマッチングの推進

施策② デジタル技術の活用や e スポーツ²²等新たなスポーツ産業との連携

デジタル技術の活用による新たなスポーツの有用性について検討を進めるほか、e スポーツ等の新たなスポーツ産業との連携を図ります。

【主な取組】

- デジタル技術の活用を検討
- e スポーツ等の新たな産業との連携

施策③ プロスポーツチーム等との連携による新たな商品・サービスの創出

本市で活動するプロスポーツチームや地域企業等との連携による新たな商品・サービスの創出に取り組みます。

【主な取組】

- プロスポーツチーム等の関連グッズ等の開発

²⁰ 人工知能（ちのう）（Artificial Intelligence（アーティフィシャル インテリジェンス））の略称（りやくしょう）。人間が知能によって遂行している問題解決や意思決定といった能力を、コンピューターをはじめとする機械を用いて模倣および再現するもの。習

²¹ IoT（Internet of Things）とは「モノのインターネット」を意味し、家電製品・車・建物など、さまざまな「モノ」をインターネットと繋ぐ技術のこと。

²² 「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称。

Chapter 5 計画の推進にあたって

- 
- 01 成果指標
 - 02 推進体制

01 成果指標

(1) 成果指標・目標値

本計画における目指す姿の達成度合いを図る成果指標として、以下の3つを定めます。

| 基本目標 | 成果指標 | 現状値 | 目標値 (R10) |
|-------------------|-------------------------|----------|------------|
| 1 つくる/はぐくむ | スポーツ実施率 | 39.3% | ▶ 70% |
| 2 誰もが アクセスできる | 市スポーツ施設利用者数 (学校開放含む) | 456,768人 | ▶ 929,000人 |
| 3 あつまり ともにつながる | 市内の主要ホテル 延べ宿泊数 | 195,690人 | ▶ 388,000人 |

図表 36 成果指標・目標値

(2) 成果指標の考え方

① スポーツ実施率

市民意識調査により、週1回以上スポーツを行う市民の割合を把握します。

② 市スポーツ施設利用者数（学校開放含む）

市立スポーツ施設の利用者数を実績報告により集計します。

③ 市内の主要ホテル延べ宿泊数

市内の主要ホテル延べ宿泊者数を集計します。

02 推進体制

本計画における各種施策の推進にあたっては、以下の体制で取り組みます。

(1) 他分野との横断的な取り組み

計画を着実に推進するため、市観光スポーツ振興課を中心に、庁内における教育、福祉、保健などの他分野との連携を図ります。

(2) 国や県との整合性

国や県の動向・方向性を確認しながら計画の推進に取り組みます。

(3) 関係団体との連携

総合型地域スポーツクラブやスポーツ推進委員協議会、スポーツ協会、スポーツ少年団、体育施設指定管理者などの関係団体をはじめ、多様な連携を図ります。

03 庁内推進体制

方針1 状況に応じた柔軟なスポーツ機会をつくり・はぐくむ

基本施策1-1 子どものスポーツ推進

| 具体施策 | 主な取組 | 担当課 |
|-----------------------------|--|-------------------------|
| ① 親子で楽しめるスポーツイベントの開催及び支援の実施 | 親子スポーツの教室の開催 | 観光スポーツ振興課 |
| | 沖縄市スポーツデイの開催 | 観光スポーツ振興課 |
| | カローリング大会の開催 | 観光スポーツ振興課 |
| | 生涯学習フェスティバルでレクリエーション協会と連携したスポレク体験コーナーの実施 | 生涯学習課 |
| | 各社会教育団体の運動会・スポレク大会等の支援 | 生涯学習課 |
| | 親子ふれあい体験活動助成事業を活用した地域住民のスポレク活動支援 | 生涯学習課 |
| ② 学校体育の推進 | 体育・保健に関する指導 | 指導課 |
| ③ 生徒のスポーツ環境の確保・維持 | 学校部活動の地域移行推進方策の検討 | 指導課／生涯学習課 ／観光スポーツ振興課 |
| | 移行期間中における部活動継続方策の検討 | 指導課 |
| ④ 食育の推進 | 授業や講話、資料展示等による給食指導の実施 | 給食センター |
| | 食育に関する出前講座の実施 | 給食センター |
| ⑤ 児童のスポーツ環境の確保・維持 | 児童センターにおけるスポーツ指導環境の充実および夜間開放の実施 | こども家庭課 |
| | スポーツやダンス教室等の充実 | 青少年センター |
| ⑥ 児童生徒の競技力向上に向けた支援の実施 | 各種大会県外等派遣費補助金の周知及び充実 | 観光スポーツ振興課 |
| | 沖縄市スポーツ少年団本部の活動支援 | 観光スポーツ振興課 |
| | 沖縄県軟式野球連盟中部北支部学童部沖縄ブロックの活動支援 | 観光スポーツ振興課 |
| | 沖縄市長杯高等学校バスケットボールおきなわカップの開催支援 | 観光スポーツ振興課 |

基本施策 1 - 2 働く世代・子育て世代のスポーツ推進

| 具体施策 | 主な取組 | 担当課 |
|----------------------------------|---------------------------|-----------|
| ① 気軽に参加できるスポーツ教室およびスポーツイベント等の開催 | オンラインや出前講座によるスポーツ教室の開催 | 観光スポーツ振興課 |
| | 沖縄市スポーツデイの開催 | 観光スポーツ振興課 |
| | カローリング大会の開催 | 観光スポーツ振興課 |
| | 健康づくりに資する運動に関する中央公民館講座の開催 | 中央公民館 |
| ② 多様なスポーツプログラムの提供及びスポーツサークルの活動支援 | 多様なスポーツプログラムの提供 | 観光スポーツ振興課 |
| | 中央公民館登録サークルへの活動の場の提供 | 中央公民館 |
| ③ スポーツイベントの開催支援 | 関係団体が実施する各種スポーツイベントの開催支援 | 観光スポーツ振興課 |
| ④ ライフステージに応じた健康づくり支援 | 37 運動の推進 | 市民健康課 |
| | 健康講演会・運動相談の実施 | 市民健康課 |
| | ウォーキング教室 | 市民健康課 |

基本施策 1 - 3 高齢者のスポーツ推進

| 具体施策 | 主な取組 | 担当課 |
|-----------------|--------------------------|-----------|
| ① スポーツによる介護予防 | 高齢者パワーアップ教室の開催 | 介護保険課 |
| | 高齢者元気教室の開催 | 介護保険課 |
| | 高齢者生きがいづくり支援事業の実施 | 介護保険課 |
| | 高齢者地域交流支援事業の実施 | 介護保険課 |
| ② 高齢者のスポーツ機会の創出 | 関係団体との連携による高齢者のスポーツ機会の創出 | 観光スポーツ振興課 |
| | 高齢者向けスポーツ用具の購入、無料貸与の実施 | 観光スポーツ振興課 |

基本施策 1 - 4 障がい者のスポーツ推進

| 具体施策 | 主な取組 | 担当課 |
|---------------------------|---------------------------|-----------|
| ① 障がい者（児）のスポーツ機会の創出 | 沖縄市スポーツレクリエーション教室開催等事業の推進 | 障がい福祉課 |
| | 沖縄市障がい者福祉協会との連携による内容等の充実 | 障がい福祉課 |
| | 関係団体との連携による障がい者のスポーツ機会の創出 | 観光スポーツ振興課 |
| ② 障がい者スポーツ用具の購入・貸与による活動支援 | 障がい者スポーツ向け用具の購入・無料貸与の実施 | 観光スポーツ振興課 |

方針 2 誰もがアクセスできるスポーツ環境を整える

基本施策 2 - 1 スポーツ環境や場の充実

| 具体施策 | 主な取組 | 担当課 |
|--|--|-----------|
| ① 沖縄市立総合運動場体育施設（コザ運動公園）の改修更新による機能の維持向上 | 沖縄市立総合運動場（コザ運動公園）の整備・充実 | 観光スポーツ振興課 |
| | 指定管理者制度やネーミングライツ制度の継続 | 観光スポーツ振興課 |
| | 遊休時間帯の有効活用方策等の検討 | 観光スポーツ振興課 |
| ② 公園の活用促進 | リニューアル等に合わせた公園施設の整備 | 公園みどり課 |
| ③ 学校体育施設及び地域・学校連携施設の活用促進 | 学校体育施設の利用促進 | 観光スポーツ振興課 |
| | 地域・学校連携施設の利用促進 | 生涯学習課 |
| ④ 全ての市民が不自由なく利用できるスポーツ環境の実現 | 沖縄市立総合運動場体育施設（コザ運動公園）のユニバーサルデザインの導入やバリアフリー化の検討 | 観光スポーツ振興課 |
| | スポーツ推進マイクロバスの周知及び利用促進 | 観光スポーツ振興課 |

基本施策 2-2 スポーツを支える人材・団体の確保・育成

| 具体施策 | 主な取組 | 担当課 |
|--------------------|----------------------------|-----------|
| ① 総合型地域スポーツクラブへの支援 | 市内で活動を行う総合型地域スポーツクラブの周知 | 観光スポーツ振興課 |
| | スポーツ推進委員の確保、資質向上 | 観光スポーツ振興課 |
| ② スポーツ推進委員の活用促進 | 県や中頭地区等の研修会への参加促進 | 観光スポーツ振興課 |
| | スポーツ推進委員の周知、派遣機会の充実 | 観光スポーツ振興課 |
| ③ 沖縄市スポーツ協会への支援 | 沖縄市スポーツ協会の活動支援 | 観光スポーツ振興課 |
| ④ スポーツボランティアの育成 | スポーツボランティアに対する研修会・講演会の開催支援 | 観光スポーツ振興課 |
| | スポーツボランティアの活動機会の創出 | 観光スポーツ振興課 |

基本施策 2-3 情報発信の強化

| 具体施策 | 主な取組 | 担当課 |
|------------------------|-----------------------------|-----------|
| ① 多様な媒体の活用によるスポーツ情報の提供 | 多様な媒体を活用した情報発信の充実 | 観光スポーツ振興課 |
| | SNS やホームページ等でのスポーツに関する情報の周知 | 観光スポーツ振興課 |

方針3 スポーツであつまりともに活動しつなかりを創出する

基本施策3-1 スポーツを通じた多様な交流の創出

| 具体施策 | 主な取組 | 担当課 |
|----------------------------|-------------------------|---------------------|
| ① 誰でも楽しめるスポーツの普及・促進 | ニュースポーツの普及・促進 | 観光スポーツ振興課 |
| | 全国規模の障がい者スポーツ大会の誘致 | 観光スポーツ振興課 |
| ② プロスポーツチーム等との連携による応援機運の醸成 | プロスポーツチーム等の活動支援・応援機運の醸成 | 観光スポーツ振興課 |
| ③ 国内交流事業でのスポーツ交流の推進 | 兄弟・姉妹都市とのスポーツ交流事業の検討 | 文化芸能課／ 観光スポーツ振興課 |
| | 豊中市との民間サッカー交流の促進 | 文化芸能課 |

基本施策 3 - 2 スポーツ交流人口拡大による地域経済の活性化

| 具体施策 | 主な取組 | 担当課 |
|------------------|---------------------------------|-----------|
| ① スポーツコンベンションの推進 | スポーツ合宿誘致活動の推進 | 観光スポーツ振興課 |
| | 九州規模・全国規模等のスポーツ大会の誘致 | 観光スポーツ振興課 |
| | プロスポーツチーム等の活動支援や応援機運の醸成 | 観光スポーツ振興課 |
| | (仮称) アーバンスポーツパークの整備検討 | 観光スポーツ振興課 |
| | 国民スポーツ大会及び全国障がい者スポーツ大会に向けた準備・検討 | 観光スポーツ振興課 |
| ② スポーツツーリズムの推進 | アウェイツーリズムの推進 | 観光スポーツ振興課 |
| ③ 沖縄アリーナの活用促進 | 沖縄アリーナにおけるスポーツイベント開催の促進 | プロジェクト推進室 |
| ④ モータースポーツの振興 | モータースポーツマルチフィールド沖縄の活用促進 | プロジェクト推進室 |
| | オキナワモーターショーの開催 | プロジェクト推進室 |
| ⑤ 東部海浜開発事業の推進 | マリレジャーやビーチスポーツ等、ビーチの活用 | 計画調整課 |
| | 多目的広場における、収益性のある民間活力導入の検討 | 計画調整課 |

基本施策 3 - 3 スポーツの産業化

| 具体施策 | 主な取組 | 担当課 |
|----------------------------------|--|-----------|
| ① スポーツ関連事業を創出しやすい環境づくり | 沖縄市立総合運動場体育施設（コザ運動公園）および周辺地域と連携したスポーツ関連産業の集積 | 企業誘致課 |
| | ビジネスマッチングの推進 | 企業誘致課 |
| ② デジタル技術の活用やeスポーツ等新たなスポーツ産業との連携 | デジタル技術の活用の検討 | 観光スポーツ振興課 |
| | eスポーツ等の新たな産業との連携 | 観光スポーツ振興課 |
| ③ プロスポーツチーム等との連携による新たな商品・サービスの創出 | プロスポーツチーム等の関連グッズ等の開発 | 観光スポーツ振興課 |

04 進行管理

本計画の推進にあたっては、取組み単位での施策進捗等“アウトプット”に関する数値や、成果指標の達成度合い等“アウトカム”に関する数値を定期的に計測し、年に1回以上、スポーツ推進審議会において計画の評価・検討を行いながら、PDCAサイクル²³を繰り返すことにより、取組みを継続的に改善していきます。

また、スポーツを巡る最新の動向を把握するとともに、関係団体や庁内関係部局と調整をしながら取り組みます。

²³ Plan（計画）、Do（実行）、Check（測定・評価）、Action（対策・改善）の仮説・検証型プロセスを循環させ、マネジメントの品質を高めようという概念。

資料編

- 01 策定の経過
- 02 スポーツ推進審議会
- 03 スポーツコンベンションシティ宣言
- 04 沖縄市のスポーツ推進に関する市民
アンケート調査

01 策定の経過

本計画の策定にあたり、庁内での検討、沖縄市スポーツ推進審議会における審議、市民、競技団体へのアンケート、計画案に関するパブリックコメントによる意見募集などを実施しました。

| 年月日 | 内容 |
|-----------------------|-------------------------|
| 令和5年9月14日 ～10月4日 | 市民アンケート調査 |
| 令和5年10月10日 ～10月20日 | 関係団体ヒアリング調査 |
| 令和5年11月30日 | 第1回沖縄市スポーツ推進審議会 |
| 令和5年12月26日 | 第1回沖縄市スポーツ推進計画策定委員会 |
| 令和6年1月9日 | 沖縄市教育委員会会議 |
| 令和6年1月16日 | 第2回沖縄市スポーツ推進計画策定委員会 |
| 令和6年1月25日 | 第2回沖縄市スポーツ推進審議会 |
| 令和6年2月5日 | 第3回沖縄市スポーツ推進審議会 |
| 令和6年2月13日 | 第3回沖縄市スポーツ推進計画策定委員会 |
| 令和6年2月20日 ～3月21日 | 計画案に関するパブリックコメントによる意見募集 |
| 令和6年3月26日 | 第4回沖縄市スポーツ推進計画策定委員会 |

02 スポーツ推進審議会

(1) 委員名簿

(令和6年3月現在)

| 委員名 | 所属 |
|---------|--------------------|
| ◎慶田花 英太 | 沖縄国際大学 准教授 |
| ○稲嶺 啓美 | 沖縄市スポーツ協会 会長 |
| 親川 修 | バリアフリーネットワーク会議 理事長 |
| 安永 淳一 | 沖縄バスケットボール（株） 取締役 |
| 與那覇 直樹 | 沖縄県レクリエーション協会 理事長 |
| 照屋 孝 | 沖縄市スポーツ推進委員会 会長 |
| 島袋 隆 | 沖縄市観光物産振興協会 会長 |
| 島田 毅 | 沖縄市校務会 会長 |
| 宮城 哲郎 | サンビスカス沖縄 代表 |
| 比嘉 健一 | 沖縄市スポーツ少年団 本部長 |

◎…会長

○…副会長

(2) 審議経過

| 年月日 | 会議名 | 審議内容 |
|----------------|-------------------------|---|
| 令和5年 11月30日 | 第1回 沖縄市 スポーツ推進審議会 | <議事> <ul style="list-style-type: none">● 委嘱状交付式● 第2期沖縄市スポーツ推進計画について● 事務連絡 <議題> <ul style="list-style-type: none">● 計画策定主旨について● 市民アンケート結果について● 関係団体ヒアリング結果について |
| 令和6年 1月25日 | 第2回 沖縄市 スポーツ推進審議会 | <議事> <ul style="list-style-type: none">● 開会● 第2期沖縄市スポーツ推進計画について● 事務連絡 <議題> <ul style="list-style-type: none">● 計画書素案について |
| 令和6年 2月5日 | 第3回 沖縄市 スポーツ推進審議会 | <議事> <ul style="list-style-type: none">● 開会● 第2期沖縄市スポーツ推進計画について● 質疑応答● 事務連絡 <議題> <ul style="list-style-type: none">● 計画書素案について● 答申案について |

(3) スポーツ推進審議会に関する条例

沖縄市スポーツ推進審議会に関する条例

(昭和50年6月25日条例第3号)

改正 平成20年3月26日条例第8号 平成23年12月9日条例第14号

令和2年12月28日条例第28号

(目的)

第1条 この条例は、スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第31条の規定に基づき、沖縄市のスポーツ推進を図るために、沖縄市スポーツ推進審議会（以下「審議会」という。）を設置し、委員の定数及び任期その他必要な事項を定める。

(任務)

第2条 審議会は、市長の諮問に応じて、沖縄市のスポーツ推進に関する基本的計画を定めるために重要事項を調査審議し、答申する。

(定数)

第3条 委員の定数は、10人とし、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) スポーツに関する学識経験のある者
- (2) 関係行政機関の職員

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員の再任を妨げない。

(委員の報酬及び費用弁償)

第5条 委員の報酬及び費用弁償は、沖縄市特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例(昭和49年沖縄市条例第25号)を適用する。

(その他必要な事項)

第6条 この条例に定めるもののほか、審議会に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成20年3月26日条例第8号)

この条例は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成23年12月9日条例第14号)

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の第3条の規定により、沖縄市スポーツ振興審議会（以下「旧審議会」という。）の委員として委嘱されている者は、この

条例の施行の日に、この条例による改正後の沖縄市スポーツ推進審議会に関する条例（以下「新条例」という。）第3条の規定により、沖縄市スポーツ推進審議会の委員として委嘱されたものとみなす。この場合において、その委嘱されたものとみなされる者の任期は、新条例第4条第1項の規定にかかわらず、同日における旧審議会の委員としての任期の残任期間と同一の期間とする。

附 則(令和2年12月28日条例第28号)抄
(施行期日)

- 1 この条例は、令和3年4月1日から施行する。

03 スポーツコンベンションシティ宣言

スポーツコンベンションシティ宣言

(平成8年9月24日議決)

わたしたち沖縄市民は、地域に根ざしたスポーツ活動を通して、健康で豊かな心とからだを育て、活気と共感に満ちたスポーツ交流のまちづくりをめざし、ここに「スポーツコンベンションシティ」を宣言します。

1. わたしたち市民は、生涯を通しスポーツに親しみ、健康で
住みよいまちをつくれます。
1. わたしたち市民は、スポーツを通し友情の輪を広げ、平和で
やさしいまちをつくれます。
1. わたしたち市民は、スポーツ交流を通し文化を高め、活気に
満ちたまちをつくれます。

04 沖縄市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査

(1) 調査の目的と実施概要

① 調査の目的

令和6（2024）年度から5年間のスポーツ推進の指針となる「第2期沖縄市スポーツ推進計画」の策定に向け、市民のスポーツ活動に関するニーズや実態を把握するとともに、市のスポーツ振興事業を推進していくための基礎資料とすべく、日頃取り組まれているスポーツ活動の現状や、スポーツについての意見・ニーズなどを伺うアンケート調査を実施した。

② 調査対象

沖縄市内在住の16歳以上の市民のうち、4,000人を無作為抽出した。

③ 調査方法

郵送による調査票の配布・回収を行った。

④ 調査期間

令和5年9月14日～令和5年10月4日

⑤ 回収結果

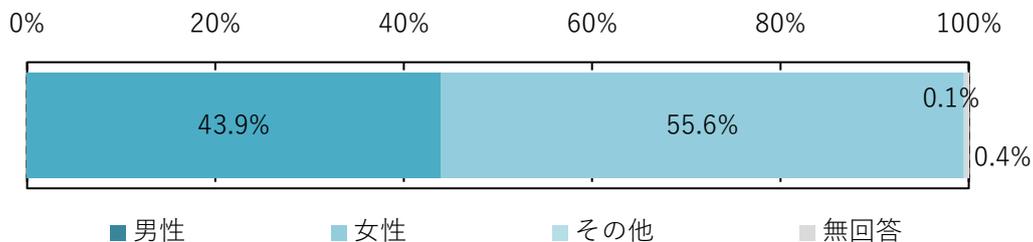
回収数：781件（回収率19.5%）

(2) 調査結果

属性

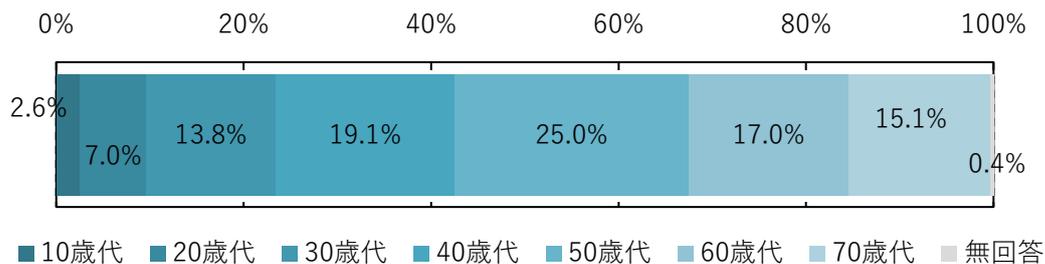
① 性別 (n=781)

回答者の性別割合は、「男性」が43.9%、「女性」が55.6%、「その他」が0.1%であった。



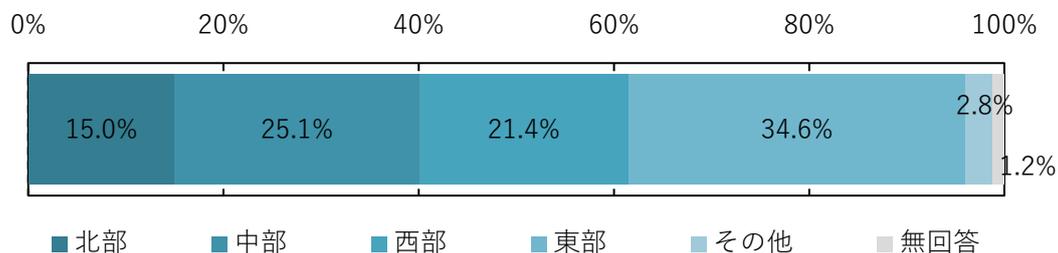
② 年代 (n=781)

回答者の年代割合は、「50歳代」が最も多く25.0%、続いて「40歳代」が19.1%、「60歳代」が17.0%となっており、幅広い年代から回答を得ることができた。



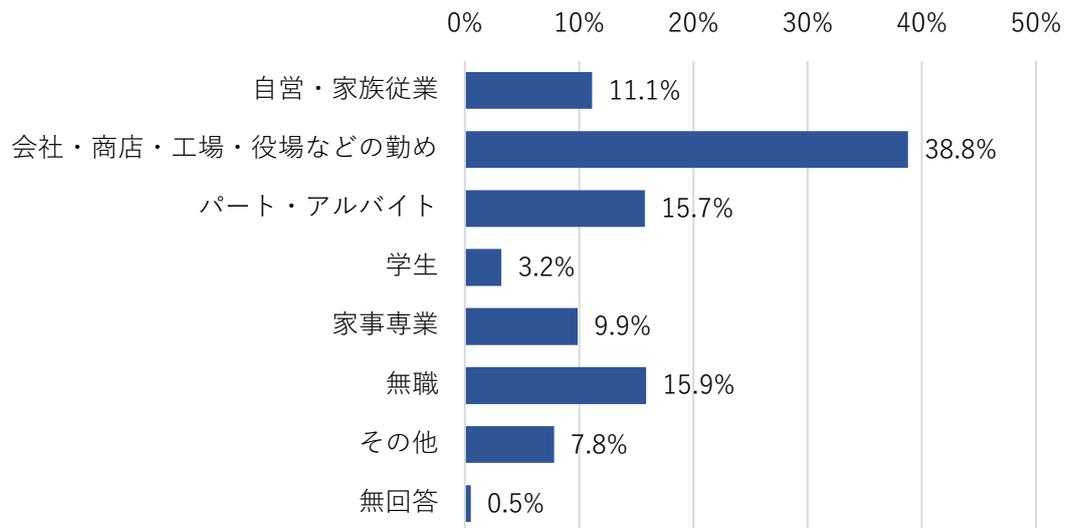
③ 居住地域 (n=781)

回答者のお住まいは、「東部」が34.6%、「中部」が25.1%、「西部」が21.4%、「北部」が15.0%となった。



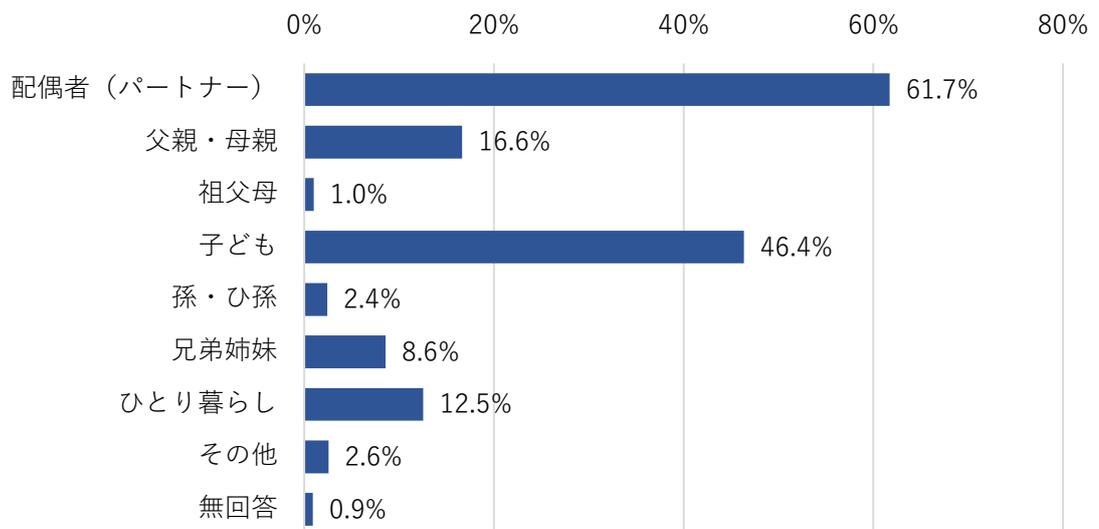
④ 職業 (n=781)

回答者の職業は、「会社・商店・工場・役場などの務め」が最も多く 38.8%、続いて「無職」が 15.9%、「パート・アルバイト」が 15.7%となった。



⑤ 同居家族 (n=781)

回答者の同居家族は、「配偶者（パートナー）」が最も多く 61.7%、続いて「子ども」が 46.4%、「父親・母親」が 16.6%となった。



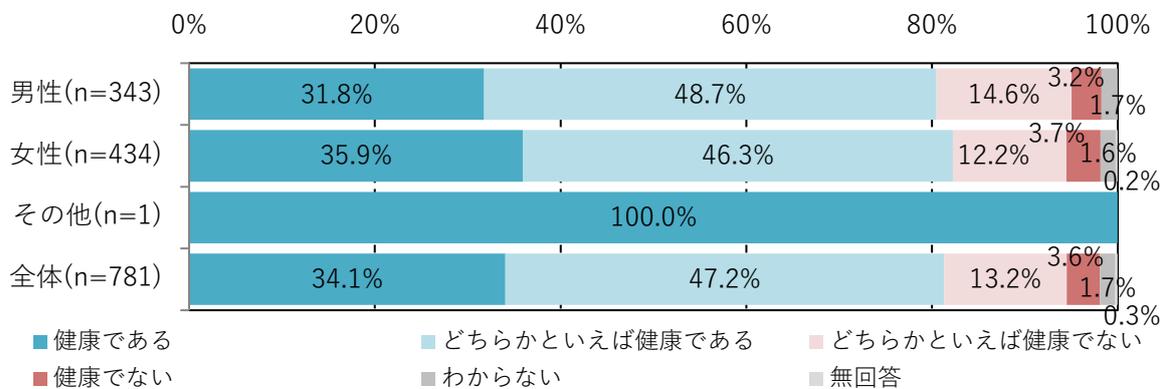
① 性別ごとの健康・体力感について

健康自認について、全体の81.3%が「健康である」または「どちらかといえば健康である」と回答しており、性別ごとの回答も同程度の割合となった。

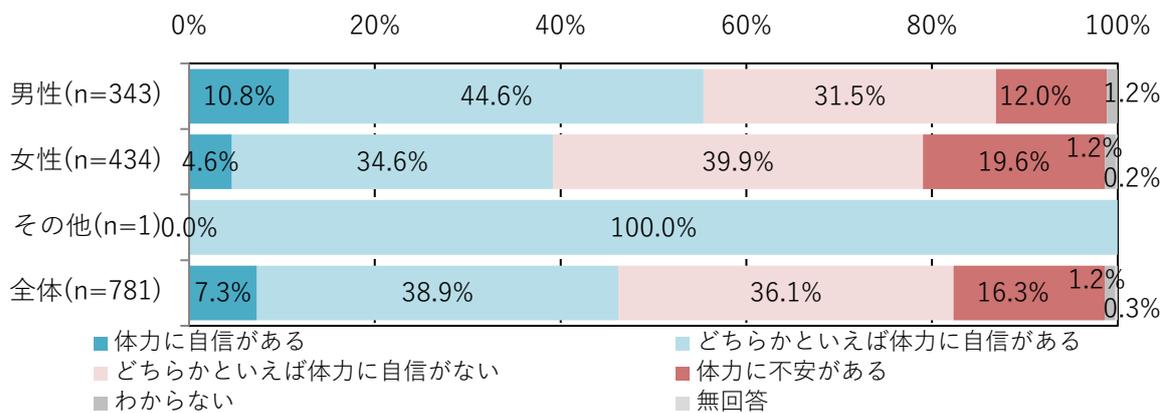
体力自認について、「どちらかといえば体力に自信がない」または「体力に不安がある」と回答した方が52.4%と全体の半数以上を占めた。性別ごとに見ると、女性が「どちらかといえば体力に自信がない」または「体力に不安がある」と回答した方が多かった。

運動不足自認について、全体の80.5%が運動不足を「大いに感じる」または「ある程度感じる」と回答しており、性別ごとの回答も同程度の割合となった。

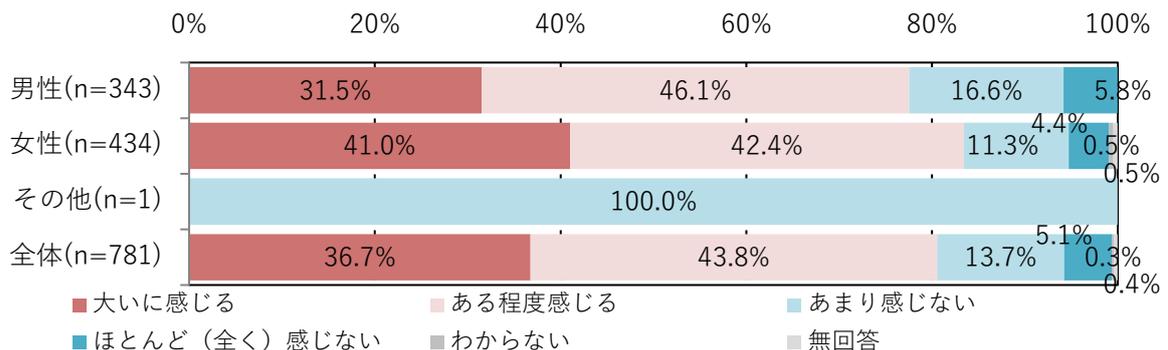
■健康自認



■体力自認



■運動不足

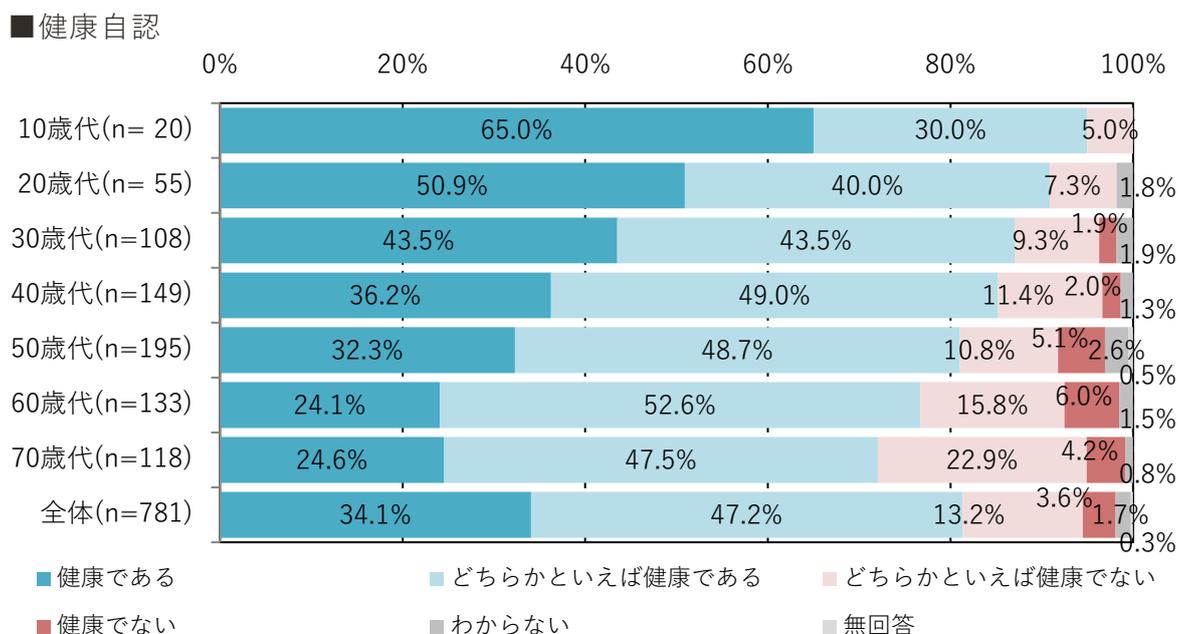


② 年代別の健康・体力感について

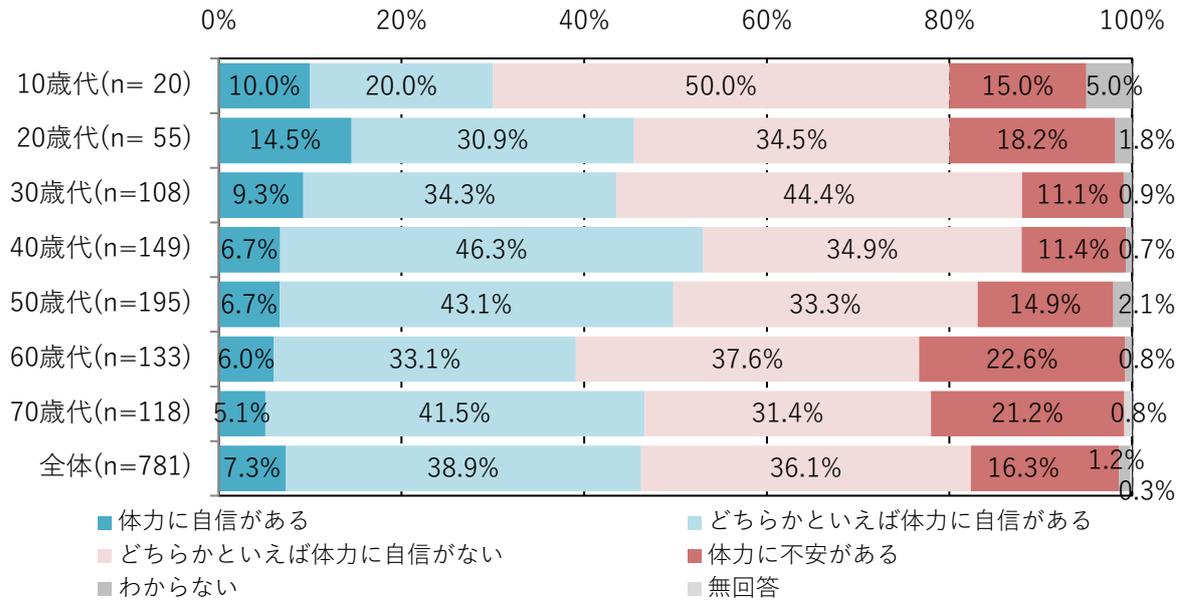
健康自認について、全体の81.3%が「健康である」または「どちらかといえば健康である」と回答した。一方、年代が上がるにつれ「(どちらかといえば)健康である」と答える割合は低下しており、10歳代では95.0%あったのに対し、70歳代では72.1%となった。

体力自認について、「どちらかといえば体力に自信がない」または「体力に不安がある」と回答した方が52.4%と全体の半数以上を占めた。年代別では、10歳代(65.0%)と60歳代(60.2%)において、「どちらかといえば体力に自信がない」または「体力に不安がある」と回答した方が他の年代に比べて多かった。

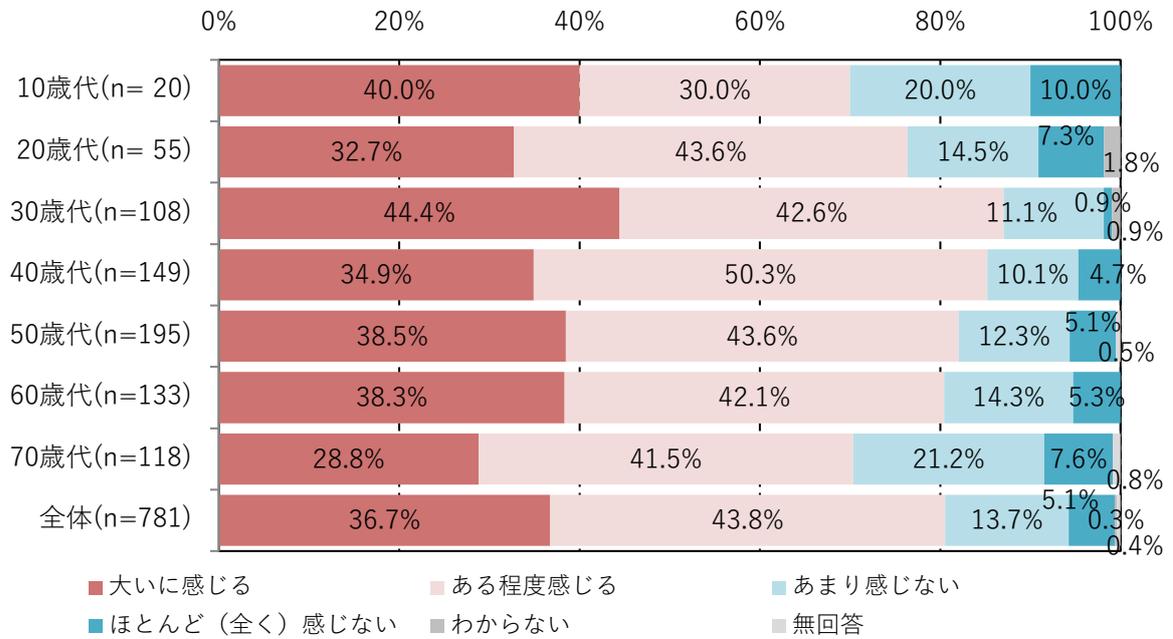
運動不足自認について、全体の80.5%が運動不足を「大いに感じる」または「ある程度感じる」と回答した。年代別では、10歳代(70.0%)と70歳代(70.3%)において、運動不足を「大いに感じる」「ある程度感じる」と回答した方が他の年代に比べて少なかった。



■ 体力自認



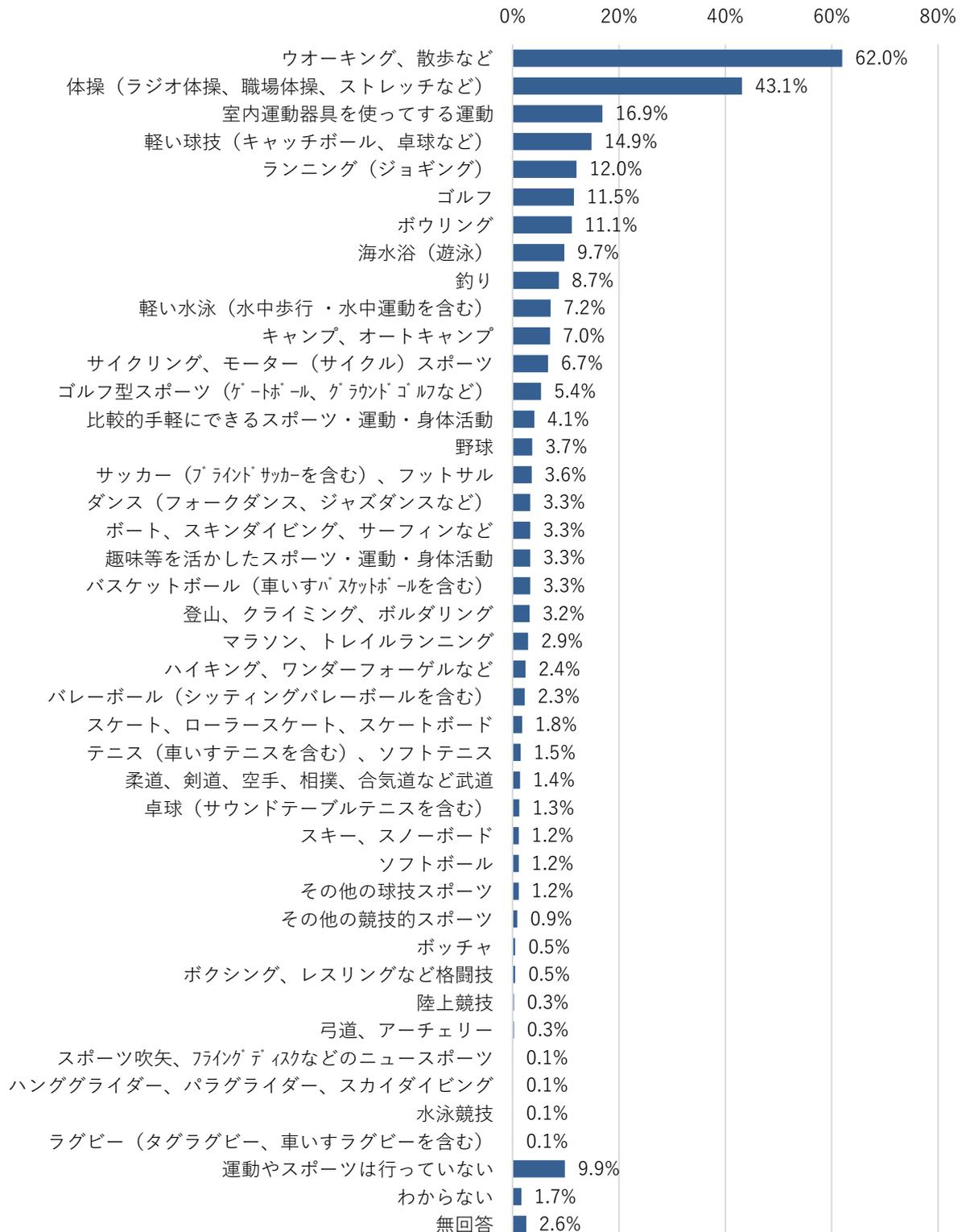
■ 運動不足自認



スポーツをすることについて

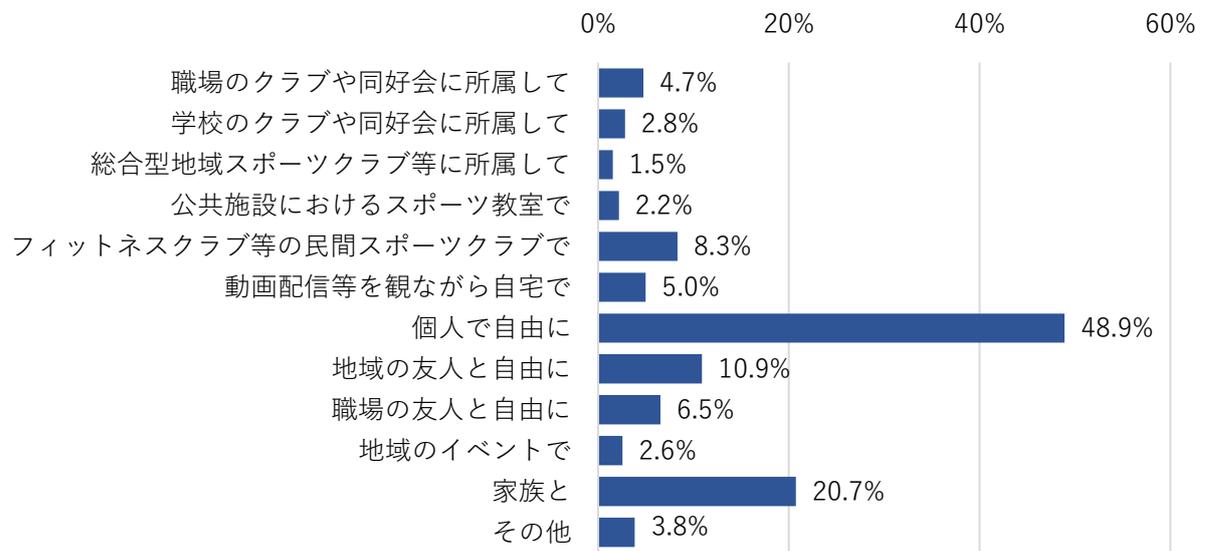
① この1年間に行った運動やスポーツ (n=781)

1年間に行った運動やスポーツは、「ウォーキング、散歩」が最も多く、62.0%を占めた。続いて、「体操」が43.1%、「室内運動器具を使ってする運動」が16.9%となった。一方、「運動やスポーツを行っていない」が9.9%、「わからない」が1.7%、無回答が2.6%であった。これらを除いた85.1%が本市の1年間のスポーツ実施割合である。



② 運動・スポーツを実施した形式 (n=781)

1年間になんらかの運動やスポーツを行った回答者のうち、運動・スポーツを実施した形式は、「個人で自由に」が最も多く、48.9%を占めた。続いて、「家族と」が20.7%、「地域の友人と自由に」が10.9%となった。

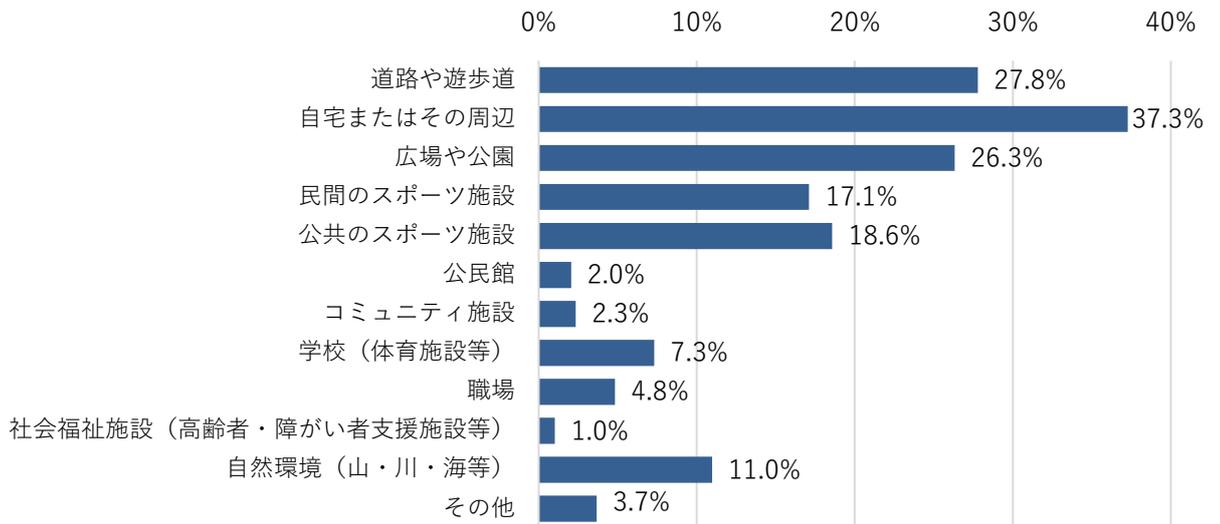


③ 運動・スポーツを実施した場所

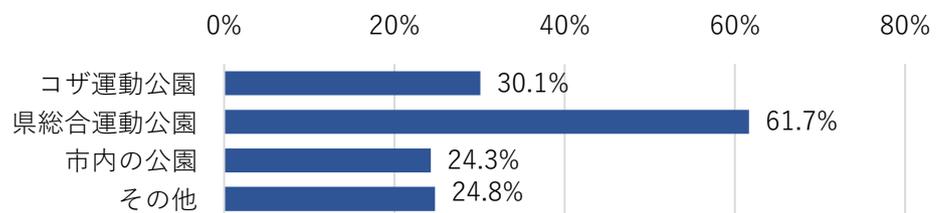
1年間になんらかの運動やスポーツを行った回答者のうち、運動・スポーツを実施した場所は、「自宅またはその周辺」が最も多く 37.3%、続いて「道路や遊歩道」が 27.8%、「広場や公園」が 26.3%となった。

また、「公共のスポーツ施設」のうち、市内に位置する「県総合運動公園」で運動・スポーツを実施したという方が 61.7%と最も多かった。

■ 運動・スポーツを実施した場所 (n=684)



■ 運動・スポーツを実施した公共のスポーツ施設 (n=206)



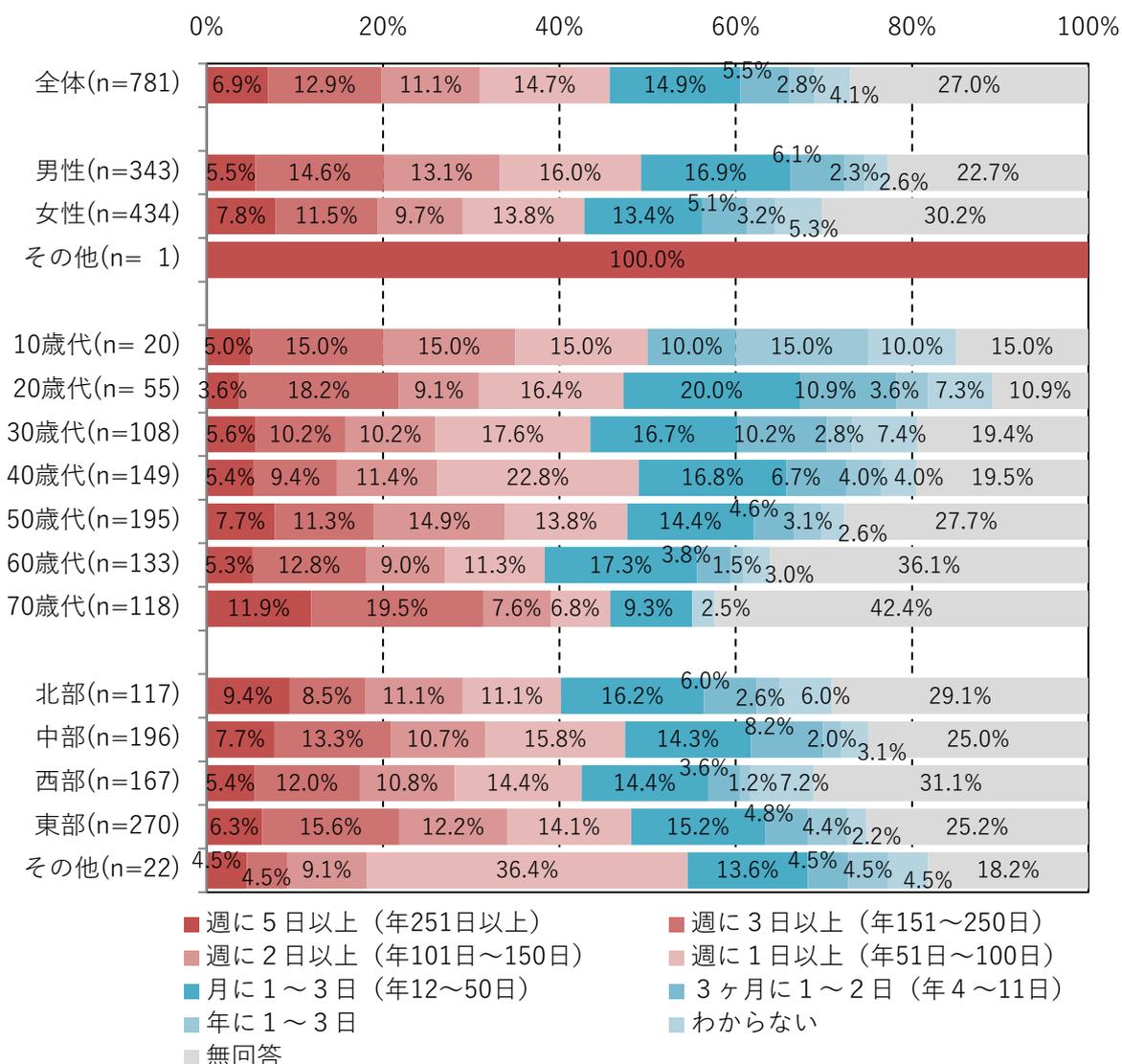
④ 運動・スポーツを行った日数 (n=781)

この1年間で運動・スポーツを行った日数は、「週に5日以上」が6.9%、「週に3日以上」が12.9%、「週に2日以上」が11.1%、「週に1日以上」が14.7%、「月に1~3日」が14.9%となった。これより、週に1日以上運動・スポーツをする割合（以降、「スポーツ実施率*1」という）は39.3%となった。

性別ごとのスポーツ実施率は、男性が43.0%、女性が36.3%と、男性がやや多かった。

年代ごとのスポーツ実施率は、40歳代が最も多く44.4%、続いて20歳代が43.0%、10歳代が42.5%となった。一方、60歳代は32.0%と最も低かった。

地域ごとのスポーツ実施率は、東部が最も多く41.4%、続いて中部が38.5%、西部が37.4%、北部が36.1%となった。



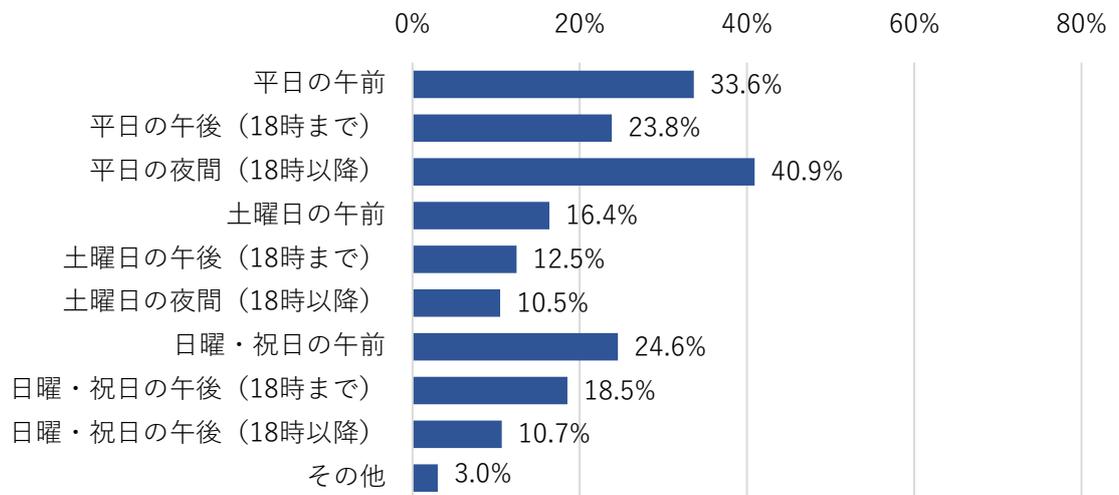
本設問については、「無回答」を含む回答者全員を母数として集計した。

*1 スポーツ実施率の算出方法は、

{1年間のスポーツ実施割合（ここでは15頁・①の回答から「運動やスポーツは行っていない」、「わからない」、無回答を除いた割合）} × (週に1日以上運動・スポーツをする割合) × 1 / 100

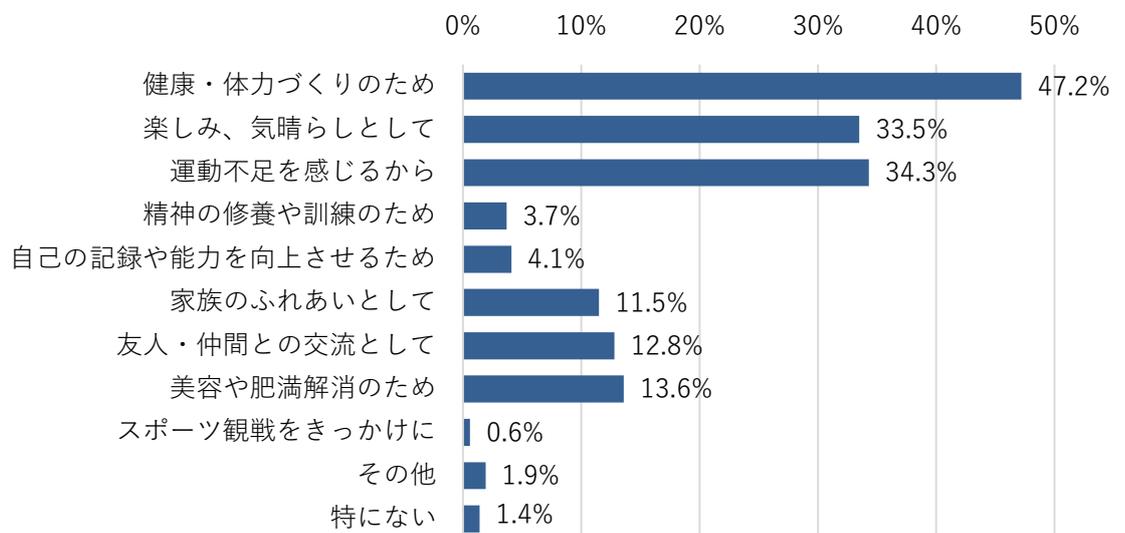
⑤ 運動・スポーツを実施した曜日や時間帯 (n=562)

1年間になんらかの運動やスポーツを行った回答者のうち、運動をした曜日や時間帯は、「平日の夜間 (18時以降)」が最も多く 40.9%、続いて「平日の午前」が 33.6%、「日曜・祝日の午前」が 24.6%となった。



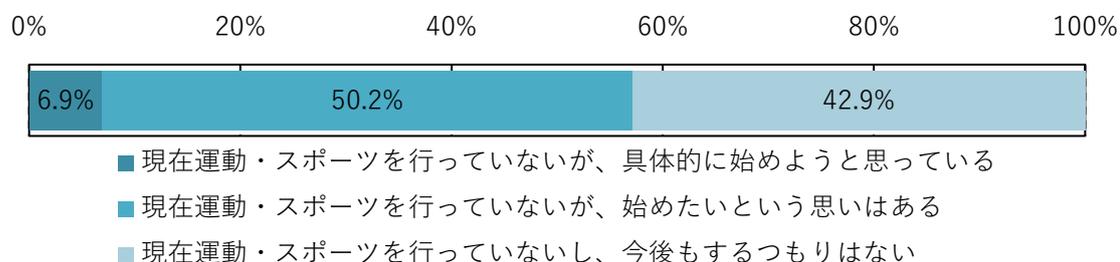
⑥ 運動・スポーツを実施した理由 (n=781)

運動・スポーツをした理由は、「健康・体力づくりのため」が最も多く 47.2%、続いて「運動不足を感じるから」が 34.3%、「楽しみ、気晴らしとして」が 33.5%となった。



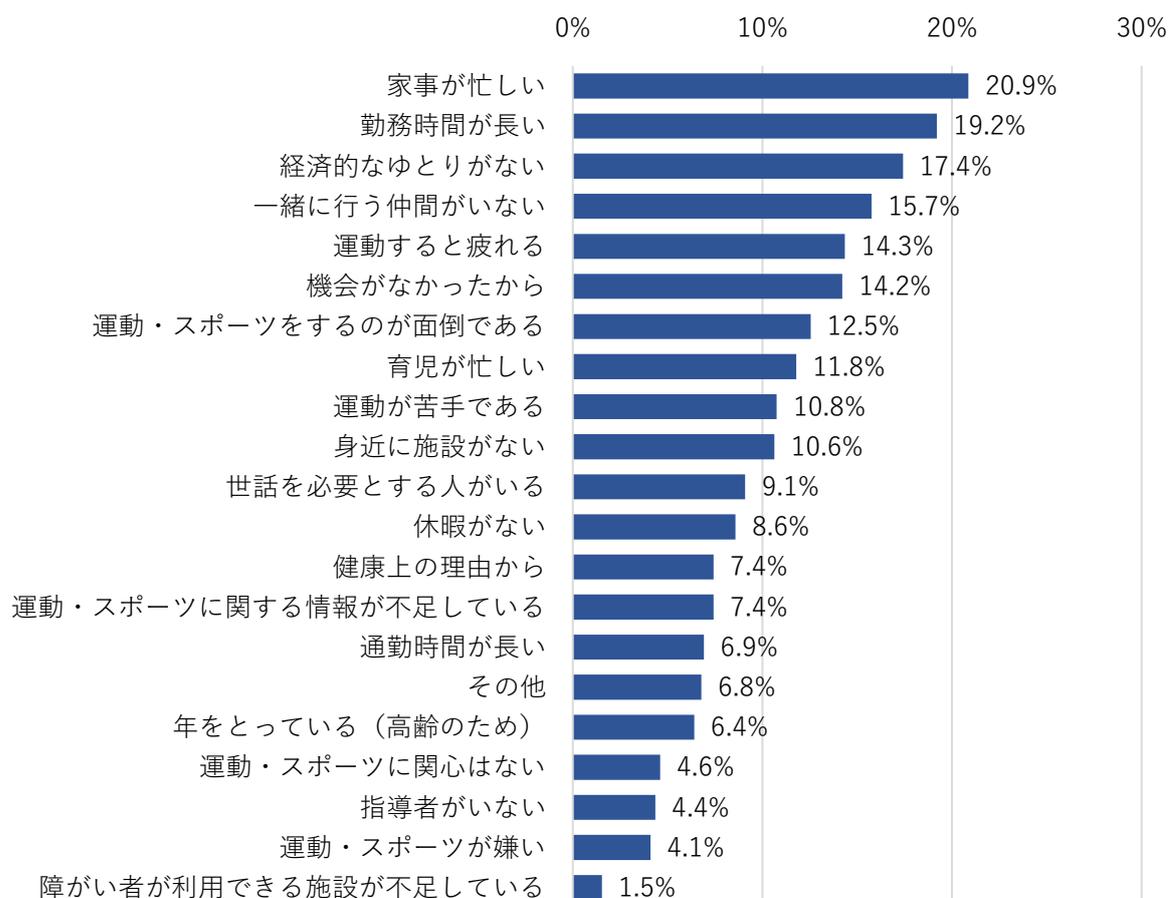
⑦ 運動・スポーツの今後の実施意向 (n=231)

1年間に運動やスポーツを行っていない、または分からないと回答された方のうち、今後の運動・スポーツの実施意向は、「現在運動・スポーツを行っていないが、始めたいという思いはある」が50.2%、「現在運動・スポーツを行っていないし、今後もするつもりはない」が42.9%となった。一方、「現在運動・スポーツを行っていないが、具体的に始めようと思っている」はわずか6.9%であった。



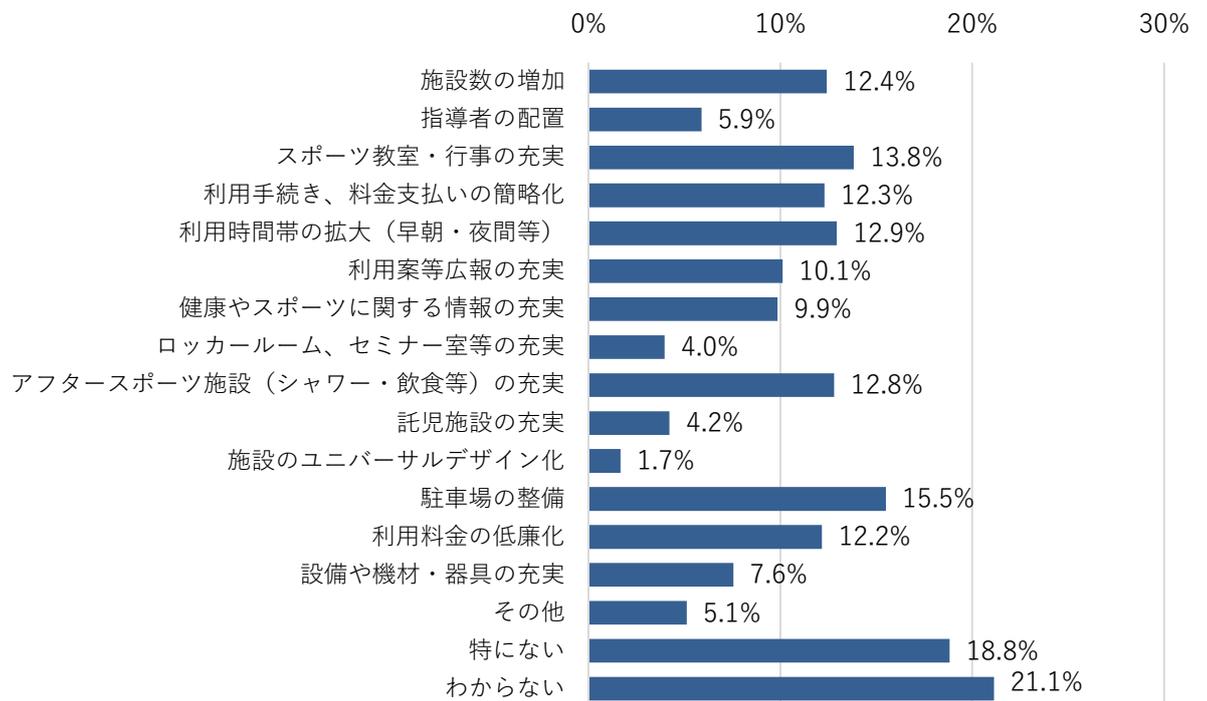
⑧ 運動・スポーツの実施における困り事や阻害要因、または実施しない理由 (n=781)

運動・スポーツの実施にあたって困っていることや妨げになっていること、または実施しない(できない)理由をうかがったところ、「家事が忙しい」が最も多く20.9%、続いて「勤務時間が長い」が19.2%、「経済的なゆとりがない」が17.4%、「一緒に行く仲間がない」が15.7%、「運動すると疲れる」が14.3%となった。



⑨ コザ運動公園内の各スポーツ施設に望むこと (n=402)

コザ運動公園内の各スポーツ施設に望むことは、「特にない」「わからない」を除くと、「駐車場の整備」が最も多く 15.5%、続いて「スポーツ教室・行事の充実」が 13.8%、「利用時間帯の拡大（早朝・夜間等）」が 12.9%となった。



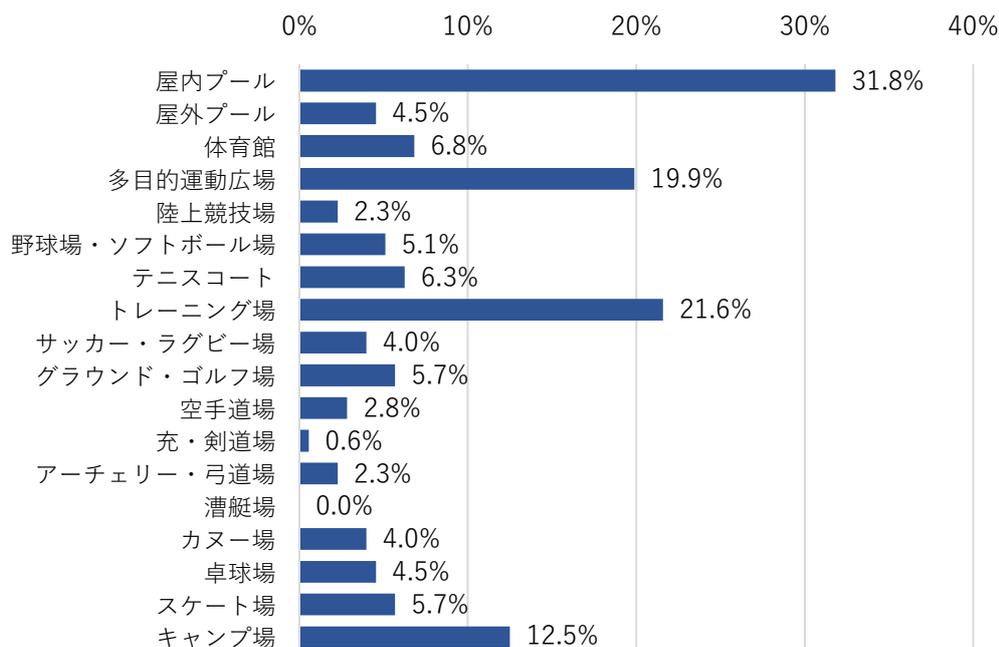
⑩ 本市で不足している施設

本市の施設で不足している競技は、「屋内プール」が最も多く 31.8%、続いて「トレーニング場」が 21.6%、「多目的運動広場」が 19.9%となった。

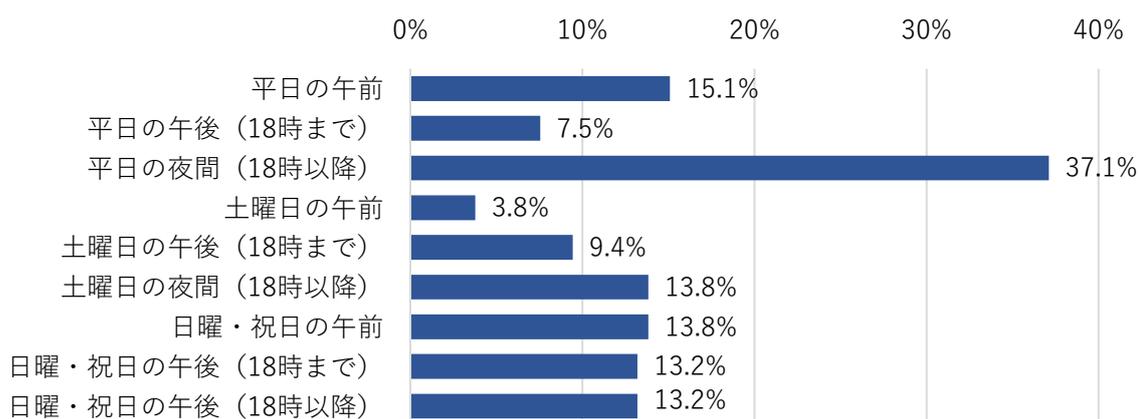
本市の施設で不足している時間帯は、「平日の夜間（18時以降）」が最も多く 37.1%、続いて「平日の午前」が 15.1%、「土曜日の夜間（18時以降）」および「日曜・祝日の午前」がいずれも 13.8%となった。

本市の施設が不足している地域は、「中部」が 70.3%と特に多かった。

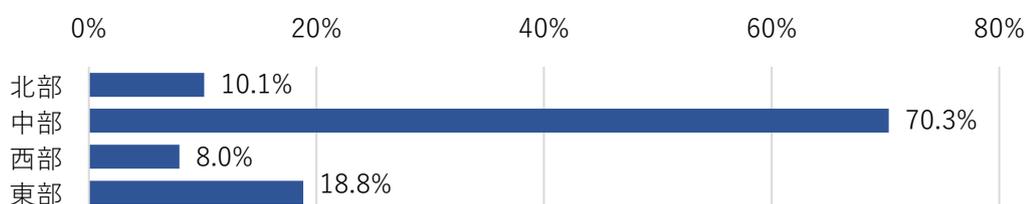
■不足している競技（n=176）



■不足している時間帯（n=159）



■不足している地域（n=138）

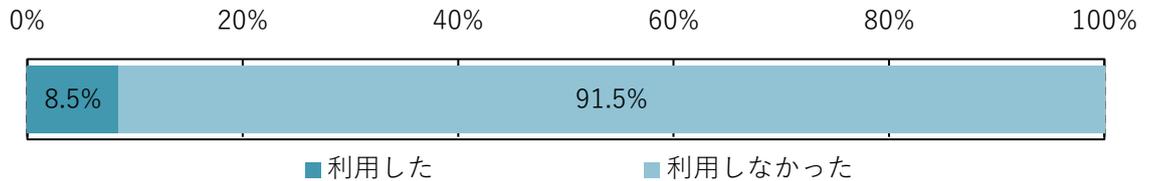


⑪ 市内の学校体育施設の利用状況

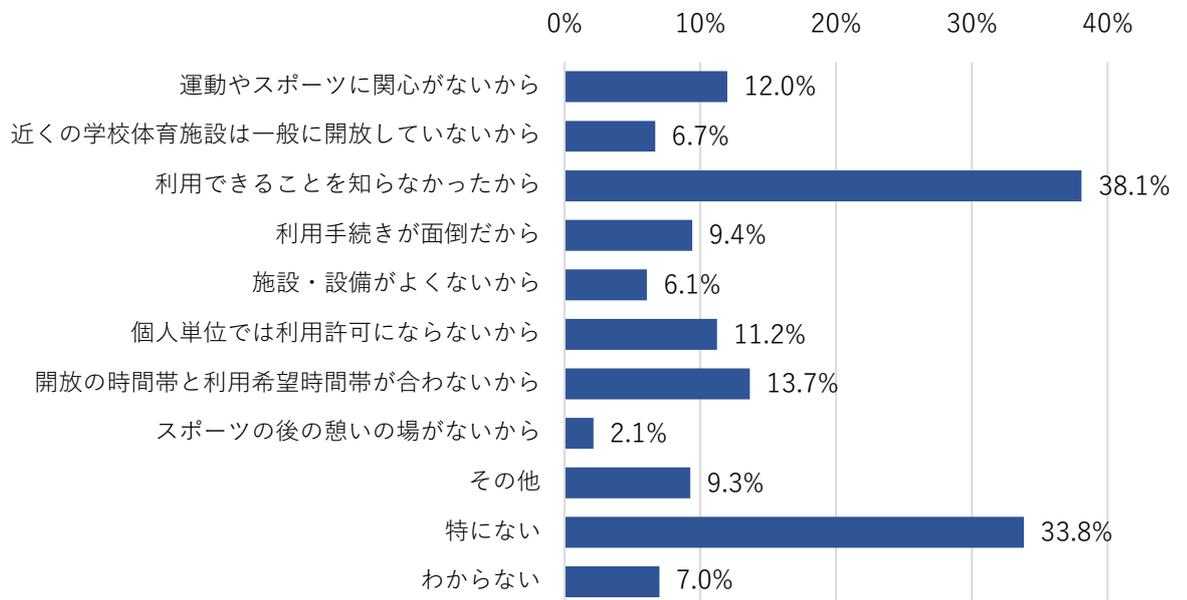
1年間で市内の学校の体育施設（運動場、体育館、プールなど）の利用状況は、「利用した」が8.5%、一方で「利用しなかった」が91.5%と特に多かった。

なお、利用しなかった理由は、「利用できることを知らなかったから」が最も多く38.1%、続いて「特にない」が33.8%であった。

■市内の学校体育施設の利用有無（n=720）

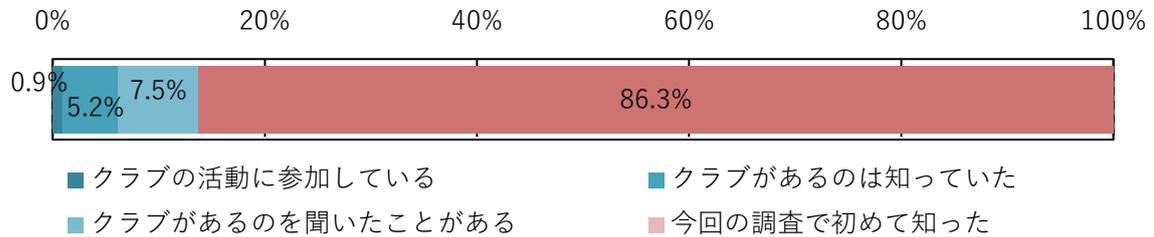


■市内の学校体育施設を利用しなかった理由（n=659）



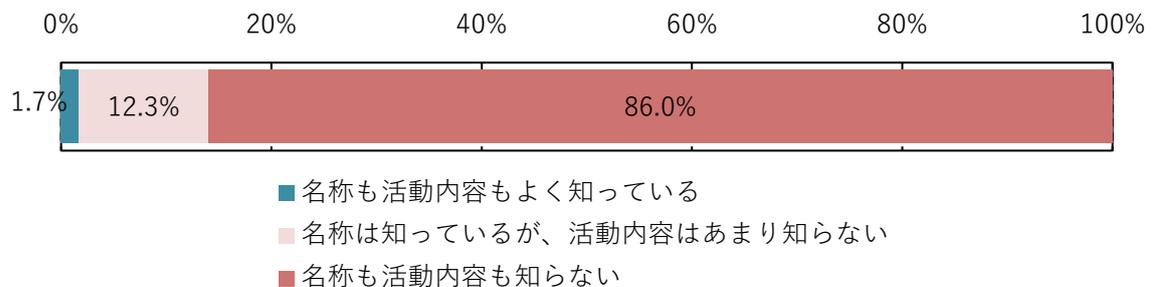
⑫ 総合型地域スポーツクラブの認知度 (n=743)

総合型地域スポーツクラブの認知度をうかがったところ、「今回の調査で初めて知った」が 86.3%と大半を占め、「クラブがあるのを聞いたことがある」が 7.5%、「クラブがあるのは知っていた」が 5.2%、「クラブの活動に参加している」と回答した方は 0.9%であった。



⑬ スポーツ推進委員の認知度 (n=750)

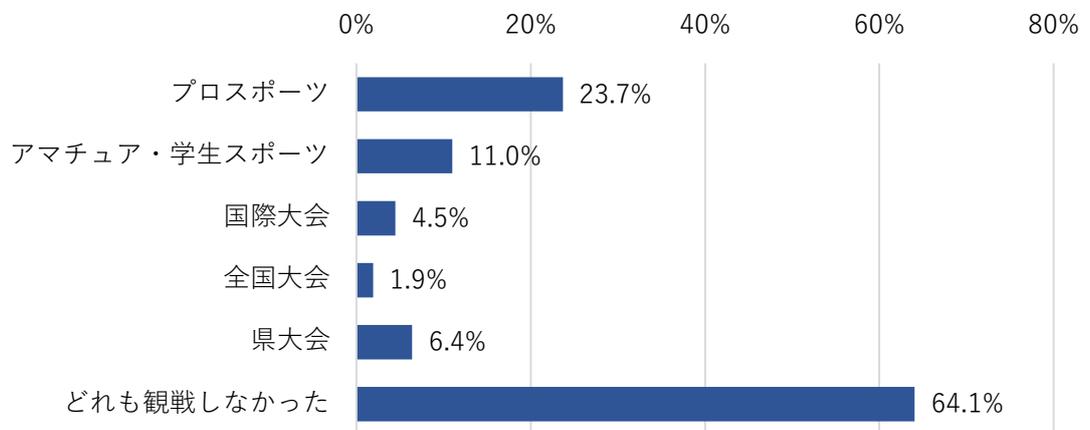
スポーツ推進委員の認知度をうかがったところ、「名称も活動内容も知らない」が 86.0%と大半を占め、「名称は知っているが、活動内容はあまり知らない」が 12.3%、「名称も活動内容もよく知っている」と回答した方は 1.7%であった。



スポーツをみることについて

① スポーツの観戦状況 (n=781)

スポーツの観戦状況をうかがったところ、「どれも観戦しなかった」が 64.1% と最も多かった。観戦した方のうち、「プロスポーツ」が 23.7%、「アマチュア・学生スポーツ」が 11.0% と多くなった。



② カテゴリ別の観戦状況

カテゴリ別の観戦状況は次頁以降の通りであった。なお、観戦の頻度については、「無回答」を含む回答者全員を母数として集計した。

結果は次頁以降に整理した。

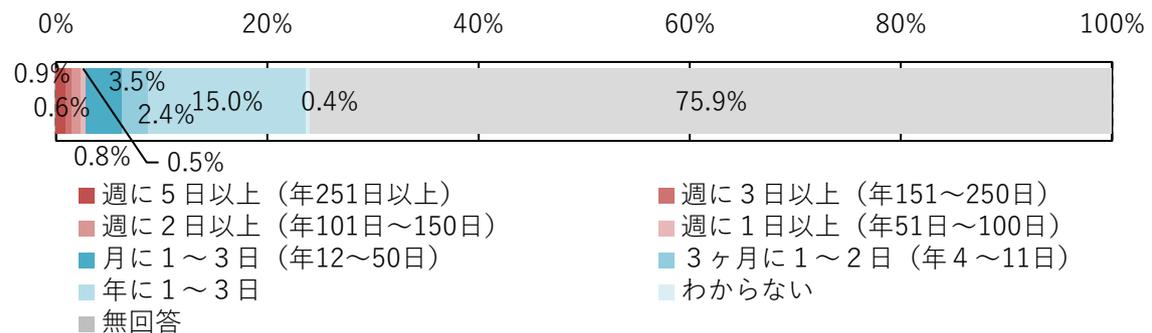
■ プロスポーツ

プロスポーツの観戦状況は、75.9%が「無回答」だったが、「年に1～3日」が15.0%、「月に1～3日」が3.5%であった。なお、年に1日以上プロスポーツを観戦する割合（以降、「観戦率」という）は23.7%であった。

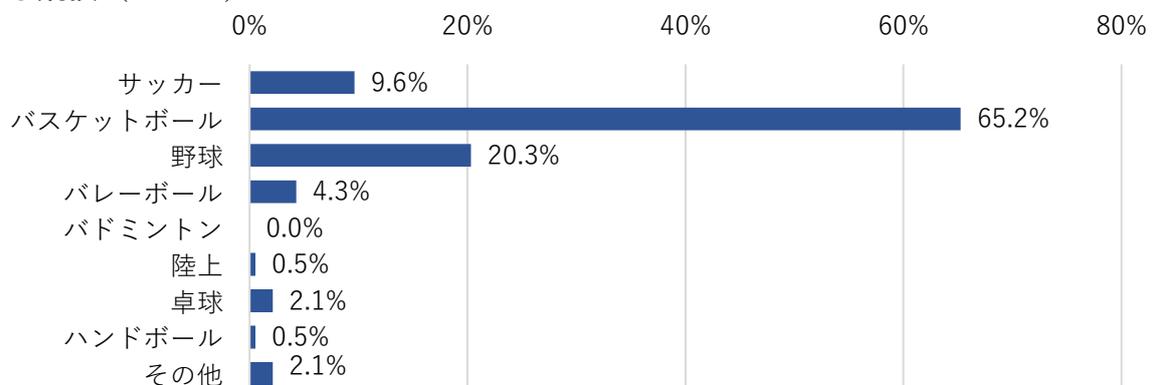
観戦した方のうち、競技の内訳は、「バスケットボール」が65.2%と最も多く、続いて「野球」が20.3%、「サッカー」が9.6%であった。

観戦した方のうち、観戦した理由は、「好きなチーム・選手の応援のため」が45.1%と最も多く、続いて「その競技が好きだから」が35.3%、「楽しいから」が33.2%であった。

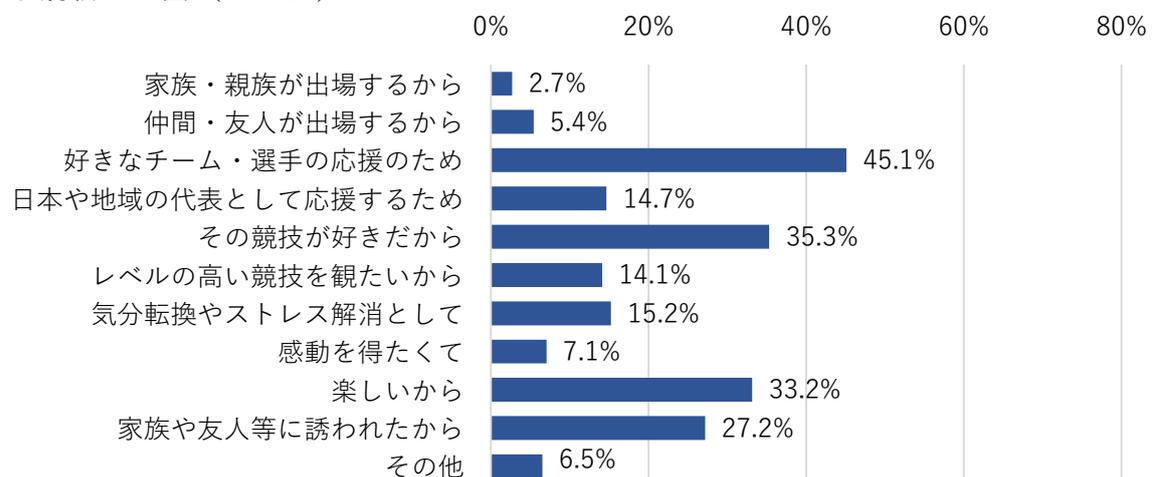
● 頻度 (n=781)



● 競技 (n=187)



● 観戦の理由 (n=184)



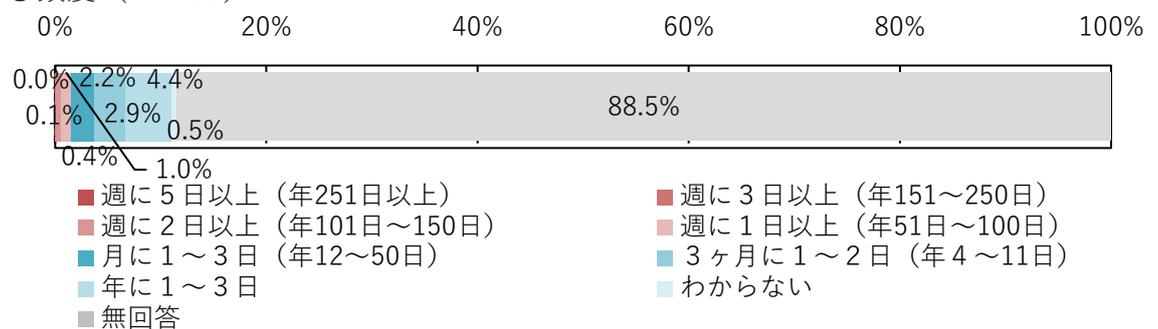
■アマチュア・学生スポーツ

アマチュア・学生スポーツの観戦状況は、88.5%が「無回答」だったが、「年に1～3日」が4.4%、「3ヶ月に1～2日」が2.9%であった。なお、アマチュア・学生スポーツの観戦率は11.0%であった。

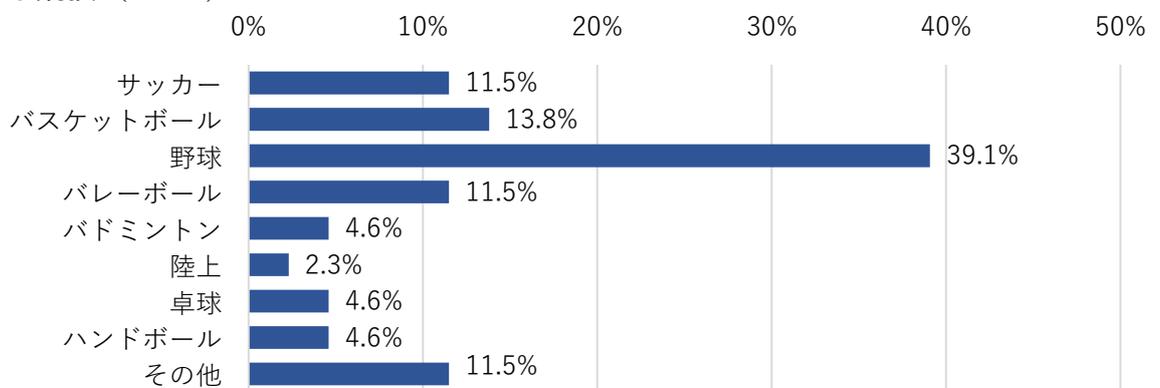
観戦した方のうち、競技の内訳は、「野球」が39.1%と最も多く、続いて「バスケットボール」が13.8%、「サッカー」および「バレーボール」が11.5%であった。

観戦した方のうち、観戦した理由は、「家族・親族が出場するから」が55.3%と最も多く、続いて「その競技が好きだから」が34.1%、「楽しいから」が21.2%であった。

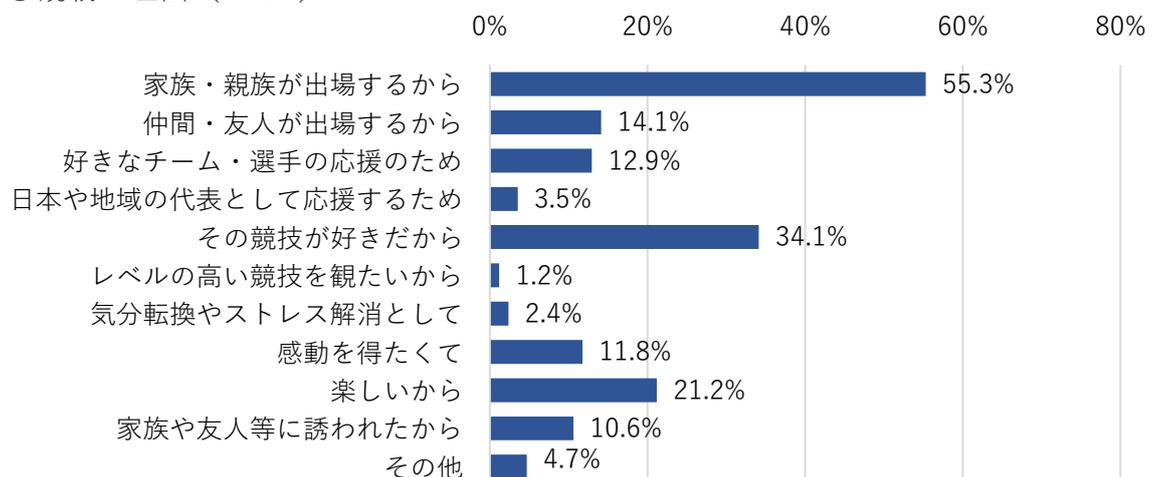
●頻度 (n=781)



●競技 (n=87)



●観戦の理由 (n=85)



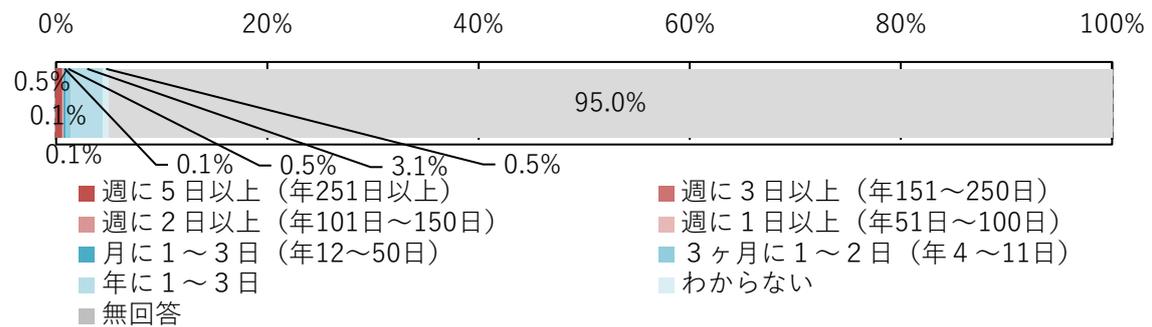
■ 国際大会

国際大会の観戦状況は、95.0%が「無回答」だったが、「年に1～3日」が3.1%、「週に5日以上」および「3ヶ月に1～2日」が0.5%であった。なお、国際大会の観戦率は4.5%であった。

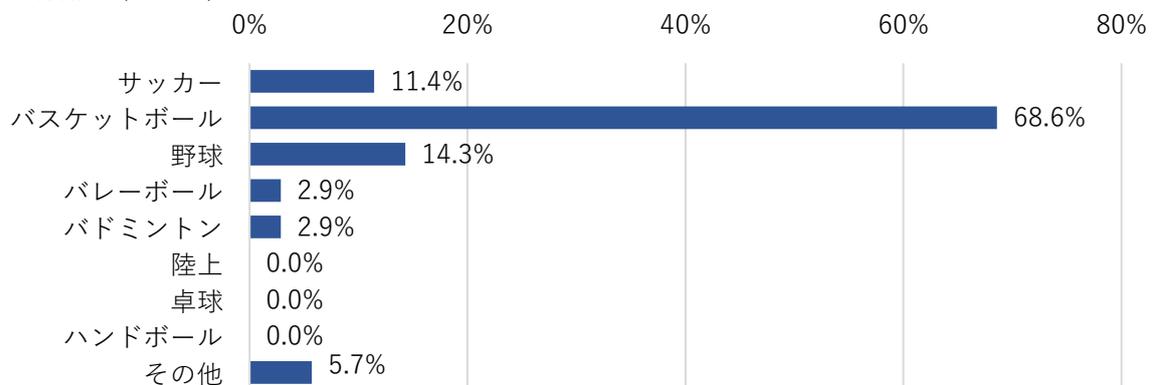
観戦した方のうち、競技の内訳は、「バスケットボール」が68.6%と最も多く、続いて「野球」が14.3%、「サッカー」が11.4%であった。

観戦した方のうち、観戦した理由は、「日本や地域の代表として応援するため」が44.1%と最も多く、続いて「レベルの高い競技を観たいから」が38.2%、「その競技が好きだから」および「楽しいから」が29.4%であった。

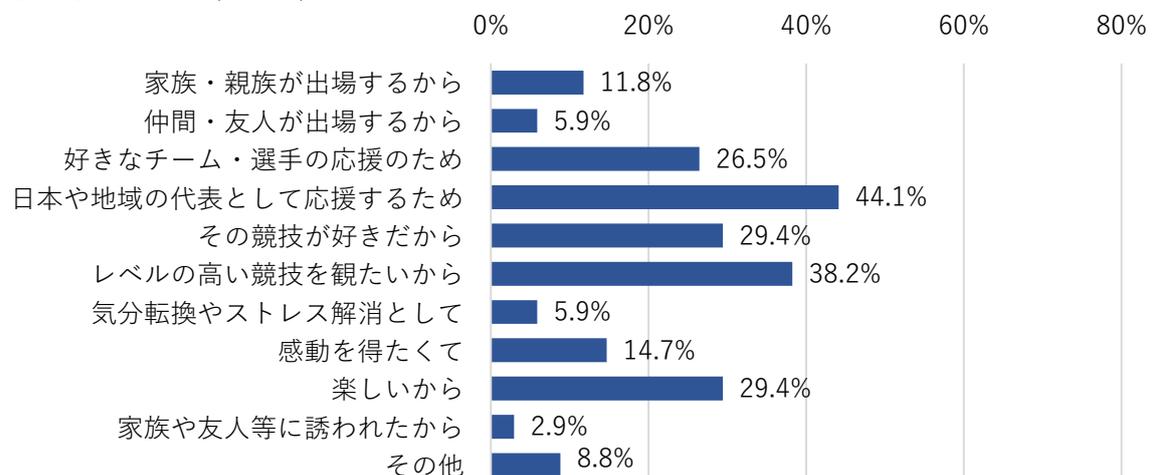
● 頻度 (n=781)



● 競技 (n=35)



● 観戦の理由 (n=34)



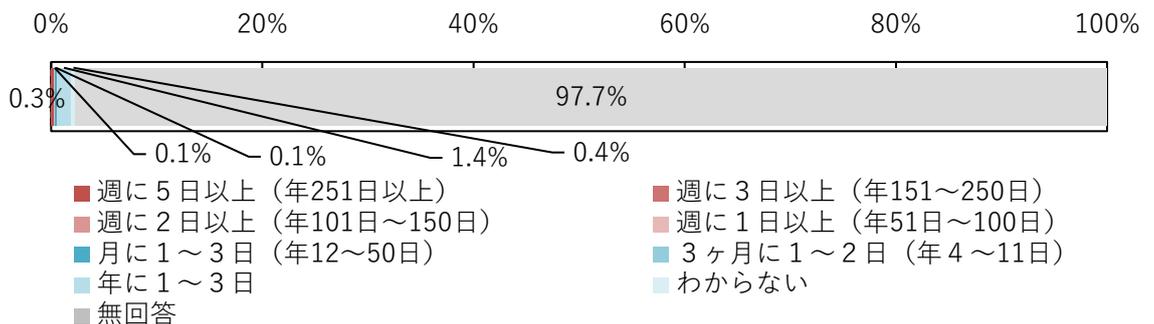
■全国大会

全国大会の観戦状況は、97.7%が「無回答」だったが、「年に1～3日」が1.4%、「週に5日以上」が0.3%であった。なお、全国大会の観戦率は1.9%であった。

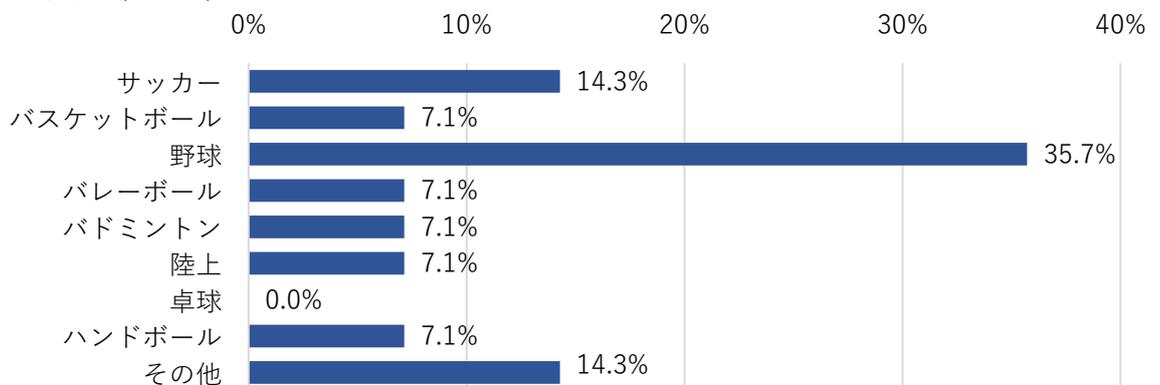
観戦した方のうち、競技の内訳は、「野球」が35.7%と最も多く、続いて「サッカー」が14.3%であった。

観戦した方のうち、観戦した理由は、「楽しいから」が37.5%と最も多く、続いて「家族・親族が出場するから」が31.3%、「日本や地域の代表として応援するため」が25.0%であった。

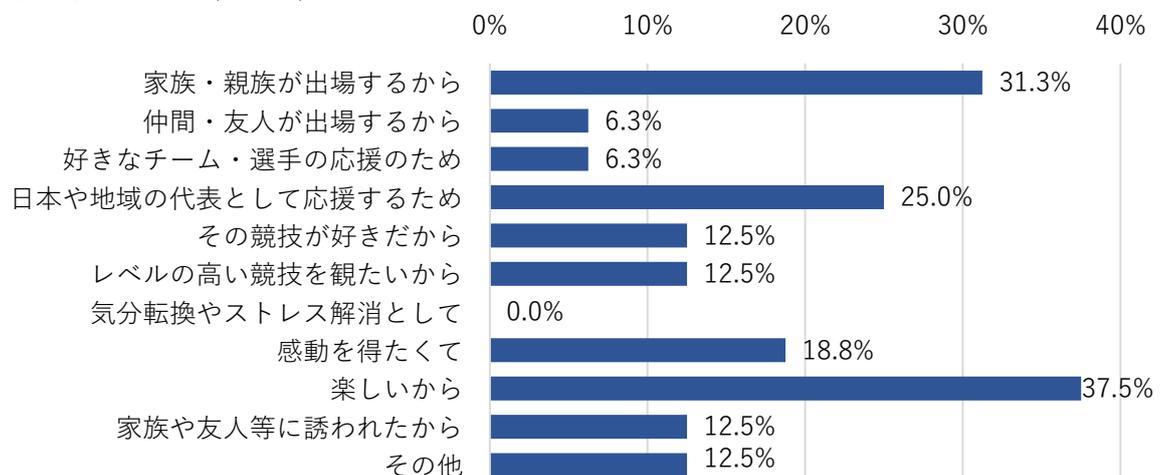
●頻度 (n=781)



●競技 (n=14)



●観戦の理由 (n=16)



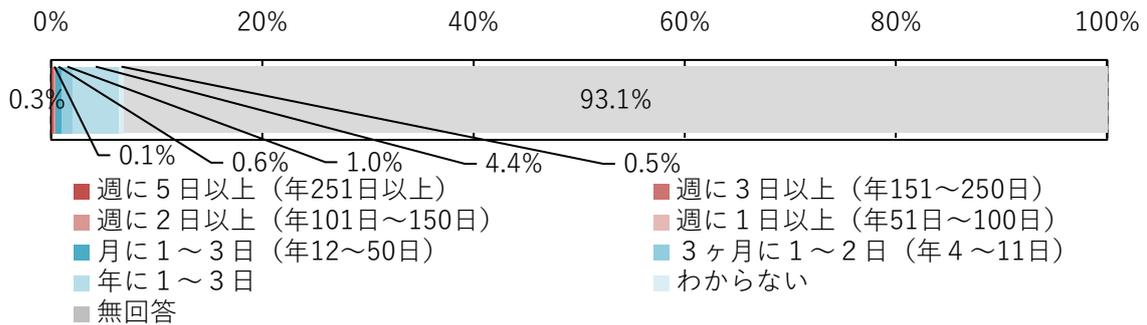
■ 県大会

県大会の観戦状況は、93.1%が「無回答」だったが、「年に1～3日」が4.4%、「3ヶ月に1～2日」が1.0%であった。なお、県大会の観戦率は6.4%であった。

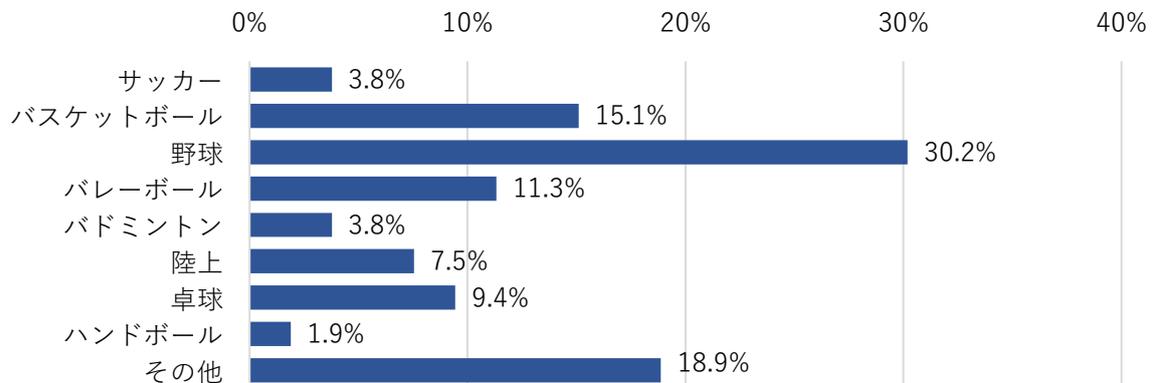
観戦した方のうち、競技の内訳は、「野球」が30.2%と最も多く、続いて「バスケットボール」が15.1%、「バレーボール」が11.3%であった。

観戦した方のうち、観戦した理由は、「家族・親族が出場するから」が56.0%と最も多く、続いて「その競技が好きだから」が34.0%、「仲間・友人が出場するから」が24.0%であった。

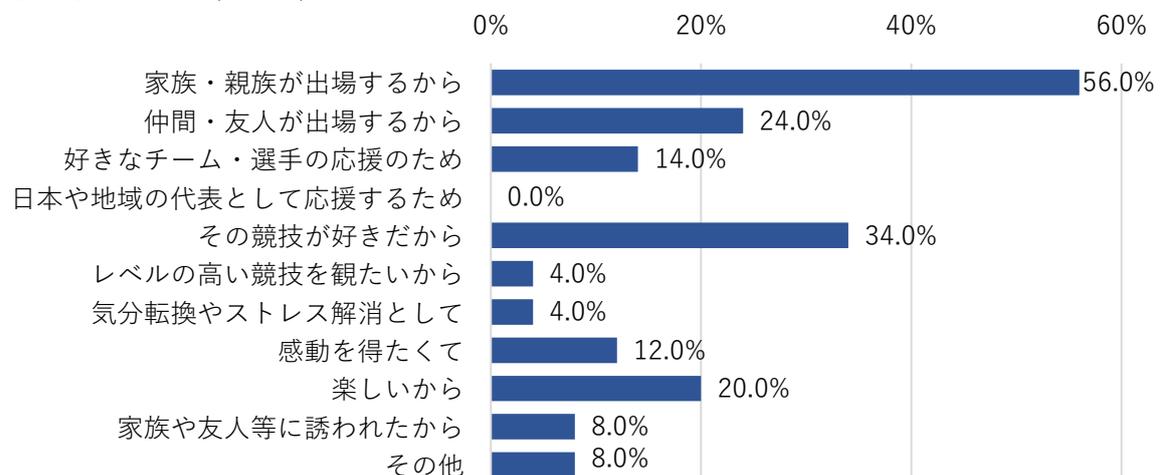
● 頻度 (n=781)



● 競技 (n=53)

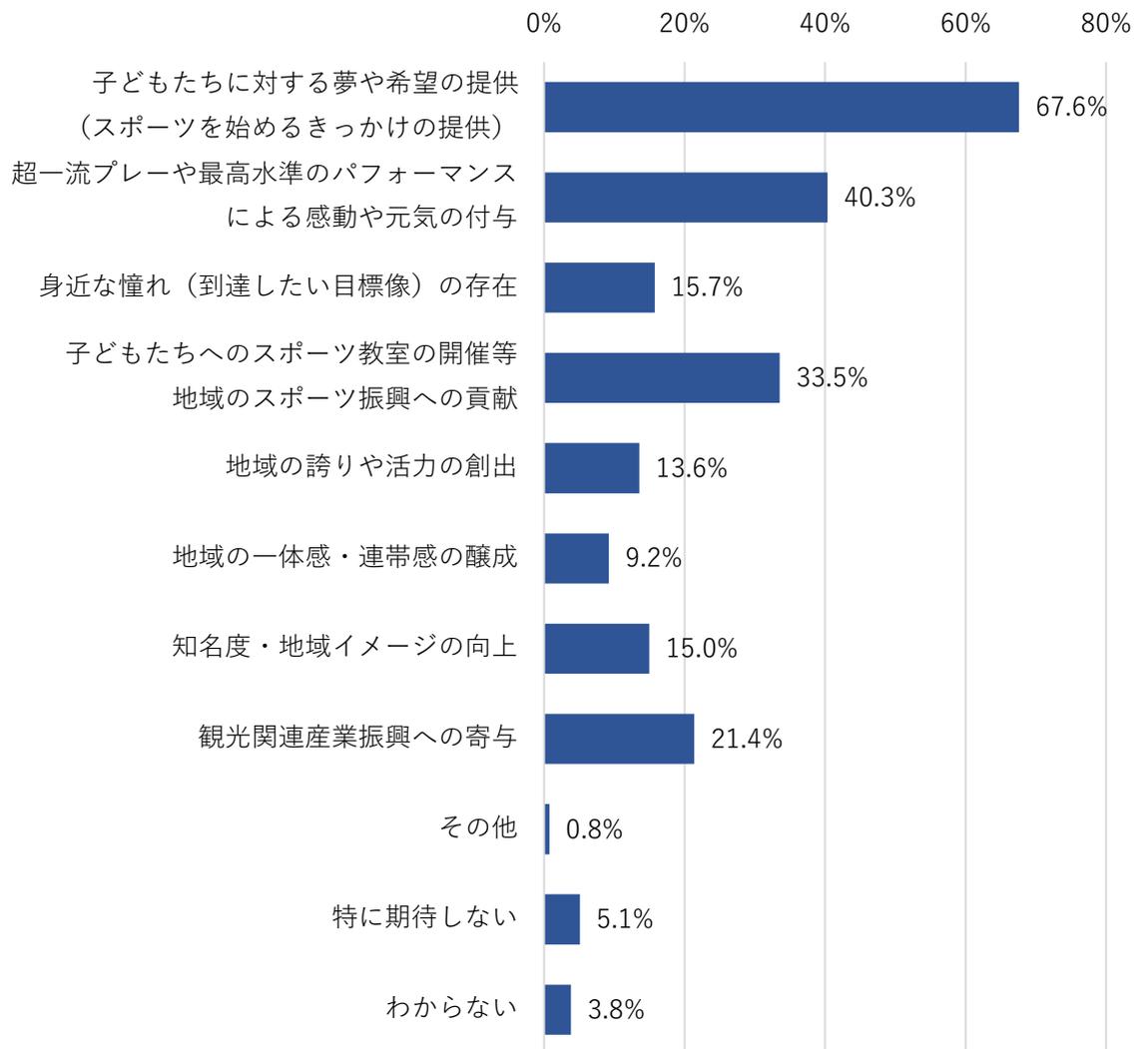


● 観戦の理由 (n=50)



③ スポーツコンベンションに期待される効果 (n=781)

市内でスポーツコンベンション（プロやアマチュアのスポーツチームがキャンプやゲーム）を行うことに、どのような効果が期待されるかがあったところ、「子どもたちに対する夢や希望の提供（スポーツを始めるきっかけの提供）」が67.6%と特に多く、続いて「超一流プレーや最高水準のパフォーマンスによる感動や元気の付与」が40.3%、「子どもたちへのスポーツ教室の開催等地域のスポーツ振興への貢献」が33.5%となった。

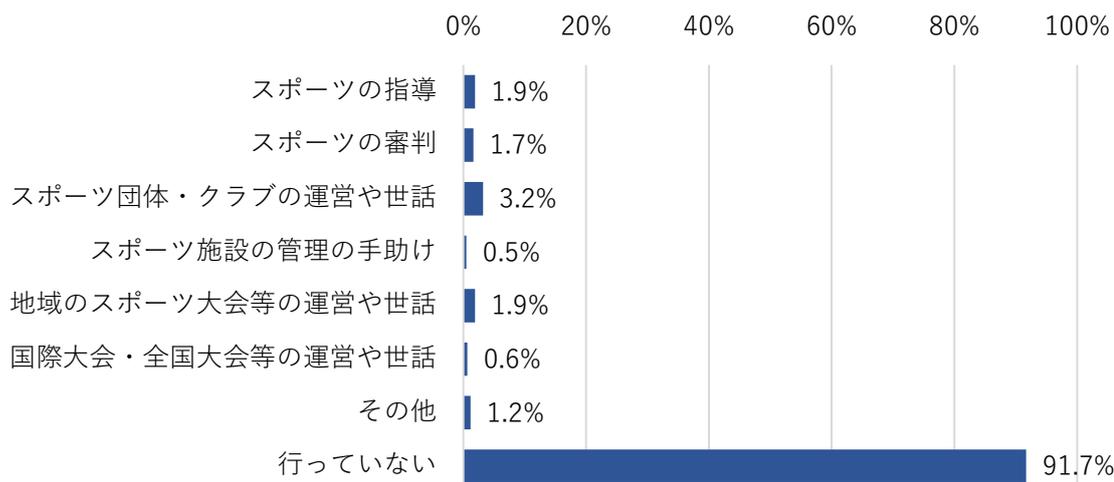


スポーツをささえることについて

① スポーツに関するボランティア活動の実施有無 (n=781)

1年間のスポーツに関するボランティア活動の実施有無をうかがったところ、「行っていない」が91.7%を占めた。これに対し、スポーツボランティアへの参加率は8.3%と確認できた。

また、ボランティア活動へ参加した方のうち、「スポーツ団体・クラブの運営や世話」が3.2%、「スポーツの指導」および「地域のスポーツ大会等の運営や世話」がいずれも1.9%となった。



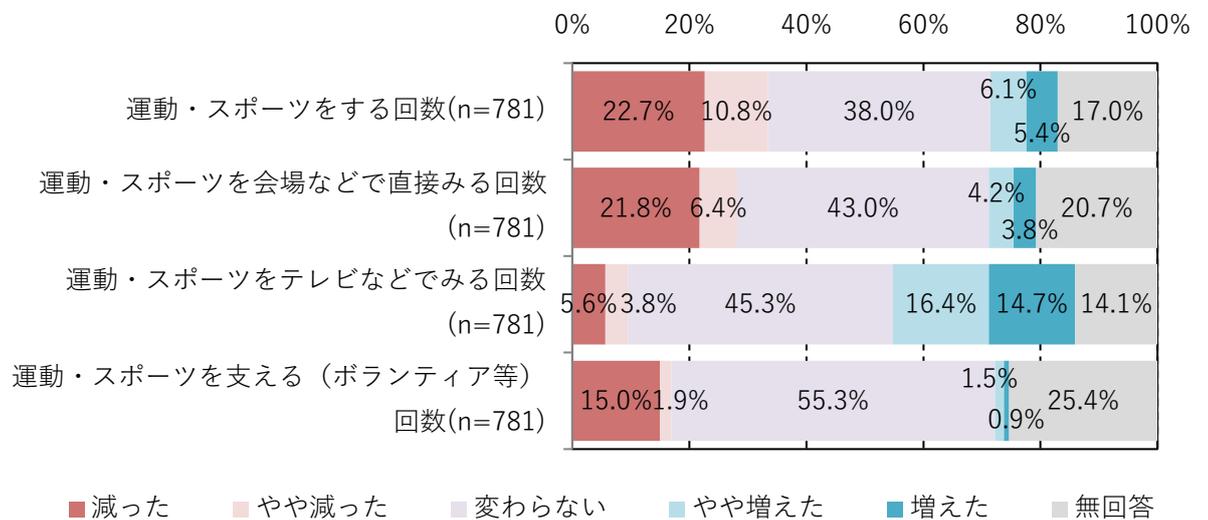
する・みる・ささえるの総合的なことについて

① 運動・スポーツをする・みる・ささえるの回数増減

新型コロナウイルス感染拡大前（2019年）と比較して、現在の運動・スポーツに関する“する”・“みる”・“ささえる”の回数増減をうかがったところ、以下の結果となった。

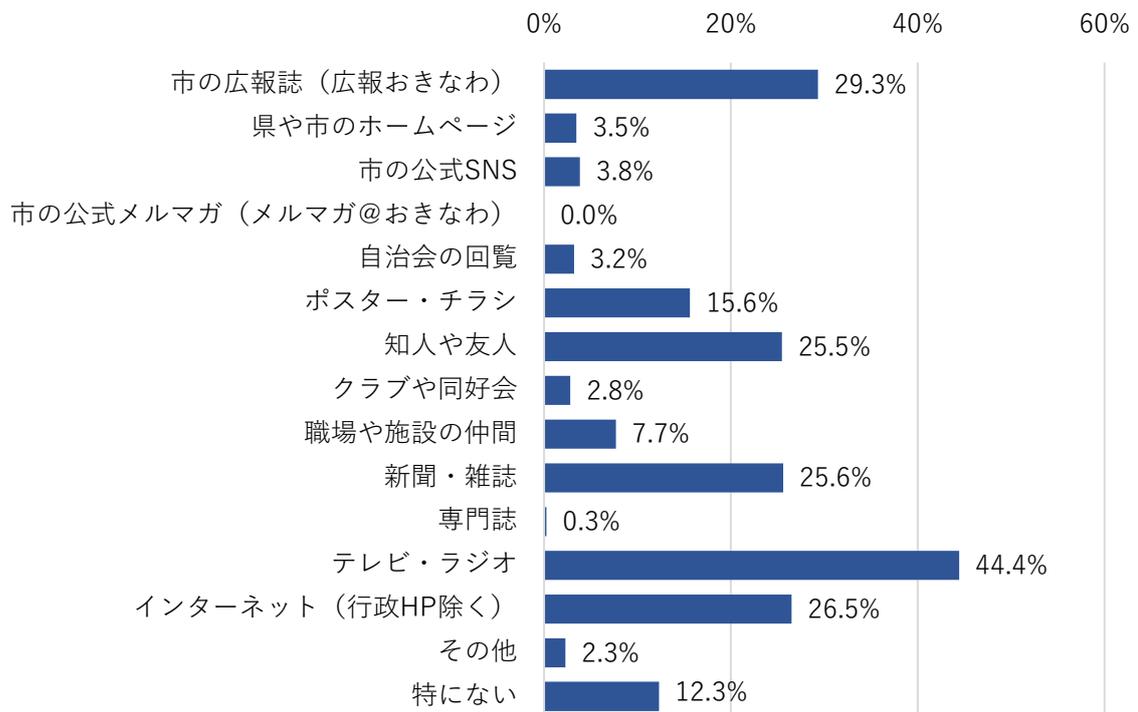
多くは「変わらない」という回答であったが、運動・スポーツを“する回数”および“会場などで直接みる回数”は30%～40%が「減った」または「やや減った」と回答している。また、“支える回数”においても「減った」と回答した方が15.0%であった。

一方、“テレビなどでみる回数”は「やや増えた」または「増えた」と回答した方が31.1%であり、コロナ禍で密を回避した生活様式が浸透したことが確認できる。



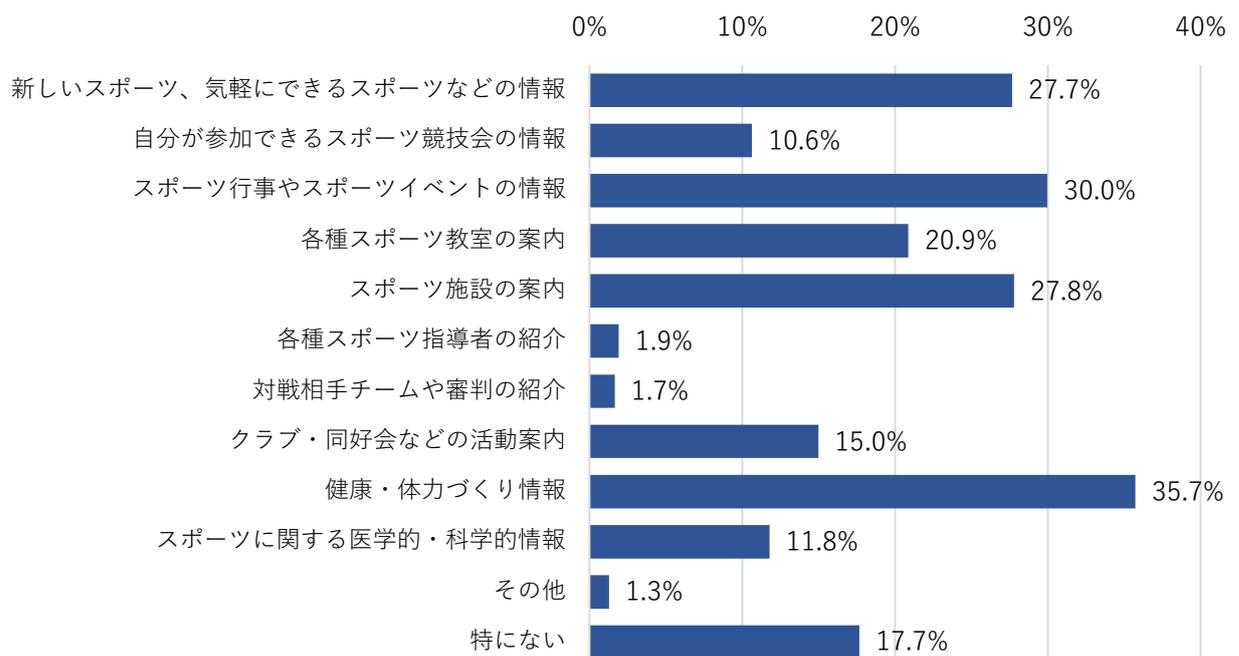
② 運動・スポーツに関する情報の獲得媒体 (n=781)

運動・スポーツに関する情報の獲得に活用された媒体は、「テレビ・ラジオ」が最も多く 44.4%、続いて「市の広報誌（広報おきなわ）」が 29.3%、「インターネット（行政 HP 除く）」が 26.5%となった。



③ 運動・スポーツに関して市に提供してほしい情報 (n=729)

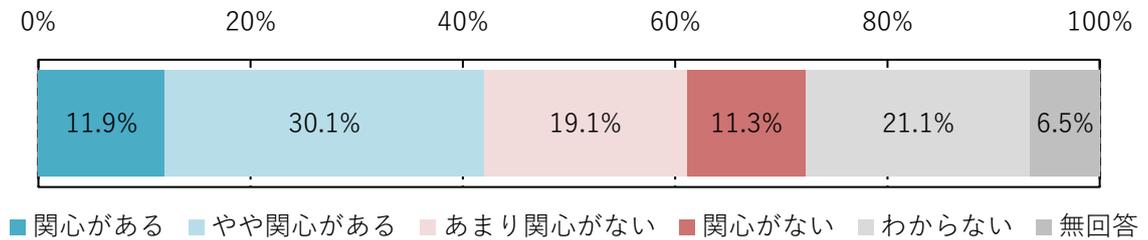
運動・スポーツに関して市に提供してほしい情報は、「健康・体力づくり情報」が最も多く 35.7%、続いて「スポーツ行事やスポーツイベントの情報」が 30.0%、「スポーツ施設の案内」が 27.8%、「新しいスポーツ、気軽にできるスポーツなどの情報」が 27.7%となった。



障がい者スポーツについて

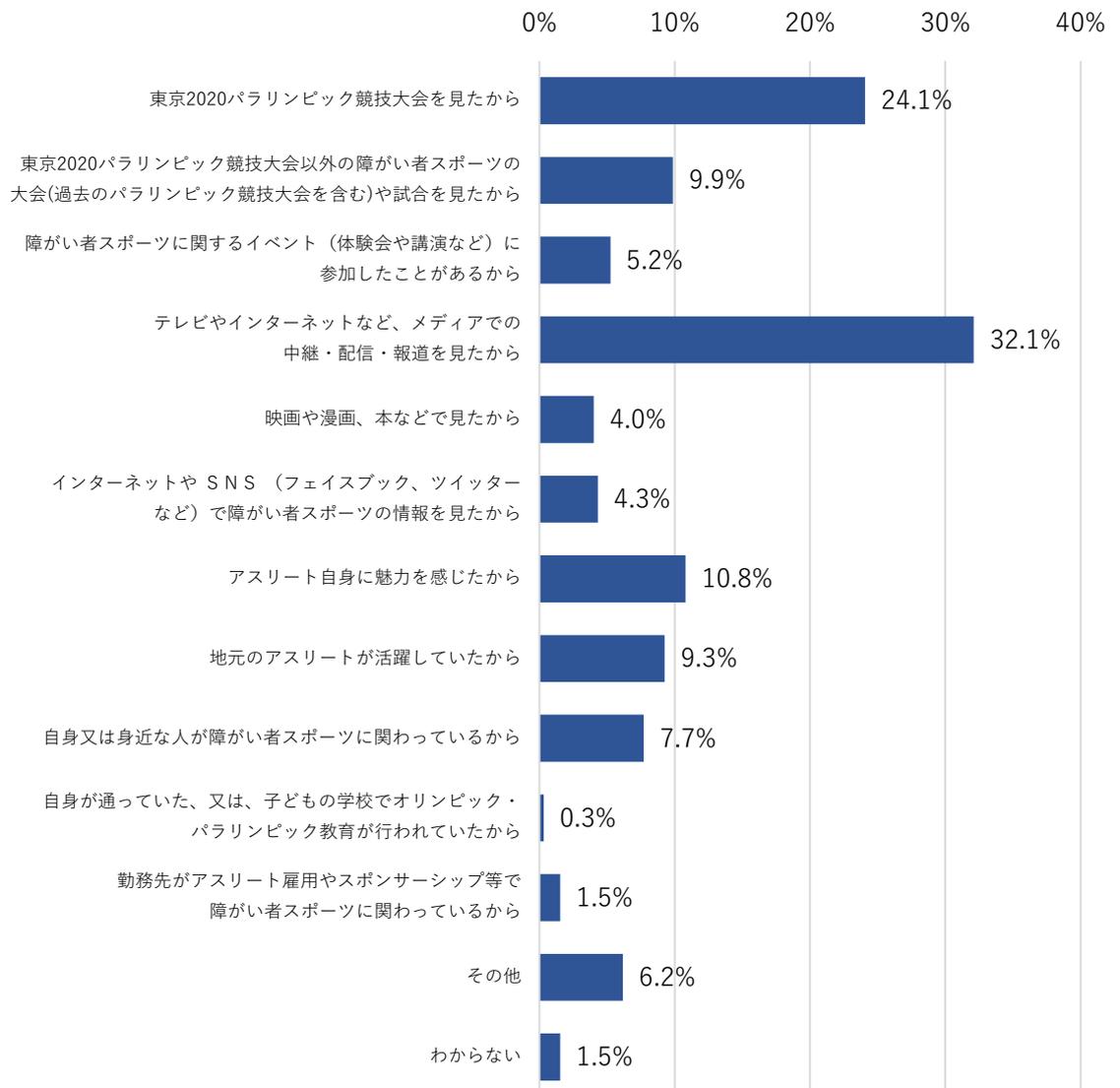
① 障がい者スポーツへの関心の有無 (n=730)

障がい者スポーツへの関心の有無は、「関心がある」および「やや関心がある」を合計すると 42.0%の方が関心を持っていると分かった。



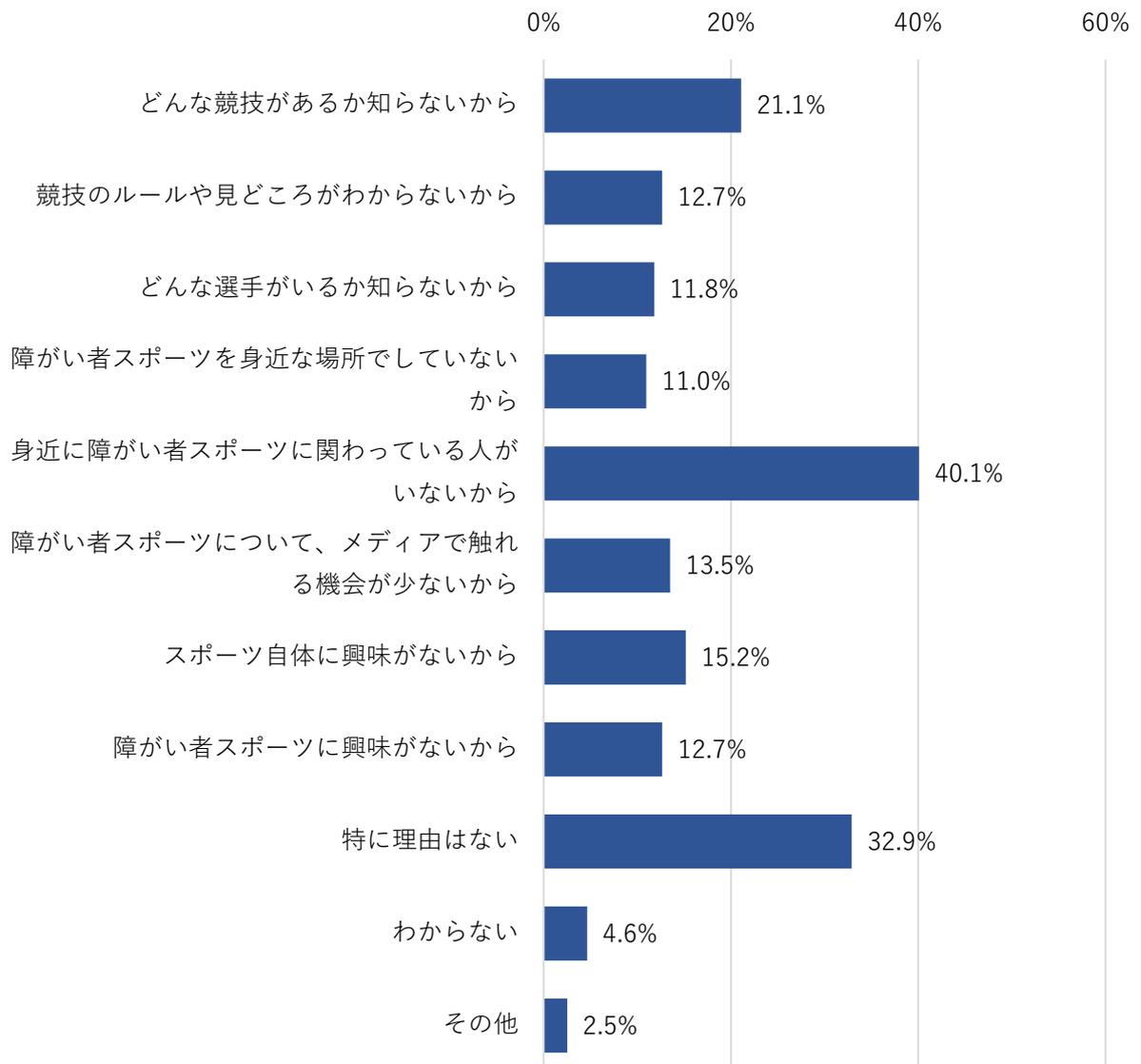
② 障がい者スポーツに関心を持ったきっかけ (n=324)

障がい者スポーツへ「関心がある」または「やや関心がある」と回答された方において、関心を持ったきっかけは、「テレビやインターネットなど、メディアでの中継・配信・報道を見たから」が最も多く 32.1%、続いて「東京 2020 パラリンピック競技大会を見たから」が 24.1%となった。



③ 障がい者スポーツに関心がない理由 (n=237)

障がい者スポーツへ「あまり関心がない」または「関心がない」と回答された方において、関心がない理由は、「身近に障がい者スポーツに関わっている人がいないから」が最も多く 40.1%、続いて「特に理由はない」が 32.9%となった。

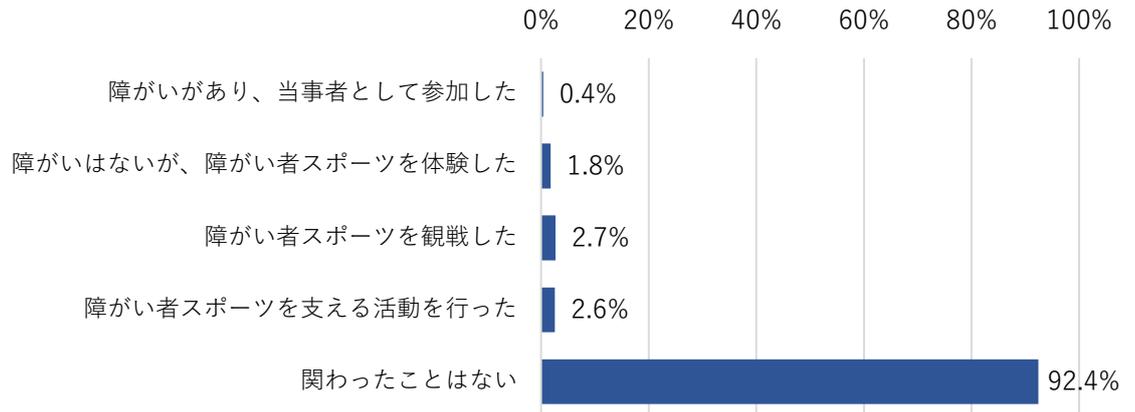


④ 障がい者スポーツに関わった経験の有無

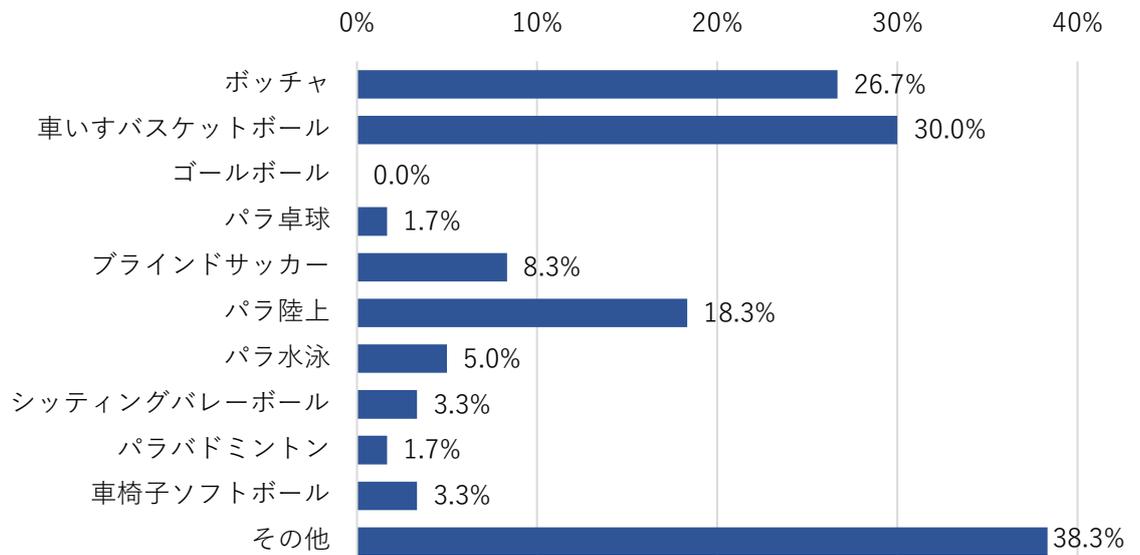
障がい者スポーツ（パラスポーツ）に関わった経験は、「関わったことはない」と回答した方が92.4%と特に多かった。

関わった経験がある方のうち、関わった競技は、「その他」を除くと「車いすバスケットボール」が最も多く30.0%、続いて「ボッチャ」が26.7%、「パラ陸上」が18.3%となった。なお、「その他」の回答例として、グラウンドゴルフやブラインドソフトボール等が挙げられた。

■ 障がい者スポーツに関わった経験の有無 (n=669)



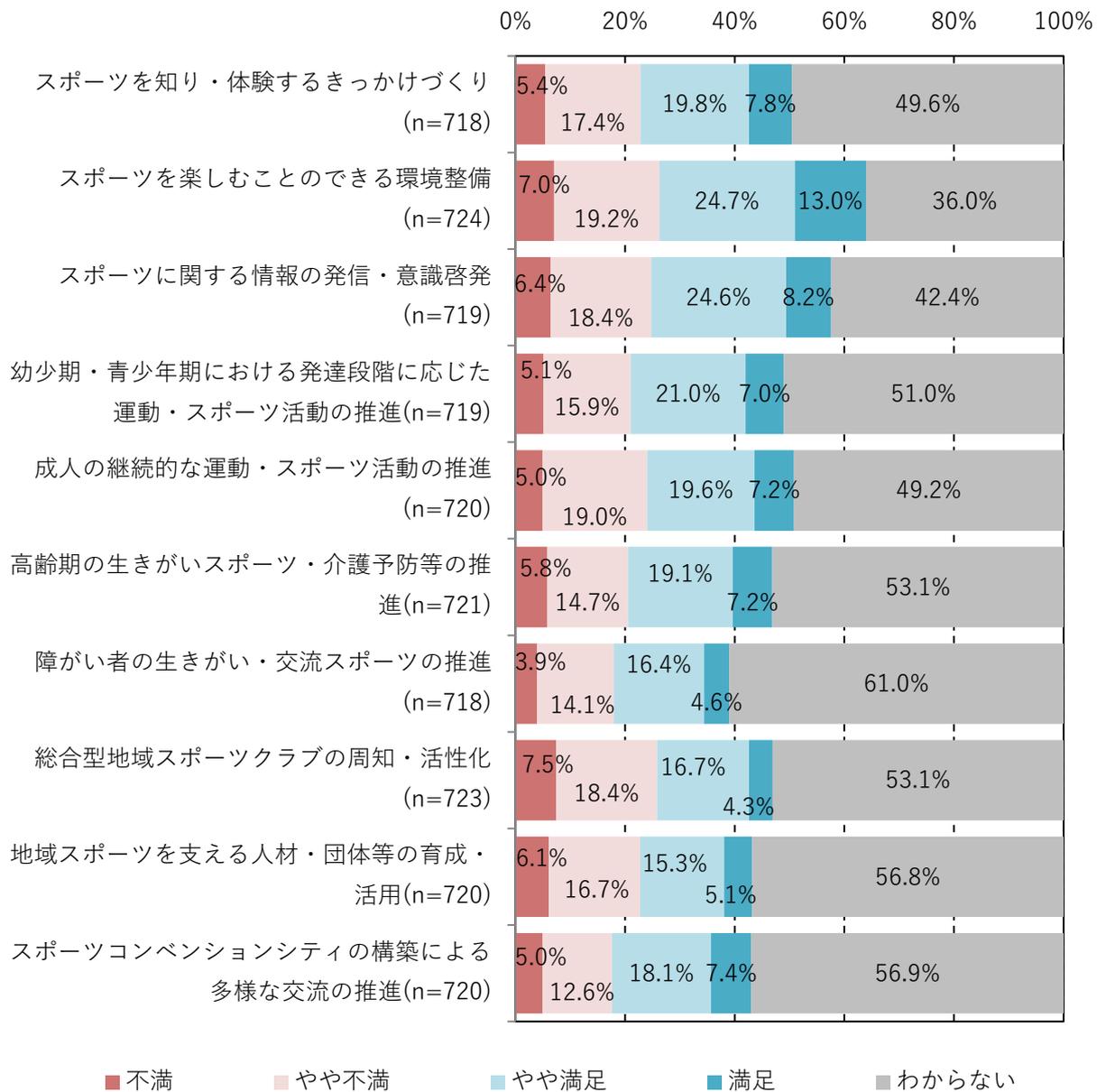
■ 関わった競技 (n=60)



市のスポーツ推進について

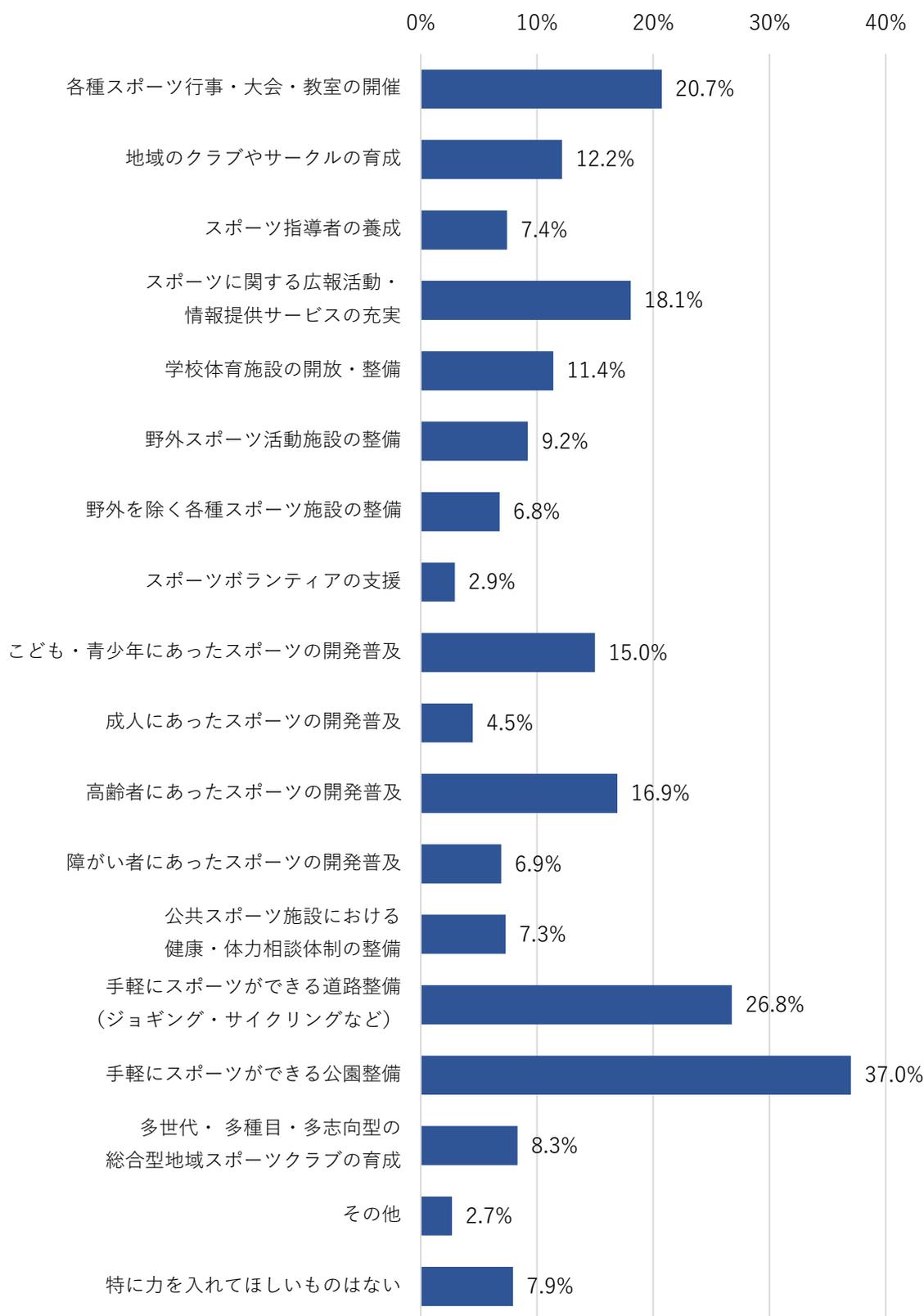
① 市のスポーツに関する取組の満足度

市のスポーツへの取組状況について、以下の項目ごとに満足度をうかがったところ、以下の通り回答が得られた。“スポーツを楽しむことのできる環境整備”は「不満」または「やや不満」と回答した方が26.2%で最も多かったものの、「やや満足」または「満足」と回答した方も37.7%と最も多かった。



② 力を入れてもらいたい取組

今後、市に力を入れてもらいたい取組は、「手軽にスポーツができる公園整備」が最も多く 37.0%、続いて「手軽にスポーツができる道路整備」が 26.8%、「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」が 20.7%となった。



沖縄市スポーツ推進計画

令和6年3月

編集・発行

〒904-8501 沖縄県沖縄市仲宗根町26-1

沖縄市 経済文化部 観光スポーツ振興課

098-923-3475

